

752-27



1200501594630

27

モスコー都市計畫の全貌

東京市役所発行

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



328

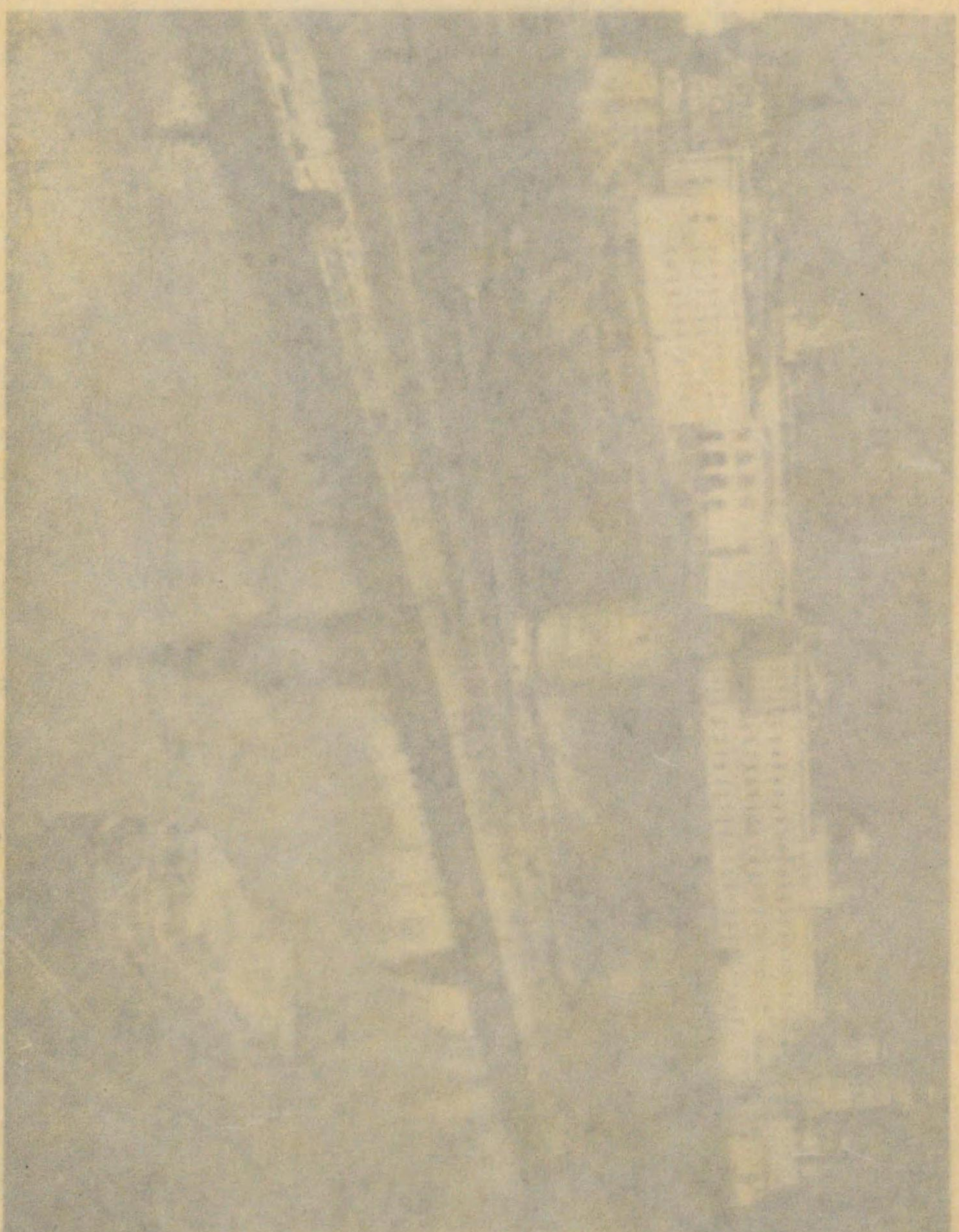
75
2

第四輯

昭和十三年三月

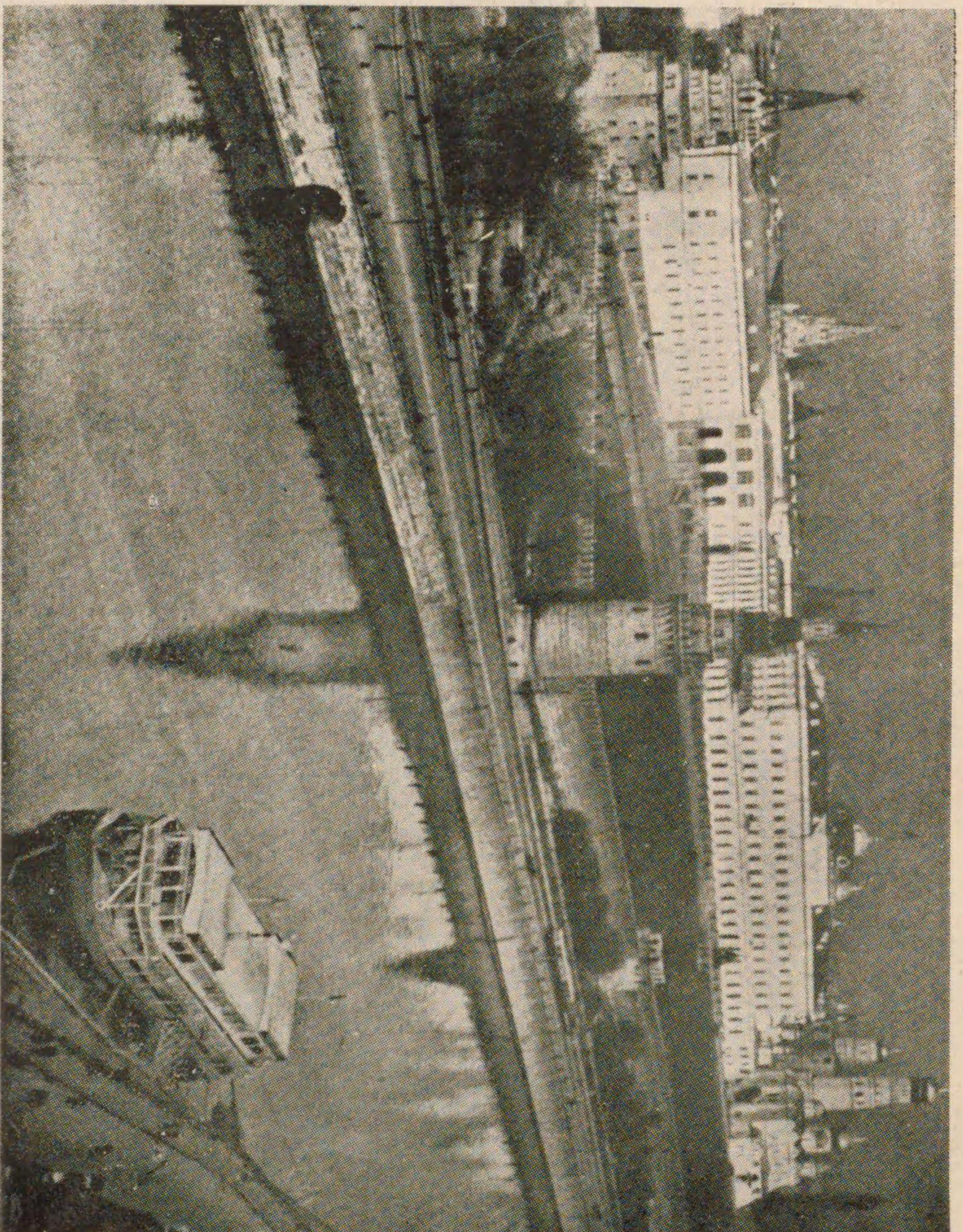
モスコ―都市計畫の全貌

東京市役所



む望を殿宮ソリムレクらか河ーコスモ

殿宮の地は憲法改正内外の形勢を、し位に心中のーコスモは殿宮ソリムレク
でつまにソリータス亦も憲法改正市ーコスモな大柱の彼。るれさ定決で中の
るあでのた具を定決の其年五三九一



む望を殿宮ンリムレクらか河ーコスモ

殿宮の此で總は策政外内の邦聯ソ、し位に心中のーコスモは殿宮ンリムレク
てつよにソリータータス亦も畫計造政市ーコスモな大魁の彼。るれき定決で中の
。るあでのた具を定決の其年五三九一

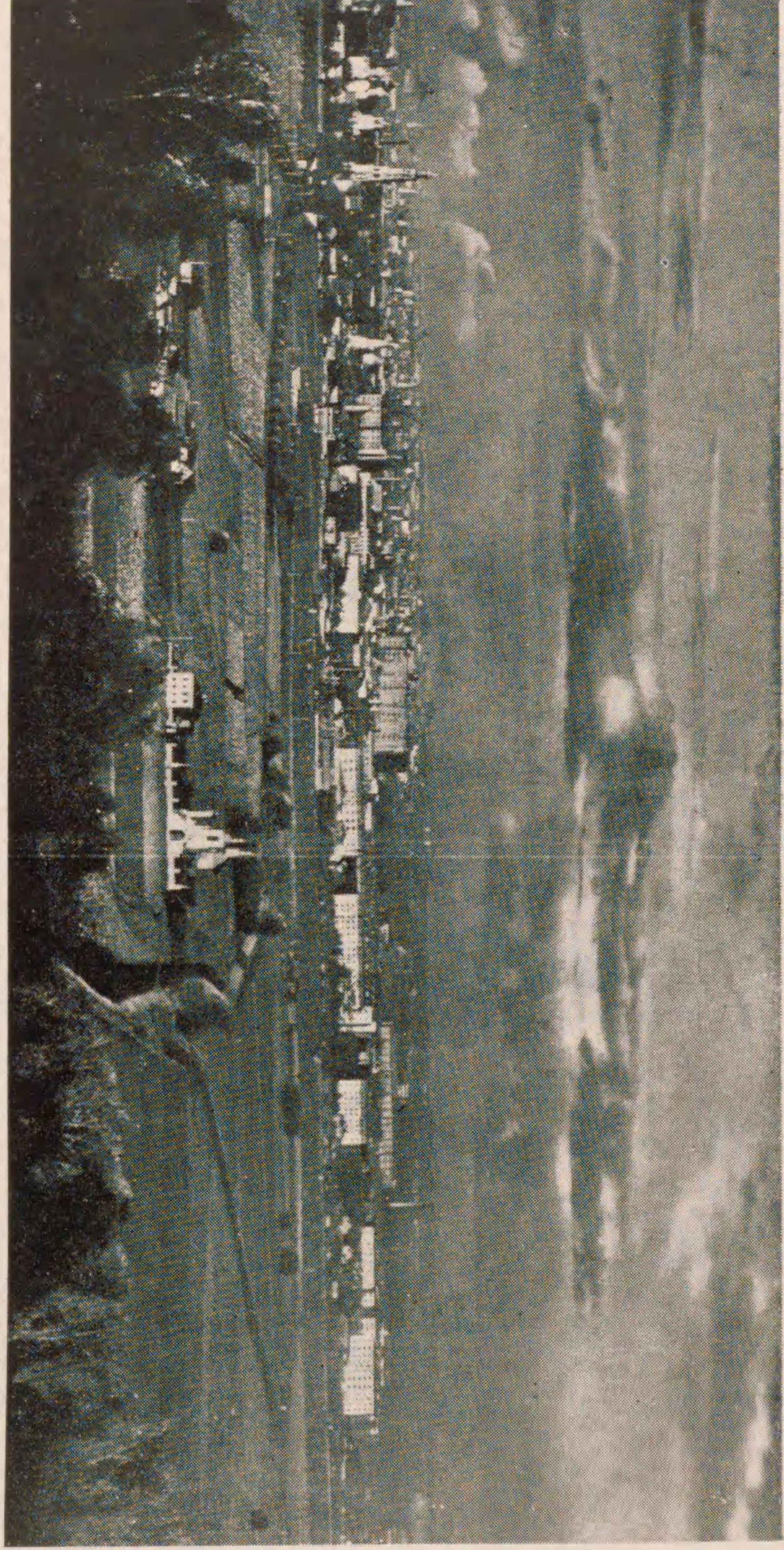


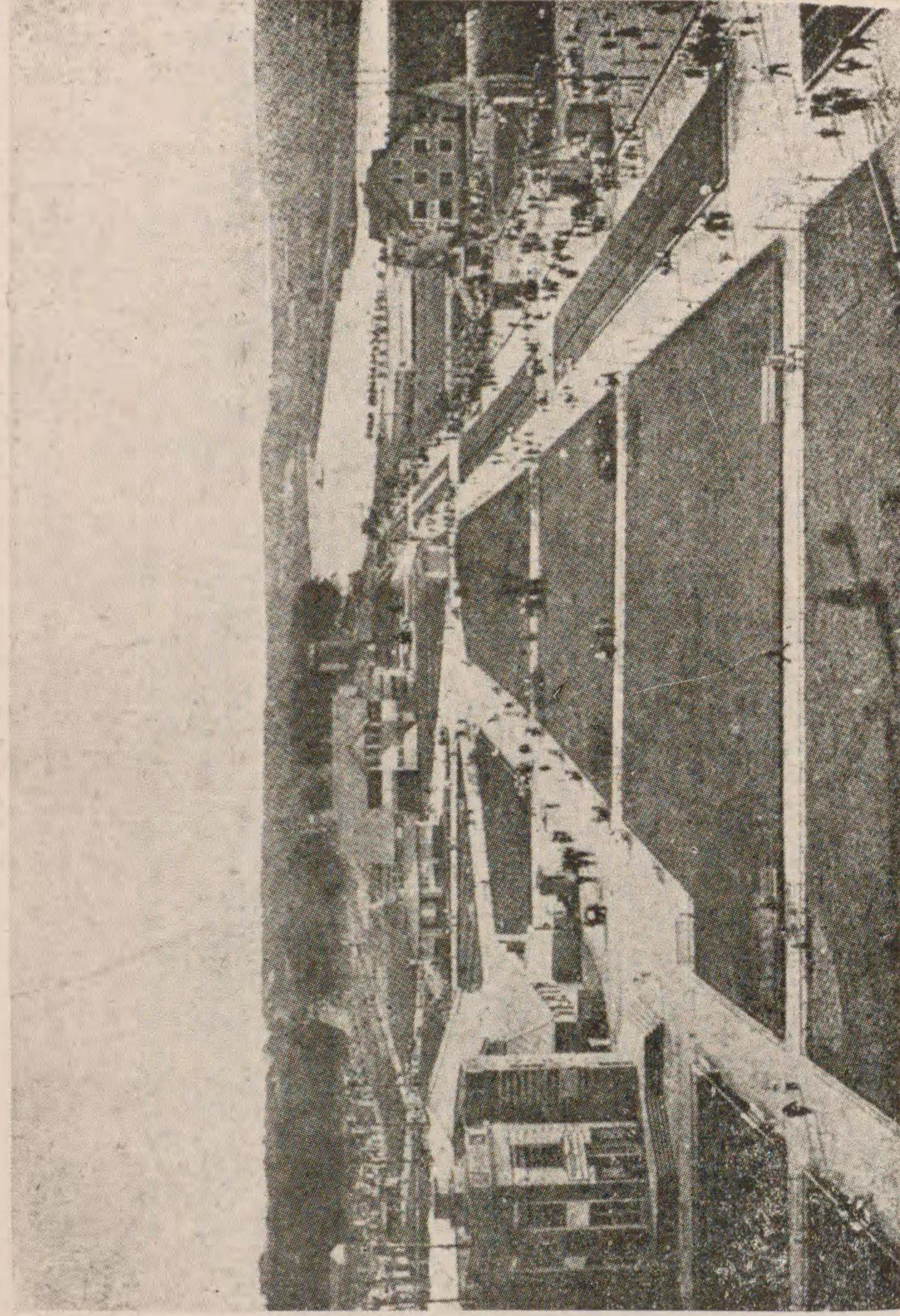
場 廣 念 記 フ ロ ド ル エ ヴ ス

、れは云と場廣場劇はて曾は場廣フロドルエヴスぐ次にし場廣い赤して於ににーコスモ
都及空防市都はで日今。たつあで所なかや脈に誠としてと點絡連な要重の關機通交つ且
。るあ、つれさ造改くし新らかか面方の美市

る。に市に面方の此てしてしと主は市ーコスモ、し位に方南西の市は丘ーキスソニーレ
成を地の勝景たれま甚にに水とと地線く高地土は帶ー近附の此。ふ行を張擴の域

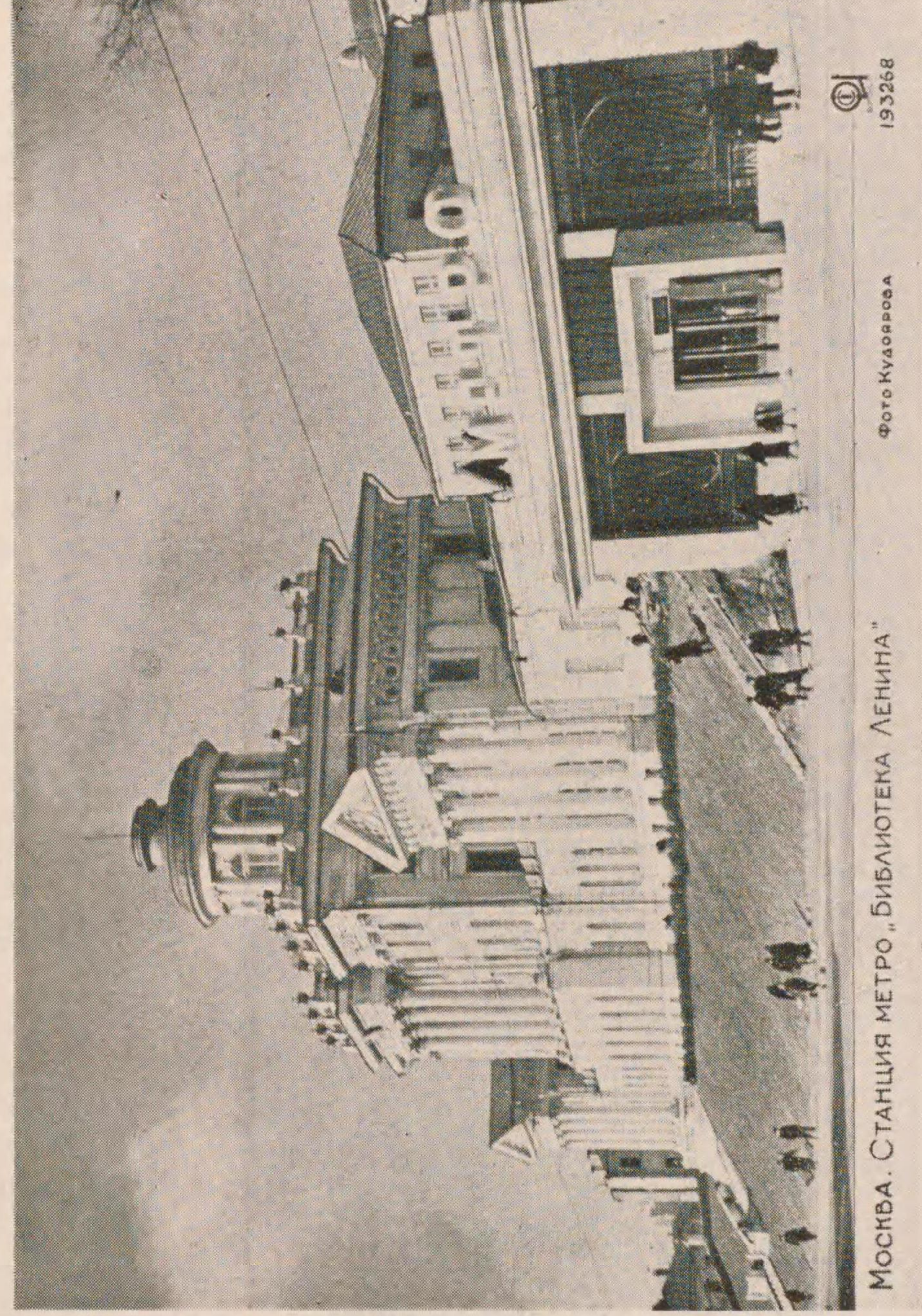
む望をクーニチール及ーコスモらか丘ーキスソニーレ





園公の息休と化文念記ーキリゴ

、へ考を康健の民市は府政聯ソ日今、てしに園公るれは云とつ一の所名ーコスモモは之
に單はに中の園公の此。るゐてし設建く多に市都各を「園公の息休と化文」たしうか
。るゐてれき施もを設施化文、ずらなみの設施樂娛



МОСКВА. СТАНЦИЯ МЕТРО „БИБЛИОТЕКА ЛЕНИНА“

Фото Нудасова

193268

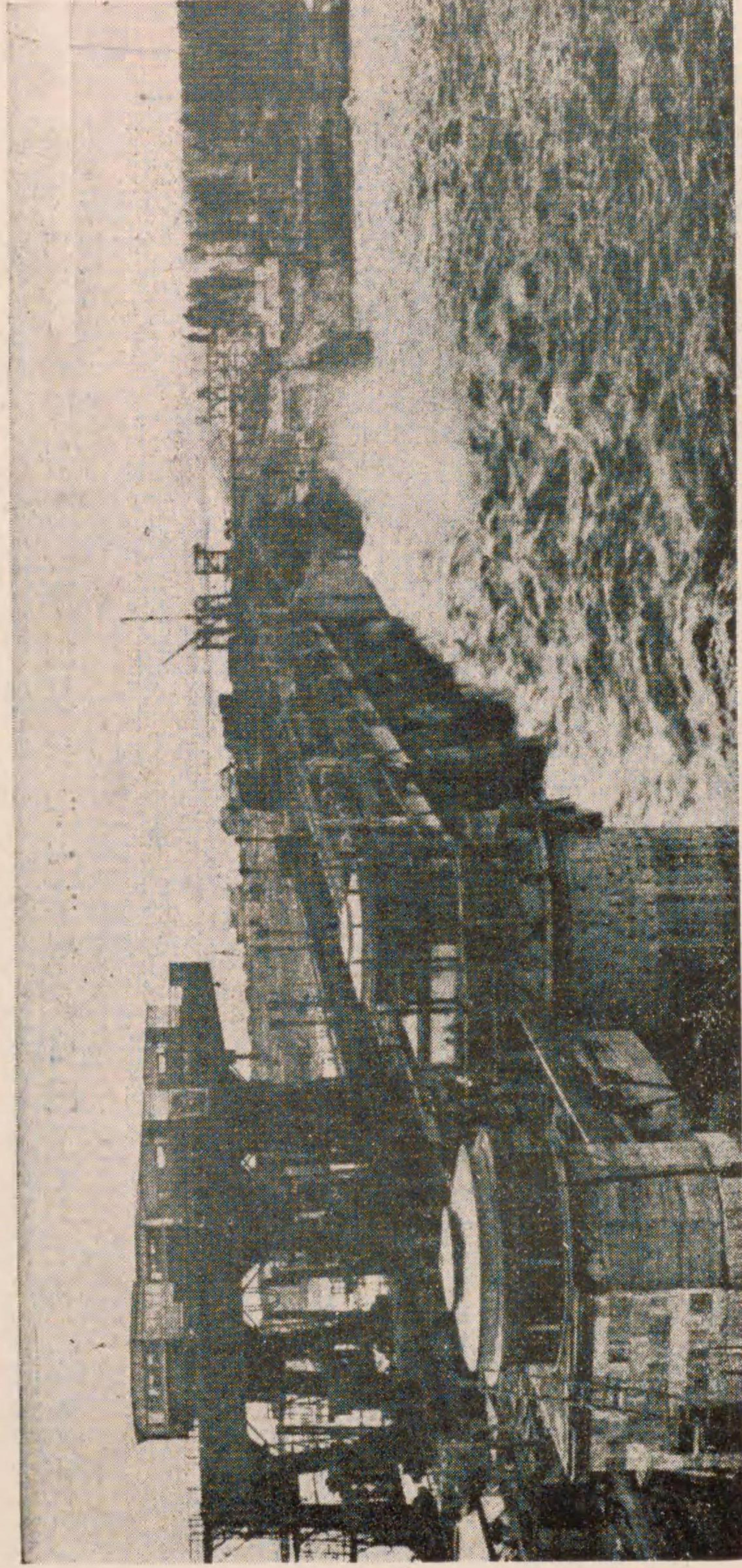
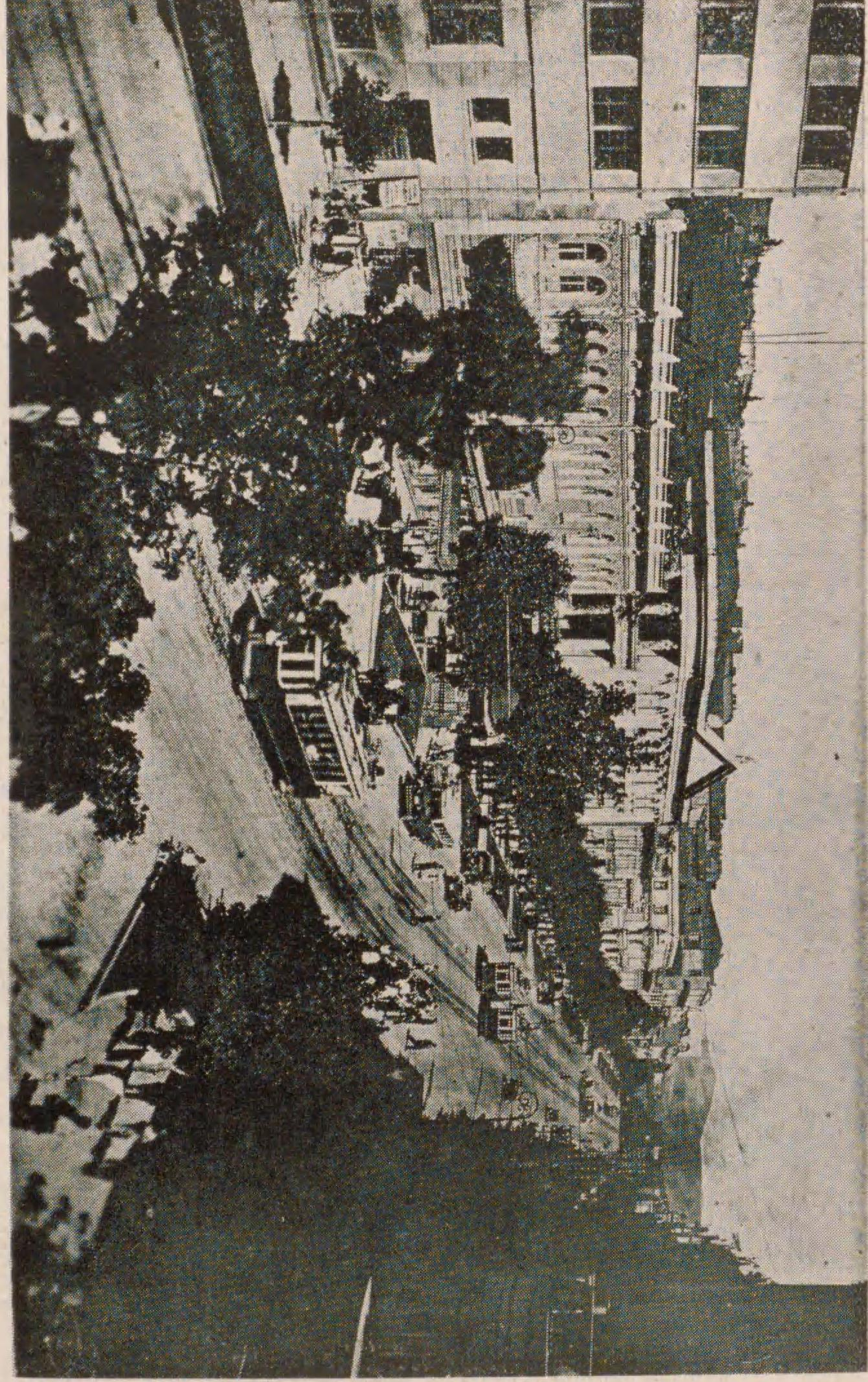
場車停鐵下地ーコスモモ

設建の其、ずらなみの爲るす和緩を離通交のーコスモモに單は設建の鐵下地ーコスモモ
三九一。るす有を係罷な大重てめ極に畫計市都の來將及榮繁の市ーコスモモは何如の
下地ーコスモモ。ふ云とるゐてしとんせ行施を事工期三期三第日今、れき始開を設建年二
。るあでのるゐるに導指の接直チツイヴノガカ員委員人通交は鐵

。照參文本は細詳。るあハツ

れき造改てしと路街心中要主在現、し成を路狀環要主のーコスモい舊

路 狀 環 や フ ド サ



河 運 ガ ル オ ヴ ・ ー コ ス モ

を人因のく多は府政聯ソを設建の河運ガルオヴ・ーコスモたつ終に敗失はてて企か度幾間い永
之てしてに米五・五度深、料八二一長全の河運該。ふいとたし了終を之てしてに半年ケ四てし使階
帯々地綫、溉灌の線沿河運、實充の網通交路水、大增の量水給のへ市ーコスモは義意の設建が
。るゐてして有を制役な大重てめ極に上畫計市都ーコスモ他其定設の

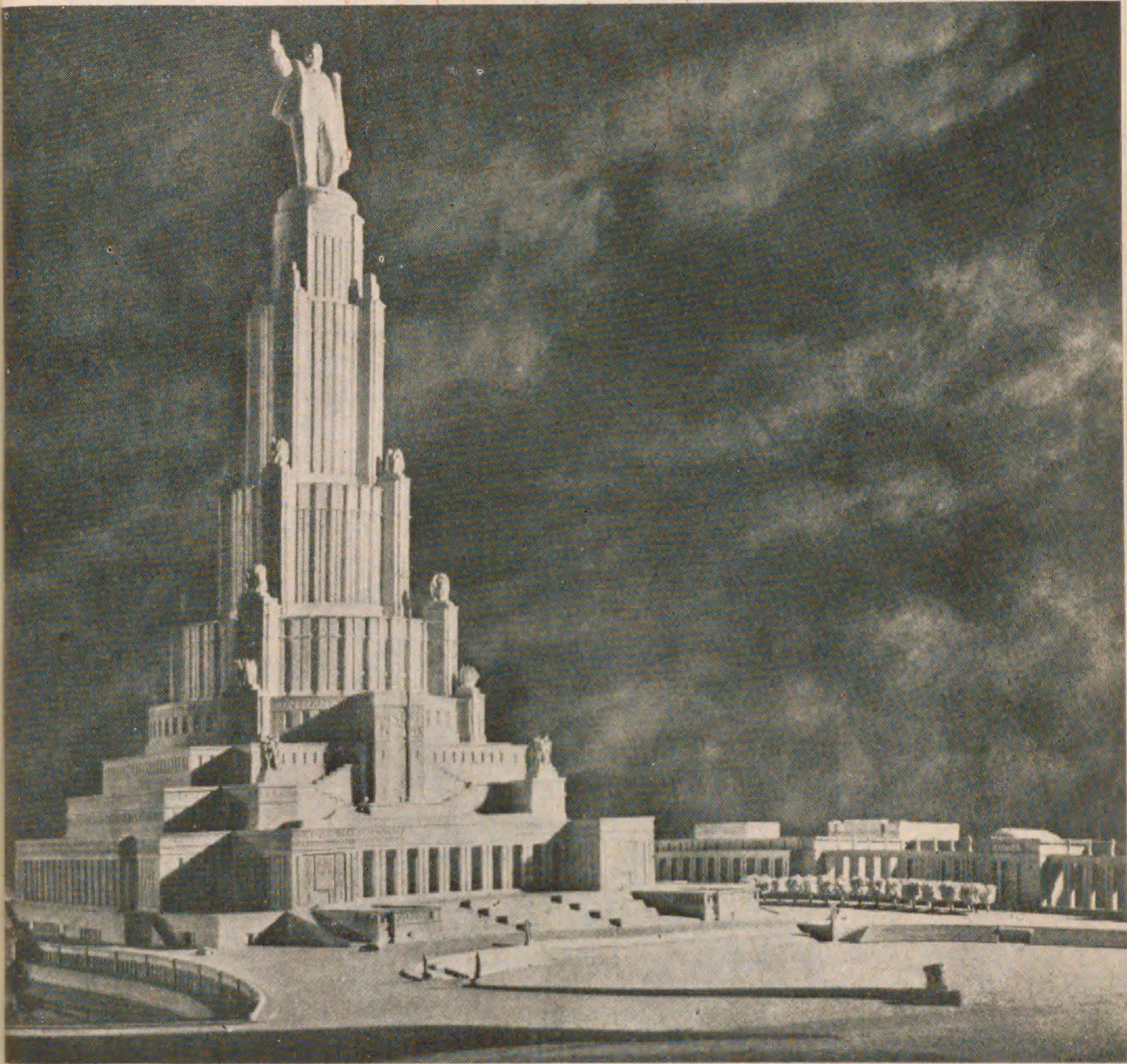
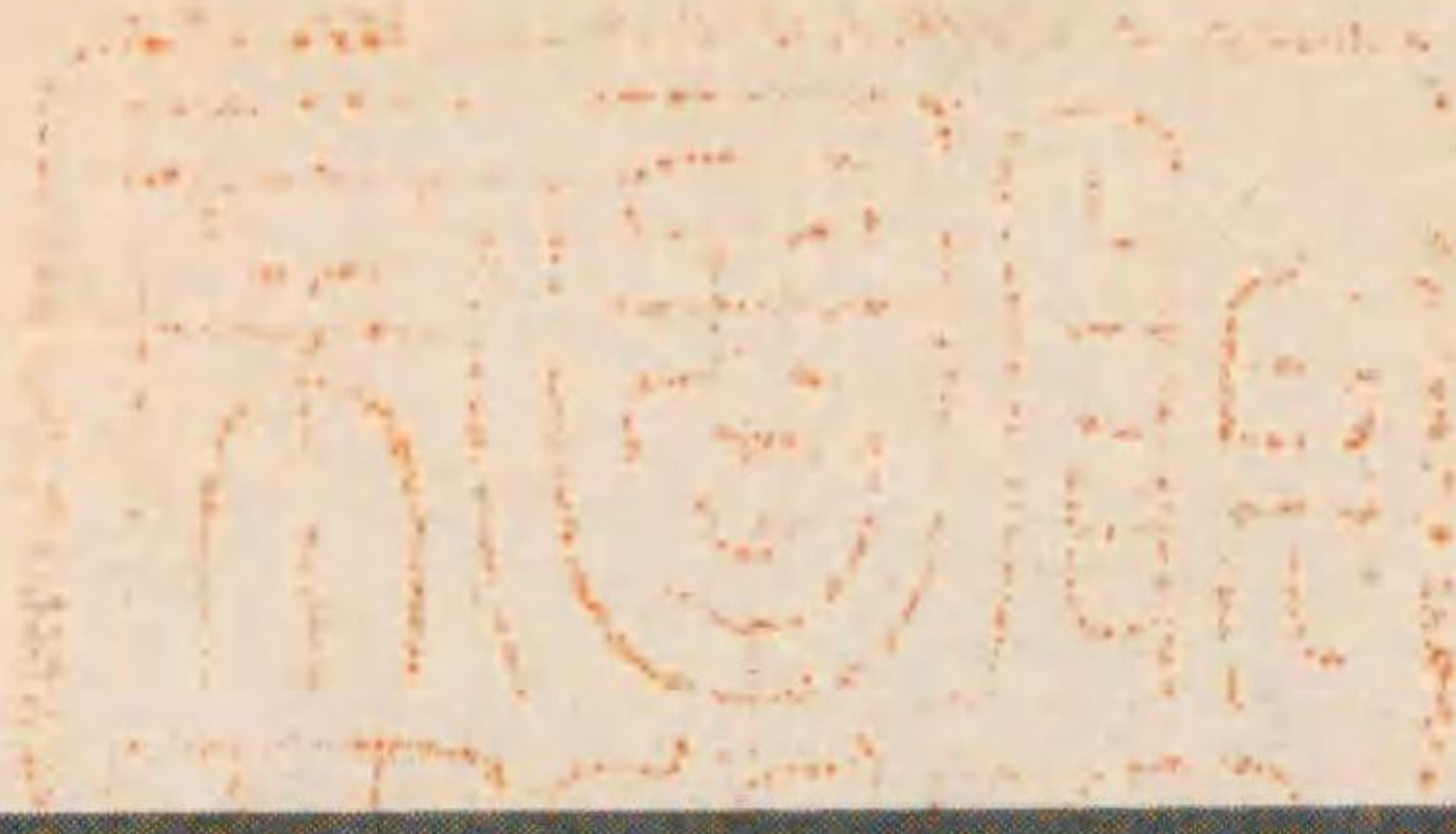
752
27

序

ソヴェート聯邦は革命以來二十年の歲月を閲した今日に於ても、依然謎の國、秘密の國として其の真相を把握すること困難とされてゐる。此の間ソヴェート政府は國民の生活を犠牲にして、次から次へと五年計畫の一路を辿り建設への途を驀進し來つた。而して其の成果が如何にもあれ、凡ゆる方面に亘り著しい變化を顯現してゐることは、何人とも雖も否定することを得ないであらう。

地球表面の六分の一を占める尨大なソヴェート聯邦を統制する首都モスコーは今や曾ての「聖なる都」から「建設の都」へと其の形相を一變せんとしてゐる。歐洲諸都市に比し、甚だしく立ち遅れてゐた古いモスコーは新しい體制の下に、内容、形式共に晝夜改造されつつある。例へば曩には世界一を誇示するメトロが建設され、又近くは從來夢想とされてゐたモスコー・ヴォルガ運河の開通を見る等モスコーの都市計畫が其のスケールに於て如何に廣大なるかを窺ひ知るを得よう。

モスコーは一九三五年政府決定に係る改造計畫に準據して、今後十年間を期して改造されんとする。内外多事多端なソヴェート政府が斯様に大規模な都市計畫を豫定通り實現し得るかは疑ひなきを得ない。然しモスコーの現状及將來の計畫を知悉しおくことは何等かの意味に於て參考となるべく即ち本書を刊行してモスコー都市計畫を紹介する所以である。



(案畫計) 殿宮トーエヴソ

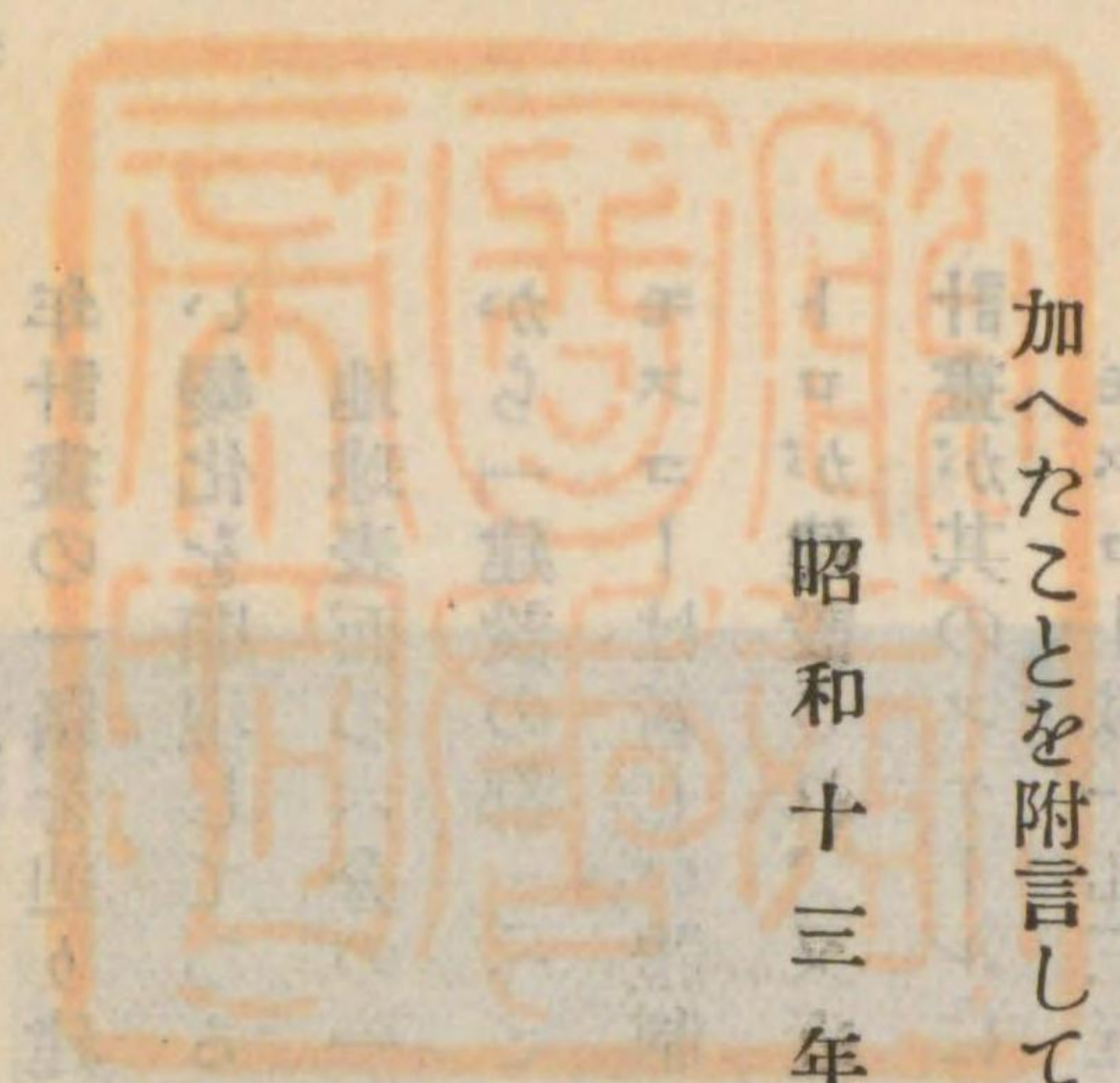
トーエヴソるれは云と設建な大巨ぐ次に河運ガルオヴ・ーコスモ、ロトメ・ーコスモは府政聯ソ設敷が通大の條敷と場廣大はに近附、てしにもな大宏る頗は殿宮該。たし手着に築建の殿宮。るゐてつ誇は家築建聯ソとるす現出が被天摩の大最界世は曉の成完が之、れさ



茲に譯出せる原書は一九三六年政府發行の
（Генеральный план реконструкции Города Москвы）にして、モス
コー都市計畫に關する最も貴重な文献の一である。
尙之が邦譯に付ては東京外語露語科出身の高松文可氏に委嘱し、東京市都市計畫課に於て多少の修正を
加へたことを附言しておく。

昭和十三年三月

東京市企畫局都市計畫課長 林 茂



半博覽の...
も詳細する...
ンペー...



モスコー都市計畫の全貌

目次

一、モスコー都市計畫に關するソヴェート政府の根本方針.....	一
(一) モスコー都市計畫.....	三
(二) モスコー市の建設と市經濟の改造.....	一三
二、モスコー市計畫決定に關する經過報告.....	二〇
三、モスコー市發達の變遷史.....	二四
(一) モスコー市の地勢.....	二四
(二) 革命前のモスコー.....	二五
(三) 革命後のモスコー.....	三五
四、モスコー市改造の基礎問題.....	五一
五、モスコー市計畫一覽.....	六〇
六、モスコー市に編入さるべき新地域.....	七一

七、モスコー市主要幹線道路の改造……………頁

八、住宅建設及び文化的、社會的建設……………二〇

九、動力問題……………二二

一〇、運輸問題……………二五

一一、給水問題……………二六

一二、下水問題……………二〇

一三、モスコー市主要幹線街路の説明……………二五

一四、モスコー市主要幹線街路の改造……………二〇

一五、モスコー市主要幹線街路の改造……………二〇

一六、モスコー市主要幹線街路の改造……………二〇

一七、モスコー市主要幹線街路の改造……………二〇

一八、モスコー市主要幹線街路の改造……………二〇

一九、モスコー市主要幹線街路の改造……………二〇

二〇、モスコー市主要幹線街路の改造……………二〇

モスコー市情畫の全貌

目次

モスコー都市計畫の全貌

一、モスコー都市計畫に關するソヴェト政府の根本方針

幾世紀といふ永い間自然に發達して來たモスコーは最も繁榮を謳はれた時代に於てすら野蠻なロシヤ・キャピタリズムの俤を残して居た。街路は狭く、曲り、街衢は無數の横町や袋路によつて到る處切斷され、中心及び其の周圍の建物は雜然と立ち並び、中心には小工場、倉庫密集し、家屋は悉く低く、古く朽廢し、加ふるに之等が極度に無秩序の混亂状態を呈し、更に諸企業、鐵道輸送、經濟及消費各部門の配置は亂雜の限りを盡してゐた。かゝる状態は急激に發達して行く都市のノーマルな生活、就中都市の交通を阻害すること甚だしいものがある。茲に於てか根本から其の合理的改造が要求せられるに到つた。

全露共產黨中央委員會及びソヴェト聯邦人民委員會は次の如く定めた。一九三一年の全露共產黨中央委員會六月總會の決定に基きモスコー市經濟改造事業は廣汎に展開され、其の結果都市勤勞者の生活状態は著しく改善せられるに到る。即ち地下鐵、モスコー・ヴォルガ運河の建設、最も重要な都心の街路及び廣場の擴張、花崗岩による河岸道の築造及び道路の完全な舗裝、公共建築物、住宅、學校、工場炊事場、共同食堂、機械化せるパン工場及冷蔵庫の建設、煖房裝置の整備、住民に對する燃料の公平な分配、給水事業の發達、都市清掃事業の改善等が之である。

現在進行途上にあり、更に近き將來に於ける敍上の大規模なモスコー市經濟改造事業は既に決定せる都市建設計畫に特殊な意義を與へるものである。何んとならば單一プランに依るに非ざれば、モスコー市建設の廣汎に亘る展開は今後に於ける



都市生活と都市改造をして愈々複雑に導くからである。現地域の外に新しい都市を建設し、現在の都市を昔ながらの保守的な、博物館のやうな都市として其の儘に存置するといふ案は全露共産党中央委員会及ソヴェート聯邦人民委員会の採らざる所である。更に錯雑せる都市を取毀し、其の場所に全然新しいプランに依つて都市を建設するの案亦全露共産党中央委員会及ソヴェート聯邦人民委員会の採擇せざる所である。全露共産党中央委員会及ソヴェート聯邦人民委員会の方針とする所はモスコイ市計畫の決定に當つては歴史的に複雑せる都市の基礎は其の儘とし、都市の街路網及廣場網を根本的に統制し、以て徹底的に再計畫を成すことに在る。住宅、工業、鐵道輸送並に倉庫の適切な配置、都市の給水、健全な市民生活に適應する諸設備を具有する住宅街區の整備、之等は該改造計畫の主要な條件を爲すものである。

全露共産党中央委員会及ソヴェート聯邦人民委員会の方針に依れば都市改造計畫事業に於ては廣場、幹線道路、河岸通、公園等の綜合統一せる建築構成を考慮し、更に又住宅、公共建築物の建築に際しては古典的建築及現代建築の粹を集め、同時に建築技術の蘊奥を最高度に利用することに努めなければならないとする。種々な方面に都市を切斷してゐるモスコイの丘陵の多い起伏地、モスコイ河及ヤウザ河、更にレーニンスキイ丘、スタリリン記念公園、ソコリニチスキイ公園、オスタンキンスキイ公園、ヒムキンスキイ貯水池を有するボクロフスコ・ストレンネフスキイ公園等の都市の幾多の公園は雜然たる市内各地を統制してモスコイを眞の社會主義都市に改造せしめることを得る。

かゝる見地よりして全露共産党中央委員会及ソヴェート聯邦人民委員会は次の如く決定した。

モスコイ諸団体より提出せる左の一〇年間及最近の三年間を期してのモスコイ市改造計畫を是認すること。

(一) モスコイ都市計畫

1 モスコイ地域の限度及地域計畫の決定に際しては錯雑せる大都市の中心地に工場多數密集してゐる老大都市の創設は不合理であるとし、或はモスコイ市内に將來工場の新設を許さない一九三一年の全露共産党中央委員会六月總會の決定から出發すること。

之に關聯しモスコイ市成長の限度を制限し、地域の決定に際しては人口五百萬を目安とし市住民の生活的文化的要求（住宅、都市交通、給水及下水、學校、病院、商業網、食堂等）を充分満足せしめること。

2 現在の境界に於けるモスコイ地域は（二八、五〇〇ヘクタール）何處を見ても建築物密集し、人口の過剩を來たし、増大し行く都市人口の妥當な配置を不可能ならしめるを以て、地域を六萬ヘクタールに迄漸次擴大すること。

モスコイ地域の擴張は先づ差當り西南方から都市に接してゐる土地を地域に編入せんとする。其の土地はクンツエヴォカからレーニノ（以前のツアリーツエノ）迄約一萬六千ヘクタールの面積を有し、モスコイ河に沿ひレーニンスキイ丘の背後に存し、住宅地として最も健康的であり、市外地としては土地高く且つ便宜に富んでゐる。

水道、下水其他市民生活上必要とせられる公益施設を具備する新しい西南地區の建設に漸次着手すること。一〇年間の終り頃迄に面積約一萬平方メートルの新しい住宅を此の地區に建設すること。

此の外モスコイ地域の擴張は又同様に次に存する土地を地域に編入するのである。

(a) 市の東部に於ては、

イズマイロヴォ、面積約二、四四五ヘクタール。

ペローヴォ—クースコヴォ、面積約二、四〇〇ヘクタール。

(b) 市の東南部に於ては、

リヤザンスキー・シヨスとリユープリノ間に位し、約二、七三〇ヘクタールの面積を有するテクスチリシチーキ

リユープリノ、面積約一、六三五ヘクタール。

ノヴィンキーノガテイノ、面積約八一五ヘクタール。

(c) 市の西部に於ては、

テレホーヴォ、ムニョーブニキ、ハローシエヴォ、シチウキノ、面積約一、七〇〇ヘクタール。

(d) 市の西北部及北部に於ては、

トウシノ、ザハルコヴォ、アビアゴロドク、ホプリノ、リホボレイ、メドヴェドコヴォ及其他、面積約三、一〇〇ヘクタール。

3 都市建設の爲總計畫に於て決定せるモスコイ市外の凡ゆる地域を都市の豫備地として其の建設の成るに隨ひ之を市に編入すること。かゝる地域内の居住地は行政上モスコイ市ソヴェエト(モスコイ市役所の如きもの)に管理せしめ、又かゝる地域の建設に當つてはモスコイ市の場合に規定せると同様な土地區劃制度を速に施行し、他面該地域に於ける植樹の擁護並に保健衛生上に於て實際的手段を講ずるの義務を負はしめることとする。

農務人民委員會と提携して三ヶ月内にモスコイ市外の豫備地を市に編入する確定的境界及順序を決定し、此の問題に關する提案をソヴェエト人民委員會の決議にかけることをモスコイ市ソヴェエト及モスコイ州執行委員會に委任することとする。

此の地域の外側に半径一〇軒迄の森林公園地帯を創設する。之は平行に存する大きな緑地層から成り、都市に對しては清

淨な空氣の貯藏地であり、住民の爲には休養地を形成してゐる。以下の各種の線に沿ふて都心とかゝる緑地層とを更に緑地線を以て連結することとする。

(a) ソコリニチスキー及びイズマイロフスキー緑地層よりヤウザ河岸に沿ふて。

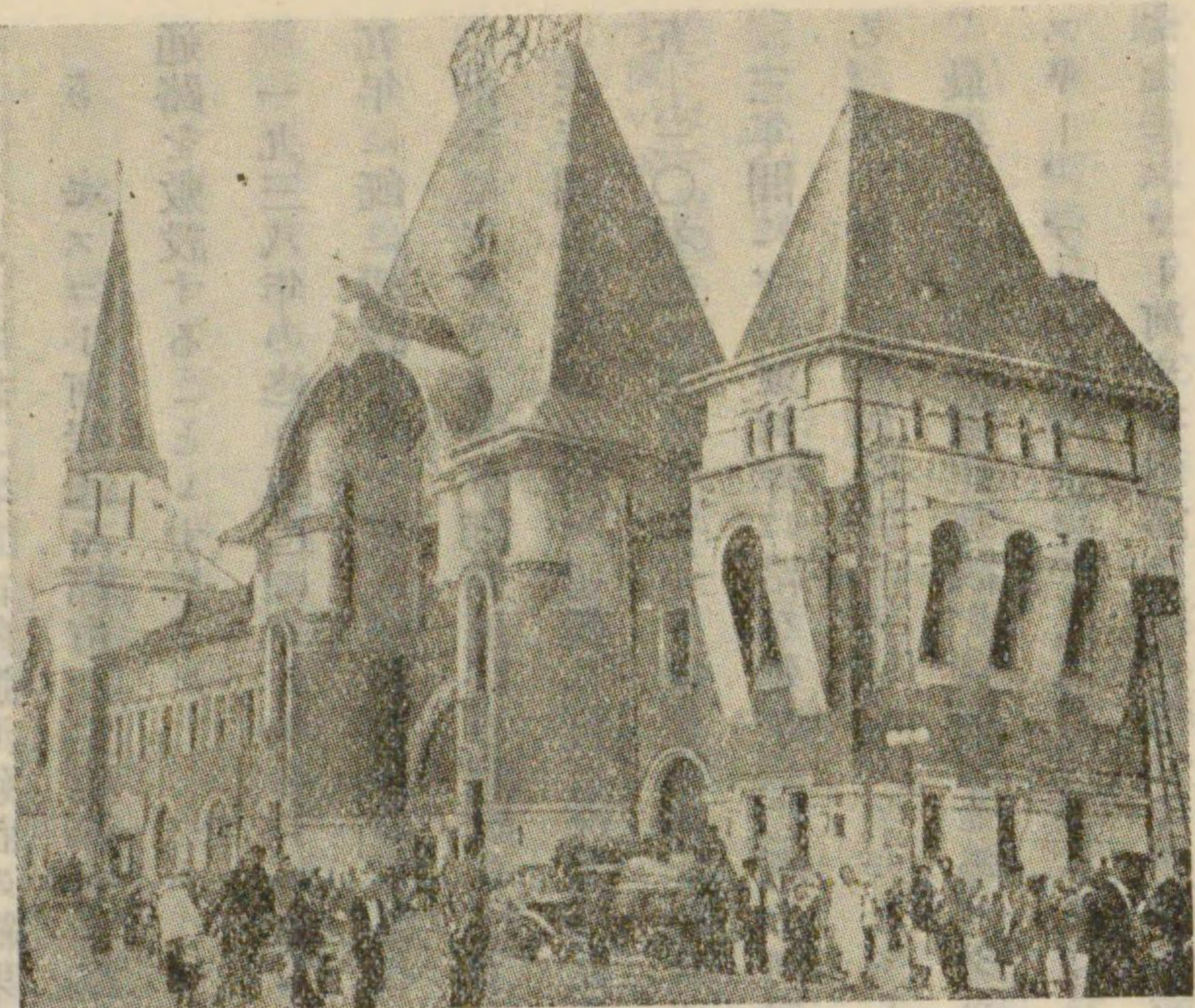
(b) レーニンスキー丘及びゴリキ記念公園よりモスコイ河岸通に沿ふて。

(c) オスタンキンスキー緑地層からサマチョーカ及びネグリンナヤに沿ふて。

市域に大きな緑地層を建設する外に更に各區に新しい公園やブリワール(遊歩道、慰樂道路に當る)を建設する。

サドワヤ及びブリワール(遊歩道)環狀路の都市ブリワール、レーニンスキー丘公園、スターリン記念イズマイロフスキー公園、ブノフ記念ソコリニチスキー公園、クラスノプレスニンスキー公園、オスタンキンスキー公園及びヒムキンスキー貯水池を包有する雄大なボクロフスコエ・ストレンネヴォ公園等を計畫し、且各種の施設を施すこと。

4 都市の給水に關してはヴォルガ・モスコイ運河建設の結果流れ来るヴォルガの水を最大限度に利用する。其の爲に二の環狀水路を創る



場車停イヌルベーセ

こととする。其の一はイズマイロフスキー公園、テクスチリシチーキ、モスコイ河畔のカジウホボ附近の南港を越へ、

東方運河に沿ふクリヤヂミンスキー貯水池からヒムキンスキー貯水池に向ふ。他の一はモスコウ河迄ヒムキンスキー貯水池とヤウザ河とを結ぶ北方市内運河建設の結果出来る水路である。

5 モスコウ河岸通を都市の主要幹線道路と成し、其の河岸は花崗岩で舗装し、且河岸通には全長に亘り見透しのつく大通路を敷設することとする。

一九三八年の終り頃迄にシエリビーハからカヂウホボ迄市内に於けるモスコウ河岸に沿ふ通りを花崗石で舗装し(一九三五年に既に建設され、現に建設されつゝある一八軒を除いて四六軒)、而して四〇―五〇米迄の幅員を有する此等の河岸通に沿ふてアスファルト舗装道路の敷設を終了すること。

三年間に排水溝の岸を延長八軒だけ(一九三五年に建設されつゝある河岸通を含む)花崗岩の河岸通でカバーし、幅員二五―三〇米迄のアスファルト舗装道路を建設すること。

三年間にヤウザ河岸に沿ひ延長二〇軒の河岸通を建設し、右河岸通に沿ひ幅員二五―三〇米のアスファルト舗装道路を創る。

最近の三年間に家屋建設を發展せしめ、クラスノブレスニンスキー、スモレンスキー、ドロゴミロフスキー、ベレジコフスキー、プリチャリヌイ、コテリニチスキー、ノヴォオスバスキー及ロストフスキー河岸通を、次に其の後一〇年間に於てはモスコウ河や排水溝の残存部分の河岸通並にヤウザ河口よりサドワヤ環状路に到るヤウザ河岸通の一部を整備すること。

一九三七年頃迄にはルーヂニク地区を計畫し右地区より小建築物を撤去せしめること。

一九三八年頃迄に排水渠の一角に存する小建築物を一掃し、其の場所にふさはしいチユリスキン救助記念碑を建立すること。

と。

排水作業、河岸強化工事及レーニンスキー丘に於ける地域計畫事業を施行すること。

モスコウ河及ヤウザ河の河岸通は給水を完成し、河岸は花崗岩を以て舗装し、更にアスファルト舗装道路の完成せられた時は生活上の便宜の點では最も恵まれた區域となるが故に、此の區域には住宅及公共建築物のみを建築すること。

6 街路の歴史的に複雑した放射環状組織は之を以て都市計畫の基礎とし、其の組織によつて中心の交通を緩和し、特別な通路がなくとも都心を越へて市内各區が直接に通じ得る様新しい街路を補充すること。

以上の見地から河岸通に平行しヂエルデンスキー記念廣場からソヴェート宮殿及ルーヂニクに向ひ、更に遠く棧橋の具備する特別に建築せられた橋に沿ふてモスコウ河及レーニンスキー丘を越へて新しい西南地區を通ずる大通(プロスペクト)とはソ聯邦に於ては一直線を成す新設すること。

ソヴェート宮殿の方向に沿ひ大通建設事業を繼續する爲、一九三六年にはフルンゼ記念通とアンチビエフスキー横町間の接續點に在るヴォルホンカ通を擴張し、又一九三七年頃其の建設を終了するモスコウ市ソヴェート・ホテルの正面に突出してゐる住宅地區は此の時期迄に取り拂ふこと。ソヴェート宮殿建設の時期迄にマホーヴァヤ及びマニョージナヤ街路間、更に又ヴォルホンカとベ・カーメンヌイ橋間の凡ゆる建築物は除去し、大通は官廳乃至社會的、科學的特色を有する建築物を以てカバーすること。

7 赤い廣場は二倍に擴張し、ノーギン記念廣場、ヂエルデンスキー記念廣場、スヴェルドロフ記念廣場及革命廣場等中心に存する廣場は三年間に改造し、以て廣場の美觀に遺憾なきを期すること。キタイ・ゴードロドからは個々の大きな建築物を除き現存する小さな建物を一掃し其の代りに國家的意義を有する數個の記

念建築物を建立すること。高臺を爲す丘陵の多い河岸（ザリヤデイ）から小さな建物は悉く取り除き、此の地區に「工業の家」の如き記念建築物を建設し、又河へ降る階段を設けること。

8 輸送に於けると同様、歩行に關しても、其の頻繁な交通を緩和する爲、幅員三〇—四〇米以上の現在の主要な放射、環狀幹線道路の改修並に擴張に着手すること。街路の擴張は建物を除去し、街路上の花壇及草地を速かに取毀して施行し、又或る街路に於ては街路に沿ひ植栽せられてゐたり、歩道の廣さを狭小ならしめ、或は交通を阻害する樹木も亦同様に取り拂はなければならぬ。（例へばメシチヤンスカヤ、カリヤーエフスカヤ、ドロゴミロフスカヤ、トウリスカヤ其の他の街路に於ける如く）

放射幹線道路と環狀道路の交叉點に於ては遊歩道の出口を閉鎖してゐる木煉瓦建築物を取り毀し、其處に作られる廣場を整備すること。

一〇年間に左の方面に沿ふて走つてゐる多くの街路及びさほど大きくない通路を結合し改修、擴張し、全市を貫通し夫々相交する三本の廣い街路を建設すること。

第一の街路はイズマイロフスキー公園から新しい西南地域に於けるレーニンスキー丘に到る。此の新しい地域はレーニンスキー丘に市公園を有し、此の線に沿ひベ・チルキゾフスカヤ、ブレオブラヂンスカヤ、ストロムイカ、ルサコフスカヤ、クラスノブルー下ナヤ、カランチフスカヤ、キーロフスカヤ通、テアトラリヌイ・プロエズ下、アホートヌイ・リヤド、マホーヴァヤ、ヴォルホンカ、オストヂエンカ、チウ下フカ、ハモブニーチスキー廣場の通及ベ・コチーク、ルーデニークの通が存する。

第二の街路はレーニングラツキー・シヨスに沿ふセフスビヤツキーからスターリン工場に向ふ。此の線に沿ふて利用せられてゐるものとしては、レーニングラツキー・シヨス、ゴリキー記念通、クズネツキー・モスト、ブシーチナヤ通、ノーヴオイ竝にスターロイ廣場、ソリヤンカ、ヤウズスカヤ、インテルナツエオナルナヤ、ラヂシチフスカヤ、ベ・カメンシチーユフ、ペロザヴォードスカヤ等の通、クルーチツキ障壁通、シモノーフスキ障壁通、ペロザボツカヤ通、チユフレイ・ブリワール等がある。

第三の街路は、マリーナ・コシチヤ、ロヂストヴエンカ、キタイ・ゴーロド、バルチツク、ベ・オルデンカ、エム・オルデンカ、リュシノフスカヤ通、ゼムリヤナヤ通、セルプウーホーフスキー・シヨスに於けるベ・トウリスカヤ通を越えてオスタンキンスキー公園から。

9 都心の廣場を除き、左の廣場は之を改造し、建築的見地より最上の建物を配すること。停車場附屬の廣場及之に通ずる道路、コムソモリスカヤ、キエフスカヤ等の廣場、クルルスキー及サラトフスキー驛の廣場、白露・バルチーツク驛の廣場、クレストワヤ關所の廣場並にサベロフスカヤ、アルバーツカヤ、スモレンスカヤ、ソヴェーツカヤ、プーシキンスカヤ、トリウムフアリナヤ、カムーナ、クルイムスカヤ、クラスヌイ・ヴォロト、タンガンスカヤ、クレスチヤンスカヤ、ブレオブラヂンスカヤ、オクチャブリスカヤ等の廣場、一九〇五年記念廣場、ダブルイニンスカヤ及カールヂスカヤ關所の廣場。

廣場の計畫並に築造に際しては、幅員の廣い通路を創り、通行禁止の自動車駐車を廣場に豫め創設することとする。

10 主として黨モスコイ委員會及モスコイ市ソヴェート提案の幾何學的に整備せる主要な幹線道路（赤線）は之を是認すること。

(a) 都市の東方及び東南方に放射街路を新設すること、即ちノーギン記念廣場よりブロームナヤ關所に向ふ通、ヤウズスキー門よりスターリン記念工場に向ふ通及びボクロフスキー門よりクルスキー驛に到る通を創設すること。
 (b) ノヴォ・キエフスカヤ及びノヴォ・アルバツカヤ等の如く建築物の密集し交通頻繁な古い放射街路に向つて平行した通を築造することとする。

11 以下に述べる新しい環狀幹線道路を敷設すること。

(a) 次の線に沿ふ中心の半環狀道路、即ちスパン・グリニシエフスキー横町、ベ・コムソモリスキー横町、フルカソフスキー横町、クヰネツキー・モスト、藝術劇場通路、クロボトキンスカヤ廣場へ出るアガリヨフ通。
 (b) ザモスクワレーチエに於けるブリワール(遊歩道)環狀路の延長。
 (c) 主としてカメル・コリシスキー障壁を利用する新しいブリワール環狀路。
 (b) オスタンキノ、ソコロニキ、イズマイロヴォ、ヴェデンスキー丘、レーニンスキー丘、ルーヂニーク、クラスノプレスニンスキー公園、ベトロフスキー公園及テイミリヤジフスキー公園等を結ぶ新しい公園環狀路の創設。

12 都心の輻輳する交通(輸送)を緩和する爲、都市の鐵道分岐點と各區を相互に直線により結ぶ次の道路工事を將來統制すること。

(a) 白露・バルチツク驛の廣場とコムソモリスカヤ廣場とを直線によつて結ぶ幹線道路。
 (b) 白露・バルチツク驛とキエフスキー驛の廣場とを直線により結ぶ幹線道路。
 (c) コムソモリスカヤ廣場とプロレタルスキー區のアベリマノフスカヤ關所とを直線で結ぶ幹線道路。
 (d) シェリビエーハイオクチャプリスカヤ廣場、スターリン記念工場の方向にあるフルンゼンスキー、レーニンスキー、

キエフスキー及プロレタルスキー等の區を直線に依つて結ぶ幹線道路。

既に決定した主要線を基礎として最近の十年間に編成せられる街路及廣場の詳細な建設プランを研究、且つ確定することを一ケ年の中にモスコイ市ソヴェートに委任すること。

13 五百萬市民の適當な配置及住宅地區の整然たる組織の爲に次の如き都市建築物及人口配置の根本方針を定めること。

(a) 新しいモスコイの街區の計畫と建築に際して、又他方同様に多數の横町が主要街路と交叉し且小さな家屋の密集する(五〇—六〇%)一・五—二ヘクタールの狭少な街區の代りに、現在のモスコイ街區の建直しに際しては九—一五ヘクタールの廣大な街區を創ること。

(b) 地區の照明と通風を改善する爲、相互間に若干の間隔を有する小數の大家屋によつて街區を定めること。

(c) 人口の密度を漸次低減せしめ、市域に建築物を建築すること。住宅地區一ヘクタールに對する平均人口密度が三五〇人であるに拘らず、サドワヤ環狀路内に於ては現在一、〇〇〇人乃至夫れ以上に及んでゐる。將來に於ては全市に互に一ヘクタールに付平均四〇〇人迄とする。住宅建築地として便宜に富む各區に於ては(例河岸通)人口密度は家屋の階數を増加することにより住宅地區一ヘクタールに對して五〇〇人迄は許容されることになつてゐる。

(d) モスコイに於て可及的に立派な外觀を必要とする幅員の廣い幹線道路及各地點に於ては(海岸通、廣場、廣い街路)高さ六階以上の住宅 及七—一〇—一二階のかなり高い家屋の建設を許す。

14 市住民に文化的的生活的施設を充分に利用させる目的を以て、多數の學校、診療所、食堂、兒童遊園地、託兒所、商店、運動場等の建設を実施すること。黨中央委員會及ソヴェート人民委員會は、以上の施設物を大きなアパート毎に設置し其のアパート内に居住する者に對してのみ獨占せしめることを不當としてゐる。黨中央委員會及ソヴェート聯邦人民委員會の方

針に依れば、學校、診療所、食堂、兒童遊園地、託兒所、競技場、映畫館、俱樂部、病院、劇場其の他凡ゆる種類の市住民の文化的生活的奉仕施設物は一個のアパート内に居住する者のみならず、多數のアパート内に居住する者への奉仕を考慮して多くの街衢の中心に設置することを要する。

15 莫斯科市域を正しく組織する爲、住民の生活の健康な状態を保證する爲に火災の點で最も危険なもの、衛生的状態に於て有害な工場、又他面都市の街路、廣場計畫を阻害してゐる小工場を漸次莫斯科市街から取り拂ふこと。

16 鐵道の車輛入替及修繕所、

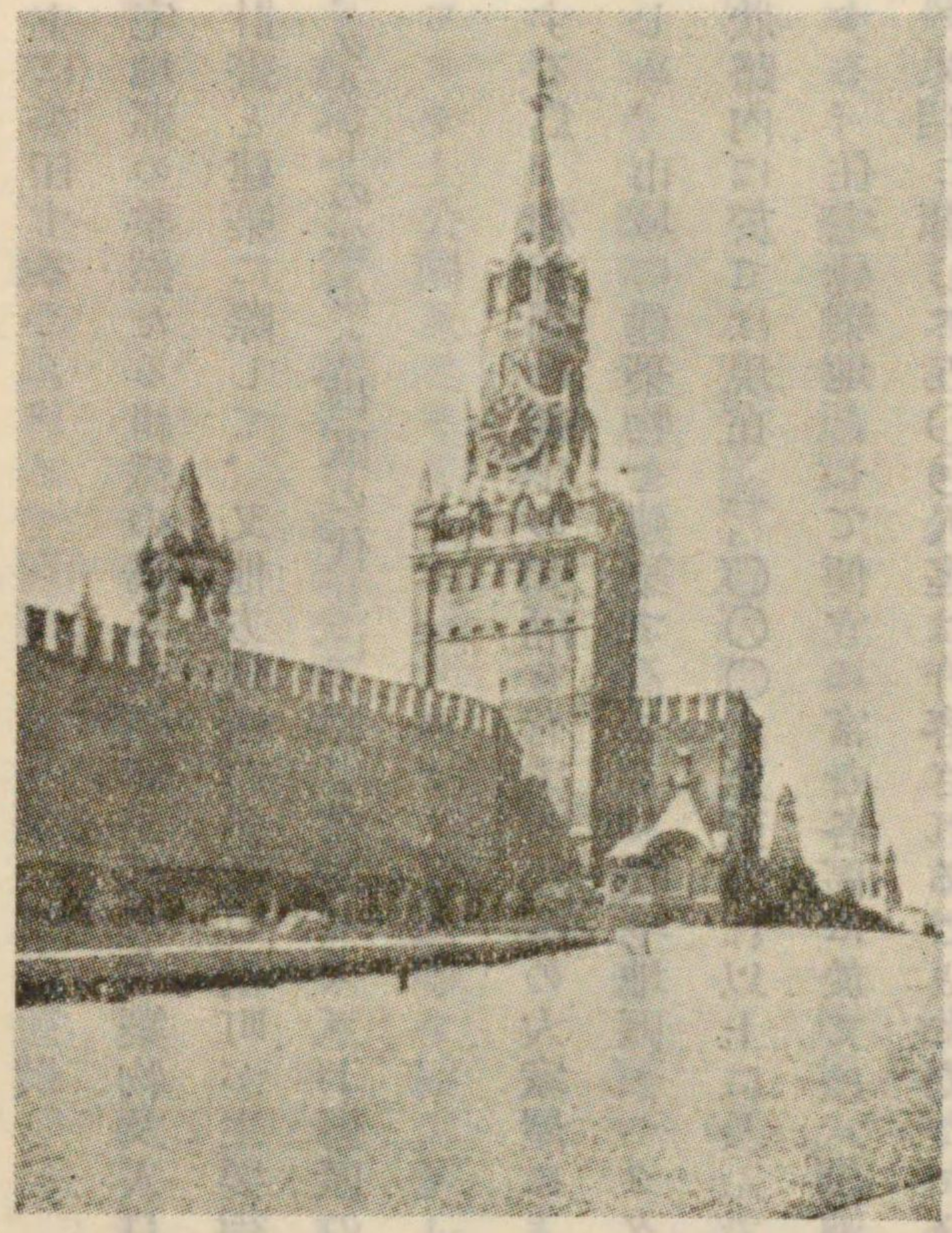
更に市内沿線に在る倉庫を漸次市外に移轉せしめて市の交通を緩和せしめること。

クルルスキー鐵道線路とオクチヤプリスキー鐵道線路とを連結するトンネルを先づ第一に建設し、莫斯科に集中する鐵道線路をトンネルを以て連結すること。

オクルーヂヌイ鐵道線路の一部

以上のプランに關聯して、莫斯科鐵道分岐點の改造事業の研究は交通人民委員會に委任することとする。

(二) 莫斯科市の建設と市經濟の改造



塔ヤカスパスのシリムレク

を現在の線から西南及東南の方向に移動すること。更に都市に於ける頻繁な貨物輸送を緩和する爲、市外に第二のオクルーヂヌイ鐵道の建設を將來實施すること。

莫斯科の鐵道分岐點に於ける交通は先づ第一に市外の交通を電化すること。

莫斯科市の擴張、計畫變更及建築構成に關する決定案を實現せんとするに當つては、先づ市民の生活及文化状態が急激に改善せられ、同時に市經濟が根本的に建直されることを必要とする。

依つて黨莫斯科委員會及莫斯科市ソヴェートの提出せる次の莫斯科市の建設並に市經濟改造案を一〇年間（一九三六—一九四五年）、特に最近の三年間（一九三六—一九三七年）に施行せんとするのである。

1 一〇年間に於ける莫斯科の住宅建設は面積一、五〇〇萬平方米（約二、五〇〇の家屋）と定め、其の最近三年間に於ては其の面積三〇〇萬平方米（家屋約五〇〇）と決定する。其の内譯は

- 一九三六年 八〇萬平方米
 - 一九三七年 一〇〇萬平方米
 - 一九三八年 一二〇萬平方米
- である。

右住宅建設計畫の二五%以上は莫斯科市ソヴェートの人力と資金に依り實現することと規定されてゐる。

2 四千人を收容する六つのホテルを新設し、此の外最近の三年間に於てはグラランド・ホテルの増築及アホートヌイ・リヤードに於ける莫斯科市ソヴェートのホテルの建設を完成し、更にキエフスキー驛廣場に於けるホテルの第二期建設を終了すること。

3 一九三八年の末頃迄には地下鐵建設の進行と平行して、莫斯科市内の乗客輸送を左の如く増加すること。

- 電車 二、六五〇臺迄
- トロリー・バス 一、〇〇〇臺迄

乗合自動車

一、五〇〇臺迄

タクシー

二、五〇〇臺迄

一〇年間に延長四〇〇軒に互る市電の軌道を敷設し中一〇〇軒は三年間に完成すること。都心に於ける地下鐵、乗合自動車及トロリー・バス交通の發達に伴ひ交通最も輻輳する街路から市電を撤去し、之を場末の街路に移轉せしめること。

4 角材及透化煉瓦によつて鋪裝し得られる地點は別として、街路を全幅員に亘りアスファルト鋪裝し、以て通路及市電の軌道間の鋪裝の不統一を清算すること。市内に於ける市電軌道はコンクリート、砂利の如き確固たる基礎の上に敷設すること。一〇年間に市内の凡ゆる街路及廣場を總べてアスファルトでカバーする目的を以てモスコイ市の一千萬軒の街路及廣場を完全に鋪裝する。而して最近の三年間に二百五十萬平方米に亘るモスコイの街路及廣場を完全に鋪裝すること。但し、モスコイ市の街路を完全に鋪裝するに先だち、原則として下水道の建設を行ふこと。

5 モスコイ河の兩岸の連絡を改善する爲に、及モスコイ河をヴォルガの大船舶が容易に航行し得る様に一〇年間にポロヂンスキー橋と同じ高さの十一の橋梁を新設し、又現在三つの橋梁は之と同じ桁下空間を有する様改造を加へること。而して上述の橋梁の中、現在の橋梁の補充として左の四橋梁を一九三八年の當初迄に新設すること。

- 1 パリシヨイ・カーメンヌイ
- 2 クルイムスキー
- 3 モスクワレツキー
- 4 クラスノホルムスキー

更に排水渠を越へる三つの橋梁、即ち

- 1 エム・カーメンヌイ
- 2 チウグンヌイ
- 3 エム・クラスノホルムスキー

又同じ時期迄にモスコイ河の現在の左の橋の桁下空間を増加せしめること。

- 1 ウスチンスキー
- 2 ノヴォオスパスキー
- 3 モスコイ白露バルチツク鐵道の橋梁

新しい場所に次の橋梁を建設する。即ち

- 1 レーニンスキー丘のルーヂニクから現市域と新しい西南地とを結ぶ爲の棧橋を具備する橋梁
- 2 ソヴェート宮殿からザモスクワレーチエ迄ブリワール環狀路を延長する爲にモスコイ河と排水渠とを跨ぐ二の橋梁
- 3 プロレタルスキー區とキーロフスキー區とを結ぶ爲、モスコイ河に架せられる橋
- 4 スターリン記念工場附近に現存するダニロフスキー木造の橋梁の代りに建てられる橋
- クレストフスキー、オスタポフスキー、ミチコフスキー及レーニングラツキー高架橋を建設すること、此の中クレストフスキー高架橋の建設は一九三八年に完成すること。
- 6 ヤウザ河及市内各貯水池の給水の爲に次の事業を実施する。

a 都市の北部にヒムキンスキー貯水池とヤウザ河とを結ぶ運河を一九三九年頃迄に築造すること。此の運河はヤウザ河と共に將來市内環狀水路を爲すに到る。

b ヤウザ河床を二〇—二五米迄に擴大すること。

c 市内の濠は總て清掃整備し、且つ之等に給水すること。

7 ヴオルガの水を引き入れ之を市民に供給すべく、即ちモスコイ水道建設準備の爲に、一九三七年には一晝夜二、五〇〇萬ヴェドロ迄（一ヴェドロは二・三^立、六^升・八一八に當る）、又一九三八年に到つては五、〇〇〇萬ヴェドロ迄ヴォルガの水を引込む能力のスターリン給水所の建設に邁進すること。其の後一晝夜五、〇〇〇萬ヴェドロのヴォルガの水を引込む能力の北方給水所を、次いで一晝夜二、五〇〇萬ヴェドロの能力を有するプロレタルスキー給水所を都市の東南部に建設すること。而してモスコイ水道の總能力を一九四五年頃迄に一晝夜一億八千萬ヴェドロ迄に進展せしめ、其の中一九三九年頃迄に一億六百萬ヴェドロ迄増加せしめること。

8 モスコイ下水現在の不備を一掃すべく、又下水發達の爲にも、給水施設計畫を基礎として次の事業を實現せしめなければならぬ。

a 下水を淨水に還元すべき發電所に流し込む水運河の能力を一九四五年頃迄には一晝夜一億二千萬ヴェドロ迄に、一九三九年頃迄には九千萬ヴェドロ迄増加せしめること。

b 一九四五年迄に淨水發電所の總能力を一億萬ヴェドロ迄、最近の三年間に於ては一晝夜六千二百萬ヴェドロ迄増加させる。

9 モスコイ市經濟改造に於ける最も重要な課題を爲すものは其の煖房裝置である。此の煖房裝置整備の結果、遠くより

燃料を都市に輸送する必要もなくなり、或は燃料經濟の合理化及都市に於ける電力供給の發達を企圖し得るのである。

黨中央委員會及ソヴェート人民委員會は一九四五年頃迄に特別火力發電所の能力を現在の八九、〇〇〇キロワットより六七五、〇〇〇キロワット迄に増加することを定め、更に

一九三九年の當初に於てモスコイ發電所の煖房能力を、此の頃迄に建設せられる一〇萬キロワットの能力を有するスターリンスキー特別火力發電所、五萬キロワットの能力のフルンゼンスキー特別火力發電所、二萬五千キロワットのスターリン記念工場の特別火力發電所、六萬四千キロワットの能力を有する一九三六年建設の全露煖房研究所附屬特別火力發電所、更に二萬四千キロワット迄の能力を有する一九三七年建設の第一國營モスコイ發電所を合せて二十八萬五千キロワット迄増加することと規定してゐる。

10 都市に於ける緊急の需要を満たす爲モスコイに在る瓦斯工場生産能力の缺陷を考究し、モスコイ將來の瓦斯の供給を潤澤ならしめ、一九四五年迄には都市に對し年六億萬立方米迄の瓦斯供給を保障すること。又モスコイ瓦斯供給問題の根本的解決の爲、一方に於て現在の瓦斯工場の生産能力を増加し、他方モスコイ及モスコイ州に於ける工業の必要を満たす爲、同時にコークスの製造をも爲し得られる所の生産額二億萬立方米を下らぬコークス・ガス工場をモスコイ市附近に建設して一九三八年當初には之が作業を開始せしめること。

11 一九三六年以降、電信、電話、電氣等の地下線、瓦斯管及水道管を一本の共同溝内に敷設し、モスコイ市の地下經濟の改造に着手すること。此の共同溝は鋪裝道路を掘り返すことなくして此等の建設物を統制し、改修することを得るのである。

12 モスコイに於ては一〇年間に學校五三〇を建設し、而して最近三年間に三九〇の學校を建設する。

二〇年間に病院一七及公衆保健診療所二七を建設し、其の中病院六、公衆保健診療所三は最近の三年間に建設する。
13 モスコーに於ては住民の文化的奉仕作用として一〇年間に左の建設を行ふ。

a 映畫館五〇、中五は最近三年間に建設すること。
b 文化の家三、文化の子供の家一、俱樂部七。

14 ソヴェートの商業及勤勞者の社會給食竝に物質的狀態の堅實な向上を企圖して次の建設を行ふこと。

a 大百貨店九、其の中二は最近の三年間に建設する。

b 總容積五萬噸の冷蔵庫五、其の二は最近三年間に之を建設する。

c 馬鈴薯、野菜を貯藏する爲容積六〇萬噸の大貯藏所を地下に築設する。其の中一五萬噸の貯藏所を最近の三年間に

建設すること。

d 容積一七萬五千噸の穀物倉庫三、其の中一は一九三七年に建設すること。

e パン工場六、其の中一は一九三七年に建設すること。

f 共同食堂の爲の半成品準備工場五を建設すること。其の中三は最近三年間に建設すること。

15 都心に於ける輻輳する貨物輸送を緩和する爲、キタイ・ゴード及プリワール環狀路に親倉庫を建設すること。

16 家屋の取毀し及其處に居住する者の移轉を伴ふモスコー市區改造事業のプログラムを履行する爲、モスコー市ソヴェ

ートに一〇萬平方米の特別の豫備住宅地を創設させること。

17 モスコーの建設及都市計畫に於て確乎不動の規律を保障し、又各地區の建築物を決定せる綜合都市計畫に完全に融和

せしめる爲、次の如く規定してゐる。

a モスコー市域及市外の豫備地に於ける建築は、役所の管理と無關係

にモスコー市ソヴェート幹部會の決定に準據し、且つ其の監督の下に更に

モスコー市ソヴェートの要求を確實に遂行しなければならない。

b モスコー市域に於ける凡ゆる種類の建設は其の建築物のプラン及其

の建築案をモスコー市ソヴェートと共に協議し且つ決定した上で始めて其

の建築にとりかかるのである。

18 黨モスコー委員會及モスコー市ソヴェートに依つて提出されたモスコ

ー市の建築物規則と手續に關する決定案は大體之を是認し、之を強化し、之

等の問題に關する現行法を或る程度迄變更する權能を總同盟勞働國防會議に

委任すること。

19 一〇年間（一九三六—一九四五年）及最近の三年間（一九三六—一九

三七—一九三八年）に於てモスコーの綜合計畫に依つて豫定された改造事業

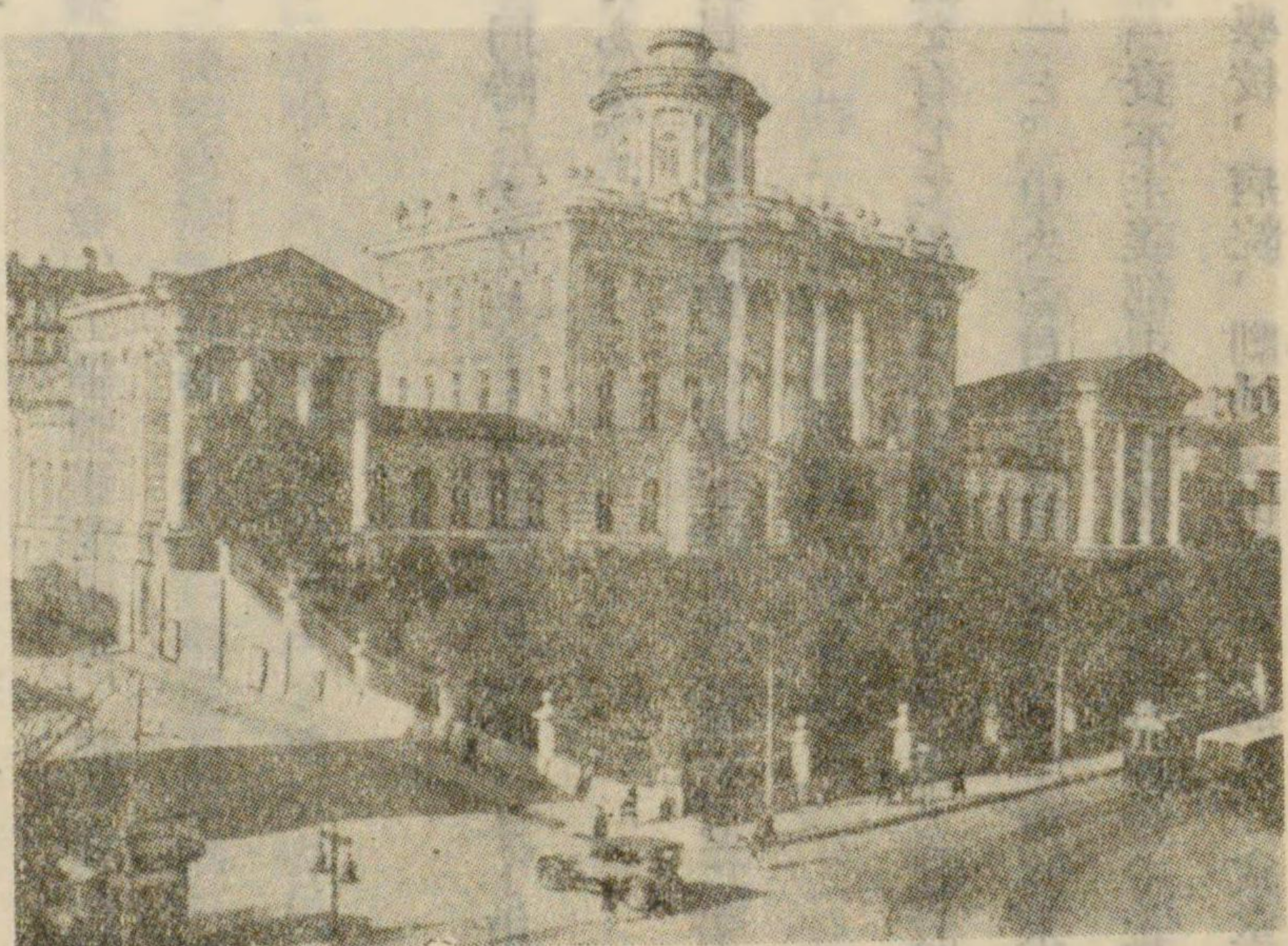
はそれ相當の年度計畫を定め且つ五ヶ年計畫とすること。

20 黨モスコー委員會及モスコー市ソヴェートと提携し、現在の決定に依り定められた事業の實現に必要な金融資金及材

料資金交付の期限、手續、支出の限度の決定はソヴェート國家計畫局に委ね、更に黨委員會及ソヴェート聯邦人民委員會の

認可を受けること。

ソヴェート聯邦人民委員會及黨中央委員會は次の如く強調してゐる。



レニーン圖書館

モスコーの黨團體及ソヴェート團體に課せられた問題はモスコー市改造案を組織的に實行するばかりでなく、勤勞者の爲に立派な建築物を増設、創造することに在り、ソヴェート社會主義共和國聯邦の首都建設及首都の建築的構成をして社會主義時代の豪華と優美とを完全に反映せしめる點に在るのである。と。

ソヴェート社會主義共和國聯邦人民委員會議長　　ヴ・モロトフ
全露共產黨中央委員會書記長　　イ・スターリン

一九三五年七月十日

二、モスコー市計畫決定に關する經過報告

序　　説

モスコー市現在の改造案は黨中央委員會、政府、黨更に國家の首領であり、同時にソヴェート同盟の首都モスコー市改造に關する直接間接の指導者であるスターリン自身の指令に基き編成されたのである。

モスコー市計畫案の研究は以下述ぶる所をモスコー團體に指示した黨中央委員會六月總會（一九三一年）後直ちに着手された。

「中央委員會總會の意見に依れば、モスコー市は其の經濟發達の五ヶ年計畫を有してゐない、且又モスコー市の建設に於て綜合的都市計畫を行ふことなく、自然の儘に放置したことは全く正しくない」と。中央委員會總會はモスコー市將來の擴張及建築を慎重に且つ科學的に研究する義務をモスコー團體に負はせてゐる。「資本主義都市と全然相反する社會主義都市としてモスコー市を計畫するに際してはさほど大きくない區域に人口、工場、學校、病院、劇場、俱樂部、商店、食堂等を

密集させてはならない。」

黨のモスコー州委員會、都市委員會及モスコー市ソヴェートは建築家と都市計畫家とより成る幾度かの會議に於て、多くのモスコー市計畫案を詳細に検討せる結果、之等は斷然採擇しないことに一致した。此等の諸種の案は新しい課題に適合しないのみならず、現在に於ける實際的計畫を示してゐない。それは生命の流動してゐる複雑した都市であることを忘れて抽象的に此の課題を決定しようとしてゐるのである。従つてモスコーをクレムリンと共に古代の博物館の様な都市として放置し、モスコー市外に新しい都市を建設しようとする案は採用しなかつた。又同様に都市の凡ゆる建築物を集團的に取毀し、現在の街路を破壊し、而して現在の市域に街路を新設しようとする案にも従はなかつた。

計畫案の研究は一九三二年三月に於ける黨モスコー委員會及モスコー都市委員會の決定に基き創立せられたモスコー總計畫委員會に依つて開始せられた。

都市計畫の細部に亘る問題に關しては種々の委員會が創設され、夫々の研究に着手した。例へば、モスコー地域委員會、人口研究委員會、都市建築委員會、街路及河岸通計畫委員會、地區建設委員會、住宅建築委員會、住宅の形態及建物の建築様式研究委員會、住宅、文化、社會、行政各般の建築費研究委員會、交通運輸統制委員會、工場配置委員會、地下經濟（水道、下水道等）委員會、モスコー河岸委員會、都市衛生委員會等である。

委員會の事業の結果として一九三二年の八月頃迄に計畫の凡ゆる問題に關する重要な基礎及豫算が研究され、街路擴張の主要線が計畫せられた。最近の一〇年―一五年に於ける計畫變更及建築の最も經濟的なモスコー計畫案の詳細な研究はモスコー市ソヴェートの建築計畫本部に委任された。

一九三三年六月にはモスコー市ソヴェートの建築計畫本部によつて、モスコー綜合計畫の計畫圖及モスコー計畫個々の間

題に關する主要な事業の完成に就いて報告された。一九三三年七月十七日黨モスコイ都市委員會は左のメンバーに、提案せる問題の検討及修正に付其の研究を命じた。其のメンバーは建築家クリューコフ、セミヨノフ教授、イバニツキー教授、技術家クラシン、ウシヤコフ、スミルノフ、建築家イオファン、學士會員シテフセフ、ジヨルトフスキー、建築家アラビヤン、學士會員シチウコ、建築家ウ・ヴェスニン、ギンズブルグ、ルビシライン、及ヴォロネジスキー等である。かくして此等の検討を基礎として、計畫當局及都市計畫家達は黨モスコイ都市委員會及モスコイ市ソヴェート新設の常設建築計畫委員會に都市幹線道路の計畫問題を提出した。黨中央委員會、交通運輸部、工業部、建設部、都市計畫部（本）周到なる調査研究の後一九三四年七月十四日計畫の基礎が黨中央委員會會議の席上で報告された。右會議には黨及政府の指導者、モスコイ諸團體の代表者五〇名以上に及ぶ建築家及都市計畫家が出席した。中央委員會及政府は黨モスコイ都市委員會及モスコイ市ソヴェート提出の主要豫定計畫案を可決し其の決定的プランの編成を命じた。

この會議に於てスターリンはモスコイの發達及計畫の將來の方針に付き最も重要な基礎を示した。黨中央委員會はモスコイ市ソヴェートの七月總會（一九三四年）に於ける黨首領の此等の訓令を述べて、カガノヴィツチは次の如く謂つてゐる。

「モスコイ市計畫に於て我々は極端なことをさけることとした。スターリンは、モスコイの都市計畫に對するモスコイ諸團體の態度は全く正しいといふことを強調し、我々は都市の改造に當り二の戦線に於て闘はなければならぬと述べてゐる。我々にとつては都市の本質を否定する者の態度、即ちモスコイ市を大なる農村として放置せんとする者の態度及資本主義都市の形態に從つて人口の密集した都市を建設しようとする大都市主義者の態度は容認するを得ないのである。歴史はスターリンは會議に於て述べた工業地區に於ける最も經濟的な居住地の様式は下水、水道、照明、暖房等に於て經濟的

な都市であることを示してゐる。それ故に都市を七〇—一〇〇軒に延長すること、即ち都市を農村となし、それから公益施設及文化的都市生活の凡ゆる特權を奪はんとするのは妥當ではない。我々は尠くとも六—七階建の家屋を建設して行かなければならない。又或る公共的施設物に於ては一五階乃至二〇階建の建築物も許容せらるべきである。」と。

モスコイの諸團體は此等の指示を以て新しい計畫の基礎と成した。黨中央委員會及スターリン自身の指令を基礎とするモスコイ都市計畫案の研究と共に、其の最も重要な一部である都心の計畫とその構成が具體化され初めた。

黨モスコイ都市委員會及モスコイ市ソヴェートの建築計畫委員會は一九三四年九月二十六日にキタイ・ゴロド城壁及之に沿ふてノーギン廣場よりトレチャコフスキー通路に至る建築物取毀しを完了すべきことを決定した。更に又街路に突き出てゐる家屋及古い建築物を撤去し、モスコイ市ソヴェートのホテル側のマホーヴァ通を擴大することに決定した。該事業は一九三四年十一月七日迄の短期間に遂行された。此の結果ノーギン廣場よりマニョーヂナヤ廣場に至る中央幹線道路を非常に廣い大通りにすることが出来た。

一九三四年七月から黨中央委員會及スターリンの指令に基き、プランの徹底的研究事業が盛んに展開せられた。數次に亘る討議を繰り返した後、黨モスコイ市ソヴェート建築計畫委員會は次のメンバーの下にモスコイ市現在の計畫案を徹底的に完成した。其のメンバーはカガノヴィツチ（議長）、フルーシチフ、ブルガーニン、ヒラートフ、コーガン、メリバルド、ベルチーク、デヂューヒン、ブルーシエフ、シードロフ、コンスタンチノポリスキー、建築家クリューコフ、イオファン、アラビヤン、ヴェスニン・ベ・ア、セミヨノフ教授、學士會員ヂオルトフスキー、シテフセテ、チエルヌイシエフ教授、學士會員シチウコ、ゲリフレーフ教授、ウシヤコフ、コーワーロフ、コリマン、ヴォネヂスキー、バルヒン、

ラドフスキー等の教授及メシコフ、ポリヤニコフ、ドルガノフ、ルビンシテン・エム、ハ・エヌ・コントル、コンドラシエフ、カマイエル、ニコラーエフ、ヴォルドイリヨフ、バブーロフ、ザラスキイ等の建築家、クレンコフ、ユーブザリ、リヤブーシエフ等の技術家及經濟學士ヴォルコフ、建築家ザラフスキー其他である。

此のプランに従ひ現在の地域を根底から建直し、中心をモスコイ河岸通りに移すと共に建築物と人口の爲に新しい土地がモスコイ市に編入せられるのである。此の新しい土地こそタンツエヴォオからレーニン迄（以前のツアリーツイノ）約一萬六千ヘクタールの面積を有し、モスコイ河に沿ふてレーニンスキー丘の背後に存し、位置と謂ひ又緑地と水に恵まれてゐる點に於て最も健康な美しい處である。

三、モスコイ市發達の變遷史

(一) モスコイ市の地勢

モスコイ市はモスコイ河に沿ひ、モスコイ河とクリヤヂマ河間の流域に位する。レーニンスキー丘は市内に於ける最高地點であり（海拔一九九・五米）、ペトロフスコ・ラズモフスキー（テミリヤヂスキー）地區（海拔一七五米）之に次ぐ。

西方に存するコプテエヴォ・ズイコフスキー草原は高度一六四・三米の高度を示してゐる。都市の西方に當りホドインスカヤ高地（高さ一六八米）が存するが此の砂利の多い高地はモスコイ河及プレスニヤの方へ降つてネグリンナヤに至るアルバート通を占めてゐる。

ザモスクワレーチエは一五〇―一五二米のカルトヂスカヤ關所の高さと同平行してゐる。ドロゴミローヴォは一五〇米の高

さ迄郊外のクトウゾフスキーの方へ爪先上りとなつて低い臺地を占めてゐる。

市内を貫流するモスコイ河及其の支流を爲すヤウザ、ネグリンカ、プレスニヤ、セトン其の他多くの小河によつて丘の多い都市は其の起伏を一層激化せられてゐる。モスコイ河の流れは迂餘曲折し高い岸、低い岸を諸處に形成してゐる。モスコイ、ネグリンカ及ヤウザ河間にヴォロビツキー丘が存し、其の斜面モスコイ河の側にクレムリンが存する。モスコイ河左岸に沿ふヴォロビツキー丘の背後にタガンスキー及クルチツコ・シモノーフスキー丘がある。

モスコイの起伏は變化せずにはゐなかつた。建築物の發達に伴ひ都市の起伏にも變化を生じたことは謂ふ迄もない。

(二) 革命前のモスコイ

モスコイ市搖籃の地はスホードニヤ及ヤウザ河に沿ふて、モスコイ河とクリヤヂマ河との中間の土地であつた。モスコイと謂ふ名稱は一一四七年の記録に始めて現はれてゐる。

一一五六年の記録にはモスコイ市の基礎工事に就いて記されてゐる。之に依れば「モスコイ市はヤウザ河より高い場所であるネグリンナヤ盆地に其の基礎が定められた。」のである。當時に在つては、「都市を建設する」と謂ふことは最初人間の住み得る様な土地に濠と堅固な木材の壁を繞らすと謂ふことを意味してゐた。

モスコイ河とネグリンカ河の合流點にある高い岬は戰鬪上の要衝であつた。當時のモスコイは現在のクレムリンの西南の一角のみ、即ち僅かに其の面積の十分の一以下に止まつてゐた。

商業、政治各分野に於けるモスコイの發展は都市の建設に重大な影響を招來した。十五世紀の末期には外國から建築家、技術家、大工等がモスコイへ招聘された。煉瓦と粘土を用ゐる、其の當時としては殆んど完成された建築技術が始めて施行されたのである。モスコイの職人達は石灰や煉瓦を焼いたり、壁や天井を作り、石造建物に骨を入れたりすることを學ん

だ。石造建築は明らかに此の時代に發達した。クレムリンは石造に依つて建築せられたのであり、其の建築物は菜園や牧場によつて包圍された幼稚な丸太造りの木造都市の中に在つて斷然異彩を放つてゐたのである。

主として現代迄保存されてゐる新しいクレムリンの石造城壁は此の時代の建設に係る顯著な記念碑である。城壁は一面（赤い廣場）から人工の濠により、他面からネグリンカ河により（其處は現在アレクサンドロフスキー庭園となつてゐる）、而して第三の方面からはモスコウ河を以て防衛されてゐた。

新しいクレムリンの建築物は長い間粗末な場末の建築等に於ては到底望み得ない様な典型的建築物を爲してゐた。新しい建築様式は又第十六世紀に於て建築の優秀を謳歌されたワシリイ・ブラジヌイ大寺院に表現されてゐる。此の寺院はロシヤの巨匠ヴォルモア及ポストニークによつて建てられた。



サウヨチカフ街の公園

一五三四—一五三八年に於てはクレムリン周囲の商工地帯はキタイ・ゴード城壁に依つて包圍せられた。首都が經濟的に急激に發達し、多くの商人、職人が流入するに伴ひ、第十六世紀の末期頃には既に地域擴張の必要に迫られた。此の目的の爲クレムリンとキタイ・ゴードを（現在のブリワールの環狀路の處）環の如く包圍してゐたペールイ・ゴード城壁が撤去された。

一五九一年惡戰苦闘の末、クルミヤ・タタールの襲撃を退けたことは却つて都市將來の發達に拍車を加へた。一五九二年に

は木造城壁の第三の環狀路が建設され（現在のサドワヤ環狀路の場所に）、此れはザモスクワレーチエ迄に及んでゐる。此處は戰略上重要な寺院が多數存し、又屢々侵略を受けた處である。

斯くして一六一七世紀のモスコウは歴史的に發達して來た多くの環狀路から成り立つてゐた。クレムリンの中心からは國の他の地點と連絡してゐる幾多の主要道路が放射的に流出してゐた。（トベルスカヤ、セルブウホフスカヤ、ドミトロフスカヤ、スモレンスカヤ及其他の道路）紋上の如き幹線道路と城壁の交叉する處に門が建てられ、之等の名稱は今日迄其の儘残つてゐる。（イリインスキー、ペトロフスキー、アルバツキー其他）モスコウに於ける集中的環狀路は次第に發達して來た。それは封建的城壁を中心として構成されてゐる西歐の中世紀都市の普通の發生形態と全く其の軌を一にしてゐる。

或る種の街路及廣場の名稱を見ると、何處かに都市的な街が個々に散在してゐることが判る。例へば、アルバトに於けるプロトニコフ横町はプロトニコイ場末街を、カダシエフスキー横町や河岸通りはカダシエフスキー場末街を、トウベルスキーヤムスキー街路はトウベルスキーヤムスキー場末街を、ゴンチャールヌイ横町はゴンチャールヌイ場末街を思ひ出させるのである。

時としては、かかる場末街は地域的に、牧場、畑、菜園及未だ住宅地化しない荒蕪地によつて切斷されてゐた。然し時の流れに従ひ個々の場末街は合して一体となり、之等の場末街の狭い通路は結合して多くの街路を形成した。クレムリンとキタイ・ゴードは中心地であり、此處に向つて近くの村々や町々から幾多の道路が放射状をなして通じてゐた。

キタイ・ゴードの面積はクレムリンの三倍以上である。然し數十の場末街を包擁するペールイ・ゴードはクレムリン及キタイ・ゴードを併せたものの五倍以上である。ベルゴロツカヤ城壁とゼムリヤヌイ障壁の間、即ち現在のブリワール

とサドワヤ環状路間に存するゼムリヤヌイ・ゴードは遙かに廣大であつた。

ベルゴロツカヤ城壁及ゼムリヤヌイ障壁の取毀しはモスコの環状路の組織を強化した。放射的にクレムリンに向つてゐる道路は放射幹線道路（ゴリキー、ドミトロフカ、スレチンカ、ボクロフカ、オルディンカ其他の街路）となつた。之等の爲に城壁及障壁の場所には門が建てられた。かうした門に向つて幹線道路以外に近隣の場末街の補助線街路も作られた。其の結果之等の門は殆んど總べてローカル・センターとなり、其處に數條の街路が光線の如く集中して來た。此の事實は現在に於てもセルプウホフスキー、タンガンスキー及アルバツキー門の處に残存してゐる。それ故ペールイ・ゴード及ゼムリヤヌイ・ゴードには相互に平行した街路は皆無であつた。それらは古い城壁や高い障壁に突き當り出口を見失つてゐる。全く同様な原因に基き、街路を結合した横町は屢々弓形或は環の一部の如き形狀を呈して歪曲してゐる。障壁のある處には其の後多くの街路が築設され、更に門の附近には數多くの廣場が作られた。門の處には都市に出入する人馬輻輳し、其の交通は箴を織るが如くであつた。モスコに於ける廣場は交通量の自然増加に依るものなるか、或は軍事的防禦の見地から作られたものであつた。

都市は大部分大きな庭園を有する私有の小さな建物の集合により生成されてゐた。十七世紀の末期に於て始めて商業、金融關係の廣汎な發達につれて、社會的建築物を建設するの曙光を見るに至つた。赤い廣場には石造の商店街が建てられ、ネグリンカ近くには、即ち現在の公益經濟トラストの建物の在る處には大きなブシチヌイ庭園が築造された。

十七世紀に於ける特筆すべき現象はクレムリン要塞の裝飾であつた。例へばスパスキー塔にはゴツク式特徴を具備する新しい建物が増築された。又同十七世紀ロツヤの巨匠達はクレムリンの他の残つた屋根をもドーム式に裝飾を施した。

粗末な木造から成立つたモスコは屢々火災に見舞はれた。而して幾百と謂ふ小家屋、幾千と謂ふ教會、街路、場末街は

全く灰燼に歸し去つたのである。

一七〇九年の大火災を機として、クレムリン及キタイ・ゴードに於ては以後木造の建築物を建設することを得ずと謂ふ命令が發せられたのである。

「石造の建物を建設することの出来ない」者の屋敷は強制的に收用されるか、或は他の者に渡さねばならなかつた。即ち石造の建物を建築することの出来る者に賣却せねばならなかつた。

一七四九年には庭園に於ける「非常に古くなつた」建物を取毀し、同年内に新しい建物の建築に着手する様命令された。

若し誰でも命令に服従しない者があるときは、「命令に違反した廉で其の土地を沒收され、而してかくして沒收された土地は皇帝の領地に編入せられ、取り上げられた者には何も支拂はれず、且之を希望する者に賣却されるのである。」

此の結果大部分の市の土地は貴族の手に歸して了つた。一八世紀の後半に於ては場末街の庭園は破壊され、領有地は愈々頻繁に貴族階級の手に移つて行つたのである。

一八世紀に於けるモスコは單に成長した許りでなく、同時に改造されたのである。

此の時代に於ける貴族領地の形態は大部分場末街的なモスコ商地帯の庭園とは著しく其の趣を異にしてゐた。庭園の以前の様式は全然消滅したと謂ふ譯ではなかつたが、一方に於て廣大な農奴時代の屋敷の建設が盛んになつた。之がモスコに貴族的な首都と謂ふ特殊な色彩を與へることとなつたのである。

農奴的な農村がモスコの貴族屋敷及び其の繁榮の物的及人的基礎を爲した。

都心に於ける貴族の領地が如何に廣大であつたかは、ヴォロンツォフ伯爵の屋敷を例にとつて見れば判る。それは十八世紀の七〇年代に於てクズネツキー・モスト、ロヂストベンカ、ペトロフカ及サンドノフスキー横町間に介在する現在の二の

街衢を占めてゐた。時とすると、それは更に遠く迄延びてゐた。曾ては其處に屋敷が五〇もあつた廣々とした領地内を、當時は全く顧みられなかつたネグリンカ河が流れてゐた。若しも斯様な宏大な屋敷がモスコイの真中に在つたとしたならば、もつと廣々とした領地が中心から限りなく遠く延びてゐたであらう。

一八世紀の二十年代頃より、多くの裕福なモスコイの商人は工場を建設した。(大規模な羅紗工場、タメン布工場、デラブレフ羅紗工場等)。商人等は工場主として自分達の企業に束縛する奴隷を有する権利を得た。商人達はかうした権利を得た爲に實際上殆んど地主貴族の如き觀を呈した。

貴族の屋敷のある街路及横町は貴族或は商人の個人的名稱を附せられた。例へば、サルトイコフ、チルカスキー、ガガリイヌイ、ヴォルコンスキー、エロブキン、フセヴォロシスキー、マンスウロフ、トルウベツキー、ネスビツキー、スカリヤイテイシ、サベロフ、ウシヤコフ等は彼等が住んでゐた街路や横町であつた。

裕福な貴族は古い都市の内部に場末街的な地區ウチヤストクを有してゐた許りでなく、市外に於ても有してゐた。モスコイ附近の郊外にはオスタンキン、シリメテエブイ、ネスクーチヌイ、ディミドーブイと謂つた様な宮殿や公園が華麗を極めて建設された。

十八世紀の中頃にはモスコイの建築物はかなり強烈な特色を帯びた。之に關聯してペルイ・ゴロドの朽廢し、不必要になつた石造の城壁は破壊され、其の後要塞の様なゼムリヤヌイ障壁や濠も破壊除去された。モスコイはカルーヂスカヤ、セルブウホーフスカヤ、ロゴシンスカヤ、ドロゴミロフスカヤ其他數多い關所サスタキを有する所謂カーメル・コリシンスキー障壁によつて圍繞されてゐた。

十八世紀の末期及十九世紀の初期に於ては取毀されたベルゴロツキー城壁に沿ふてブリワール(遊歩道)の環狀路、一方ゼ

ムリヤヌイ障壁の處にはサドワヤ街路が建設された。而して右ブリワールの環狀路は四〇年間に(一七五〇年—一七九〇年)、サドワヤ環狀路は一八二〇年から一八三〇年にかけて創られた。

一七八三年には當時に在つては相當な水力技術事業であつた排水渠が建設された。一八一九年にはネグリンカ河の水が此の排水渠の中に導入され、又此の管の上にネグリンチヤ通りとアレクサンドロフスキー庭園が建設された。一八世紀の末にムイチンチから都市水道建設工事が創始され、同時にクレムリンには司法省(現在中央執行委員會)及キタイ・ゴロドにはガスチンヌイ・ドウポールが建設された。

然しモスコイの建設は尙依然として亂雑であつた。屋敷の所有者は街路の方向乃至都市計畫を全然顧慮することなく、唯自己の恣意の儘に家屋や經濟上必要な建築物を建設した。其の時々の都合に任せて屋敷を作つて行つたので、遂には街路や街衢を規則正しく形成することを不可能ならしめるに至つた。狭小な庭園、貧弱な家屋、小住宅が豪壯な貴族の私邸と相違んでゐる實狀であつた。

中世紀的モスコイに於ける放射幹線道路の自然に錯雜した状態は十八世紀初頭に於ても變更を見なかつた。十八世紀に於て始めて主要な放射幹線道路となつたものにはブレオブラヂンスコム村に於てピョートル一世の離宮と都心とを結ぶポクロフカーバスマンチヤ通と、それから新しい北方の都(レーニングラード)に通ずる道路であるトウベルスカヤ通(現在ゴリキー通)であつた。

十九世紀の初頭に於ては、セルブウホーフスカヤ(現在のダブルイニンスカヤ)、カルーヂスカヤ(現在のオクチャブリスカヤ)、タガンスカヤ等幾多の廣場が建設された。

ヤウザ河及モスコイ河に沿ふて工場を何等の計畫もなく無秩序に建設した結果、之等の河岸通は都市の場末の如き處と爲

り畢つたのである。

かうした状態は十八世紀及十九世紀初期のモスコーを「統治者を持たない」貴族的な都となした。而して其處には汚ない木造の家屋や自然の儘に任せた中世紀的な「計畫」を有した一つ／＼別であるが、屢々偶然的な古典的建物があつたのである。

一八二二年の火災は都市の外貌に著しい影響を及ぼしたが、モスコーの建設上には依然大きな轉換は認められなかつた。唯國家の社會經濟的情勢が變化し、貴族的封建的關係が資本主義關係によつて次第に壓迫された結果、モスコー將來の發達に新しい特徴が齎された。

十九世紀の後半以降、所謂「農奴解放」の後にモスコーは迅速に發達し始めた。人口は一八六二年の三六四、〇〇〇人から九五三、〇〇〇人迄及一九一二年の一、六一八、〇〇〇人迄増加した。モスコーは依然として最大の商業中心地であると共に、又國家の大工業中心地及最も重要な鐵道連絡點となつた。

モスコーの面積は七、〇〇〇ヘクターから一八七九年には九、〇〇〇ヘクター迄、二十世紀の當初には一〇、〇〇〇—一二、〇〇〇ヘクター迄に増加した。人口の密度は逐年増加した。貸家の建設、宿舍、地所の賣買は企業家の仕事と化した。貴族の屋敷は資本家の掌中に歸した。屋敷内の廣い庭園には新しい建物やそれに附屬した建物が建てられた。

此の様な本質的な變化はモスコー全市の共通的な變化と密接に關聯してモスコーの屋敷にも起つた。郊外に工場が出來た。プレオブラヂンスキー關所の附近には（現在のスターリンスキー區）労働者の場末街が發生し、其處にはヤウザ河及ハビロフカ河岸に沿ひ、大小幾多の工場が密集してゐた。一八七一年には此の場末街をも含むに至つたレフォルトーフスキー地區には大小幾多の著名なモスコー紡績工場の三分の一が集中してゐた。もう一つの紡績工場の集團地

が現在のクラスノプレスニンスキー區に形成された。コジブニキ及ザモスクワレーチエも亦工場場末街となつた。モスコー山河左岸のサピンスキー横町に於ける多數の工場は特殊なハモブニチンスキーに労働者の場末街を形成した。稍後して現在のプロレタルスキー區にシモノフ場末街が出來（現在はレーニンスキー街となつてゐる）、其處にアモ、バリー其他多數の機械工場が建設されたのである。

商業はキタイ・ゴールドに集中した。ザリヤデイは小規模な手工業製作所と謂つた工場で密集してゐた。キタイ・ゴールド以外に於ても、商業は會てのペーリイ・ゴールド及一部分ではあるが、ゼムリヤヌイ・ゴールドの街に沿ふて發達した。會てのペーリイ・ゴールド及ゼムリヤヌイ・ゴールドの横町や商店の存在しない街路には住宅、貸家が隙間なく立ち並んだ。

資本主義的モスコーの發達及成長は他のアジアの諸國と同じく、ロシアに於ける資本主義の劣勢を明瞭に反映してゐた。モスコーの商人や製造家は都市施設に關しては、寸毫も顧慮する所なかつた。

資本主義的モスコーの住宅建設の中、石造のものは僅かに其の三一・八%、其他は木造と種々混合せるものであつた。平家は五一・五%、二階建は三九・七%、三階建は五・九%、三階建以上は二・九%であつた。都市の地域はかうした余り高い家屋により寸毫の間隙もなく建築されてゐた。而もかう謂つた状態の土地が實に住宅地區の約五〇—六〇%を占めてゐた。

資本主義時代に行はれた建物の建築はモスコーの街路に田舎風な小商人的な特色を與へた。

都市經濟の他の部門の水準は住宅の貧弱な状態と全く相應しいものがあつた。過去一世紀の七〇年代から裕福な商人、工場主及銀行家は市會の主要な指導者となつた。かくして一九〇四年の市會の選

舉に於ては全部で一、八三八人、即ち商人階級ブルジョワの最も裕福な上層部が参加した。

如何にブルジョワがモスコイ市の經濟を擡にしたかと謂ふことは市役所の公報からの數個の實例によつて十分之を立證することを得る。

一八七〇年頃には、此の頃にはもうすつかり朽廢し無能になつた水道の代りに、新しい水道の建設問題が起きた。獨逸からはゲノフ技師が招聘された。此の問題の決定する迄には七ヶ年の日子を要した。一八七七年に到り始めて建設踏査に着手した。一八八二年水道案はロシアの技術團體によつて考究された。一八八五年に新しい案が作られ、再び外國人の技術家が招聘された。一八八七年一八八八年にはマイチシチンスキー水道案が採擇された、此の水道が開通したのは一八九二年であるから、即ち其の建設に關する問題が提出されてから二二年後であつた。一八九五年に市會は將來の給水擴張問題を提出した。而して新しいモスクワレツキー水道が完成し、作業の開始を見たのは漸く一九一一年、即ち一六年後のことであつた。モスコイの下水は之と同一テンボを以て建設された。下水建設問題が起つてから都心に於ける其の第一期の開通迄二四年以上(一八七四一八九八年)の歳月を費した。

水道及下水を利用し得る所は僅か都心に存する區域丈であつた。一九一三年に於ける給水は水道網五三七軒であり、一晝夜八五〇萬ヴェドロ(一人に對し六一立)に達した。下水網の長さは之よりも少く、四四七軒であつた。

モスコイは依然として自然に成長し、更に擴大されて行つた。二十世紀の初期には早くもモスコイの東南部に工場が密集し、人口の急激な増大は重要な交通上の問題を招來するに至つた。而して街路はと謂へば、舊態依然、曲つて狭く、僅かに中心丈が丸石で鋪裝されてゐる實狀であつた。

狭小な、屈曲した街路を擴張し且つ矯正しようと謂ふ問題は、謂ふ迄もなく眞剣に考慮されなかつた。況んや解決される

筈はなかつたのである。

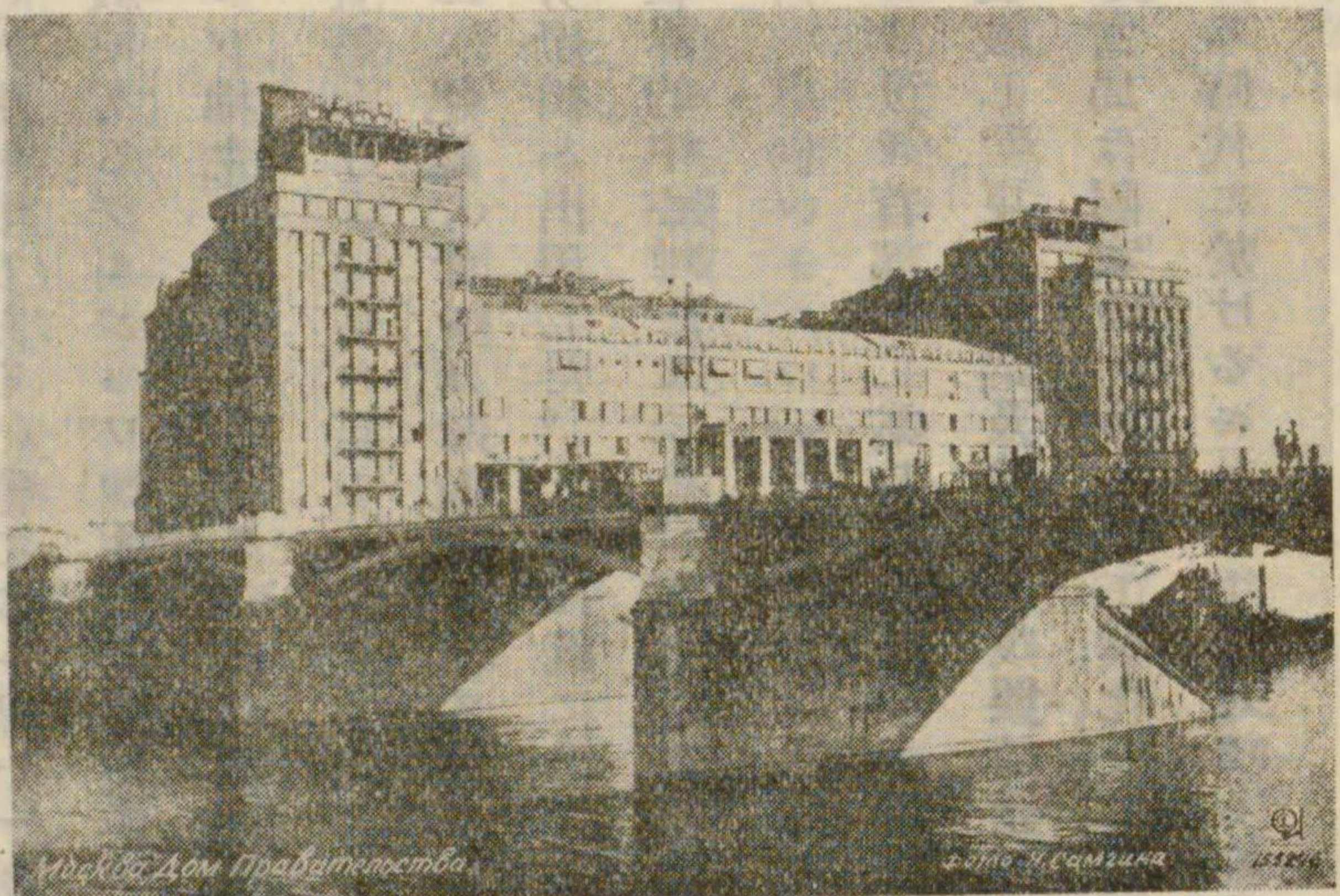
さほど大きくない地區でさへ私有地を収用するとなると、家主の利害關係や裁判上の問題を惹起した。

一例を擧げる。クズネツキー横町の

擴張の爲に(現在のクズネツキー・モスト)、或る屋敷の一角を切らねばならぬときに、其の所有者は五四平方サージン(一サージンは約二・三四米)に對して一〇〇、〇〇〇ルーブルを要求したのである。而して此の一角の土地に鐵柵を設け、更に疎らな植樹を以て圍繞せしめた。土地の一部を強制的に収用する爲に、裁判が幾年も遷延したが、結局其の所有者に對し約五〇、〇〇〇ルーブル支拂はれることに依り落着した。

モスコイ街路の計畫及擴張は或る轉換

主義的發達が導いた様な個々の達成さへも見られなかつた。十月革命の直前迄は、モスコイは誰もが認める様に依然として「大きな村落」であつた。茲に農奴的ロシアに於ける資本主義的劣勢と謂ふ特殊性が認められるのである。



(物建の階一十)家の府政

期を待つ状態であつた。

一七世紀の封建時代に、或は更に遠く其れ以前の時代に發生した、歴史的に錯雜したモスコイの放射及環狀街路は資本主義時代に於ては全く新しい内容(工業、鐵道等)で満たされた。

資本主義的モスコイの指導者はモスコイを基本的な順序に導き、都市を新しい經濟的狀態に適應させることが出来なかつた。革命前のブルジョワ・モスコイに於ては都市經濟計畫及發達の領域に於て、西洋の資本

(三) 革命後のモスコ

三六

革命時代に於てモスコは全く一變してしまつた。「大きな村落」と謂はれたモスコの偉は既に消滅し、今日のモスコは工業の殷盛を謳はれるソヴェト聯邦の大中樞地である。會ての「偉い」商人達は永遠に其の姿を没し、企業家、銀行家及貴族は過去の存在となつた。寄生的階級であるブルジョワ地主及其の従僕達は完全に一掃されてしまつた。一九一七年十月労働階級の勝利はブルジョワ地主の市會を一掃し、茲に都市經濟を勤勞者の物質的及文化生活的需要を充足せしめる組織とさせた。

都市は立ち遅れとアジア的色彩を一掃しつゝ、迅速なテンポで改造されて行く。會ての不潔な荒廢した場末には高層住宅、學校、俱樂部、百貨店等諸施設の完備した労働街が出現した。穴藏は既に消失し、モスコは愈々美しい、清楚な都となりつゝある。モスコは科學、文學及藝術の世界的中心地となつた。プロレタリア・モスコは自由な獨創的労働及巨大な嵐の様な建設の象徴である。

内亂、經濟封鎖及武力干渉の時代はプロレタリア首都の工業及百般の都市經濟にとり破壊と衰頹の時期であつた。黨及ソヴェト當局は武力干渉及反革命の白軍を壊滅し、更に工業及農業の復興に始めて成功を博し、以てモスコ市經濟の復興に着手することを得た。爾後黨及ソヴェト當局は國家の社會主義工業化及集團化の大成功に準據してプロレタリア首都の徹底的改造に關する大事業を展開した。かゝる時代に於けるモスコの凡ゆる經濟はブルジョワ諸都市の歴史上に未だ曾て見られなかつたテンポを以て發達して行つた。

工業化の徹底的な政策が此の發達の基礎を形作つた。それはモスコの總べての工業部門及労働人口の大なる發達を促したのみならず、諸種の工業部門の相互關係、モスコ・プロレタリアートの構成及都市全人口に於て深刻な影響を齎したの

である。

革命時代、殊に最近の四年間にモスコの凡ゆる經濟、モスコ市經濟及文化は我が國家の社會主義的發展を反映しつゝ、根本的に改造され、堅實な發達を遂げたのである。

一九三一年の黨中央委員會六月總會の報告に於てカガノヴィツチは貴族的、商人的なモスコを前衛的社會主義都市に改造せんとする黨ソヴェト當局の事業を公表してゐる。即ち同志カガノヴィツチは左の如く述べたのである。

「國家の社會主義工業化はモスコ全體に亘り單に工業及労働階級の量的發達に於てのみならず、工業の機構及労働階級構成上の變化の方面に於ても顯著に現はれた。近時モスコの工業は著しく變化してゐる。若しも革命前のモスコが小工場を多數有するを以て其の特徴とするならば、現時のモスコは技術に於て高度に發達し、國民經濟の發達にとり特に重要な各種工業を有することを以て誇りとする。我々は機械建設に於て、將又電氣技術に於て著しく躍進せるモスコを有してゐる。」

一九三一年以降に於ける國家の工業化はモスコの經濟に根本的變革を與へた。而してそれは單に革命前との比較に於てに止まらず、第一次五年計畫實施直前と比較するも、モスコの工業的意義を徹底的に變化せしめたと謂ふことを得る。最近の四―五年に於てモスコの工業は主として熟練技術を要する複雑な機械製作の方面に於て著しい飛躍を示してゐる。

一九三四年のモスコ大工場の生産額を一九二六―一九二七年當時の價格に従つて計算すれば、七十五億七千九百萬留に達し、戦前の水準を越すこと八倍餘、又一九二九―三〇年の水準を越すこと一・二倍であつた。即ち戦前のモスコの工場が殆んど十七倍以上生産して漸く此の生産額の二倍となるに過ぎないのである。之等の時期に於て機械製造及電氣技術の部門は急激な躍進を遂げ、其の生産額は戦前の水準を越すこと幾十倍、之が爲モスコ工業は國家の國民經濟の技術的改造に

於て優秀な地位を占めることとなつた。

カガノヴィツチ指導の下に施行された新工場の建設、舊工場の改造及之等の高度技術利用に關する盛大な大事業がモスコ工業の量的質的成長の基礎となつた。モスコに於ては此の時代に航空工業、自動車工業、工作機械製造工業、ベヤリング製造工業、電氣器具製造工業、精密機械工業、化學工業等の技術的に發達した各種の大工業が新設された。最近四年間に建設され、既に作業を開始した最も重要な重工業工場の未完成目録が茲に存する。(一覽表は未だ完成されないが今茲に其の一部を述べることにする)

- スターリン記念自動車工場
- 航空機製造工場

- カガノヴィツチ記念ベヤリング工場
- カリーニン記念裁斷機工場

- オルシヨニキーゼ記念ピストル工場
- 測量器具製造工場

- 自轉車工場
- 計算機械工場

- 「機械器具」製造工場
- 電氣技術工場
- 第一時計工場

熱度測定器製造工場

光度及熱度に關する技術的研究の特別火力發電所 總て之等の工場は最近の技術を以て裝置せられ、世界の優秀な工場に比し、決して遜色を認められない。

同時に擴張され、完全な技術により裝置された舊工場には「ダイナモ」電氣工場、「鎌と槌」金屬工場、「クラスヌイプロレタリー」及「サマトーチカ」等の工作機械製造所、「パリー・コムミューン」の履物工場、クラスノホルムスキー紡績工場等がある。之等の工場は謂ふ迄もなく他の多くの工場と雖も總て技術的に改善されて、一流の工場となるに至つた。

モスコ工業の技術は主として最近四年間に大部分ソヴェト當局によつて發展せしめられた。單に此の期間中でソヴェト聯邦の代表的なモスコ工業の建設及技術的裝備に對する投資額は、一九三五年初期に於て二〇億留の豫定額であつたが、實際に投資された額は漸く一〇億六千萬留を少し越へる程度に過ぎなかつた。

モスコ工業の生産器具を製造する部門の迅速な發達に關聯し、消費物を製造する工業部門も堅實に發展の一路を辿つて來た。一九三四年に於けるモスコ工業のかゝる部門の生産額は三七億留に達し、戦前の水準を越へること五・五倍、一九三〇年の水準を越へること一・六倍であつた。纖維工業の生産額は戦前に比すると約三倍、被服及履物工場の製産額は一八倍に、食糧工業生産額は三・七倍に増加した。

モスコに建設された生肉コンビナート(生肉綜合企業)は食糧專業上に偉大な貢獻をなした。家内工業的なモスコの屠殺場は生産額を増加し得ないのみならず肉の品質を痛める。因つて之等の屠殺場は衛生を重んじ、生産額を完全に利用し且つ肉製品の文化的加工設備を有する巨大な機械化された工場によつて置き替へられた。

一九三一年の黨中央委員會六月總會の訓令に準據して、モスコは最近四年間に完全にパン製造を機械化した。以前の四

ケ所のパン工場に加へ、更に八つの工場が新設された。之等のパン工場の特色は生産能力が大であるのみならず、高度に機械化されてゐる點にある。最近迄パン製造の主要な基礎となつてゐた家内工業的なパン屋は之等の工場に比較すれば殆んど問題にならない。機械化はパンの不完全な製造法を絶滅し、同時にパン工場は舊式なパン屋に於ける苦しい労働からパン焼職人を解放した。

モスコの工業及都市經濟の社會主義的改造に於ける最も重要な前提をなすものは動力資源の巨大な發達に在つた。都市及州の地區發電所の新設及技術的改造、モスコ附近に於ける石炭採掘の堅實な發達はモスコの電力エネルギーの消費額を一五億三千五百萬キロワット時迄増加させた。之は一九三〇年度より二倍多く、戦前より一倍多い。然しモスコに於ける電力供給の缺陷は發電所の送電能力が電氣に對する住民の増大し行く需要に相伴はない爲、今日に至る迄依然として残されてゐる問題である。

最近モスコに煖房設備が開始され、此の事業に於ける最初の成功を博した。一九三〇年に於ける煖房中央發電所の總消費量は五萬四千カロリで、僅か四年間に殆んど一五倍に増加し、更に一九三四年に至つては七八萬カロリに達した。現にスターリンスキー及フルンゼンスキーの二大特別火力發電所が新設されつつあるが、一刻も早く之を完成する爲に最近多くの人力、物力が動員されなければならない。モスコを薪炭工場から解放すべしと謂ふ問題は、煖房設備の發達を以てモスコ市改造の最も重要な部門となすものに外ならない。

モスコ瓦斯工場の生産能力は二倍に増加し、其の生産額は一年八千萬立方米迄に達した。

モスコ工業及都市經濟の特に急激な發展、ソヴェト聯邦の首都の文化的、政治的意義はブルジョワ都市の歴史に未だ會つて見られない程の人口増加現象を招來した。一九二二年に於けるモスコの人口は一、六一八、〇〇〇人であつたが、一九

二〇年には戦争内亂の爲、一、〇二七、〇〇〇人に減少した。然し其の後一四年間にモスコの人口は三・五倍に増加した。一九三五年一月一日に於けるモスコの人口は三、六四一、〇〇〇人を算した。最近の四年間にモスコの人口は九一七、〇〇〇人丈増加してゐる。

モスコは人口の點で世界大都市間に於て紐育、倫敦、東京、巴里及伯林に次ぎ第六位を占めてゐる。一九一三年にモスコは第九位を占めてゐた。一九三三年に施行された旅券制度は非勤勞的な外國人をモスコから驅逐し、人口の移動を調節する上に著しく貢獻する所があつた。一九三三年及一九三四年に於けるモスコ市人口の自然増加は殆んど停止してしまつた。

モスコ市に於ける人口増加率は各區を通じて平均してゐなかつた。幾多大工場の存するスターリンスキー區(四七・五%)及プロレタルスキー區(四七・二%)に於ける最近三年間の人口増加率は其の最も顯著なものであつた。敍上の如き状態は將來の都市計畫に於て特に考慮を要すべき問題である。即ち先づ第一に之等二つの人口稠密な區の人口配置の爲地を區分しなければならぬ。最近の四年間丈でモスコの工業に従事せる労働者及勤務員は三四九、〇〇〇人丈増加してゐる。工業の各部門に亘る労働者の増加はモスコ工業の構成上に重要な影響を及ぼしてゐる。例へば金屬工及建設材料工業労働者の比率は一九一三年の一六・一%から一九三四年には三四%迄に増加してゐる。

最近の四年間に凡ゆる經濟部門を通じ、殆んど三〇、〇〇〇人婦人労働者及勤務員の増加してゐる事實は又同様モスコ人口構成上に於ける變化の特質を示すものとして大なる意義を有する。社會給食、保健衛生、教化等各種部門に於ける婦人労働は壓倒的なものとなつた。

工業に従事する若い労働者の著しい増加も亦一特色である。二三歳迄の若者は全工業労働者の約三六%を占めてゐる。

かゝる資料に觀るもプロレタリアートが如何に廣汎な生産部門に従事してゐるか、而して勞働者及勤務員の家族収入の増加が如何に顯著であるかを明瞭に看取することを得るのである。

モスコイ人口の急激な増大、此の時期に於ける勤勞者一人に對し平均四一・八%の賃銀増加、勞働者及勤務員の家族収入の著しい増加及勤勞者の大なる文化的、政治的向上等の諸原因は相合して住宅及學校建築、商業網、保健機關、都市交通等の高度の發達を過去に於て要望したし、又現に要望しつゝある。

十月革命の當初に於てモスコイでは五〇〇、〇〇〇人以上の勞働者、勤務員が堀立小屋や穴藏から諸施設完備する宿舍に移された。革命前ブリワール環狀路に於ける立派な住宅には約三・五%の勞働者(それも特にブルジョワに使役された者即ち火夫、番人、庭掃除夫等)及サドワヤ環狀路に於ては約五%の勞働者が生活してゐた。一九三〇年には「A」環狀路には三・七%の勞働者及「B」環狀路には五〇%の勞働者が生活するに至つた。

然し黨及ソヴェート當局の之等に關する重要對策も吾人の繼受した未開發状態にある都市經濟を單に勞働階級及勤務者の爲に建直すことを意味するに過ぎない。此の立ち遅れた都市經濟は戰爭、武力干涉者及反革命に對する武力抗爭の行はれてゐた八年間には發達する所か却つて破壊の一路を辿つて行つたのである。モスコイに於ける住宅の修繕は一九二二—一九二三年に行はれ、一九二四年に始めて住宅建築が新たに開始された。都市經濟復興の速度は工業及農業のそれに比較すると全く緩慢であつた。工業及農業が其の復興期を終了した一九二七—一九二八年に至り始めて黨ソヴェート當局は都市經濟の復興及發達に關し廣汎なプログラムを展開することを得た。國家の工業化及集團化の幾多の成功は右プログラムを實踐に移すに必要な凡ゆる條件を創造したのである。

左の資料はプロレタリア首都發達のテンポ及都市經濟の凡ゆる部門に於ける總投資額の増加を示すものであるが、之はモ

スコイ市經濟の發達に關するテンポ及總べての市經濟部門に於ける投資額の絶えざる増加、更に中央委員會六月總會後モスコイ改造途上に於て黨の逢着せる深刻な轉換を明らかに物語つてゐる。
自一九二四年—至一九三四年モスコイ市經濟への投資額 (單位千留)

年 度	住宅建築	都市運輸	給 水	下 水	道路事業	綠 地	清 掃	街路照明	公益企業 の他の部	總 計	工場	公衆 食 堂
一九二二—二四	一〇、八八六	三、六五五	二、〇五五	六、八	一、八七					一七、七四		
一九二四—二五	二、一七二	五、五八	三、〇〇元	一、九四	一、八八					三、三九		
一九二五—二六	四、五三三	一三、七四三	三、五五	二、九金	二、四八				一、四四	六五、六六		
一九二六—二七	七、三三六	一五、三五五	四、八四六	三、二〇	一、七五				二、八四	一〇三、五四三		
一九二七—二八	八、三三六	一八、八八一	五、六四九	五、〇四	二、四二				一、六四	一五、四八		
一九二八—二九	九、九七	二二、九八三	六、八八七	六、〇三	七、四六				一、七六	二、七二		
一九二九—三〇	八、六五	二九、九五三	九、六四	九、四四	三、〇九				二、三〇	一四、二一		
一九三〇—三一	八、八八	四七、七六	一〇、八八	七、七四	一、九七				七、五	一七、四八		
一九三一—三二	一六、〇五	六二、三三	一六、三六	七、五三	二、四七				一、六三	二六、一七		
一九三二—三三	一六、九五	一五、三三	二六、八九七	八、六三	三、七〇				八、〇四	三二、一七		
一九三三—三四	一四、六六	五九、九七	一八、九七	一〇、一	四、〇三				二、〇八	四二、二五		
總 計	九三、一〇四	九九、三九	一〇八、六五	三、六三	二七、九六	一一、九五	六、一五	四、九六	一〇、五八	二、三三、四六	五、一〇三	七〇、五元

政府及黨の大なる援助は最近モスコイ市經濟發達の上に一轉期を劃した。かうした幾年かはモスコイ市經濟にとつて新しい時代を開いた。而して此の時代の端緒を爲したものは、スターリンの發起に基き、一九三一年六月黨中央委員會會議に於てカガノヴィツチの報告せる歴史的な決定であつた。茲にモスコイ改造及將來の都市經濟の發達に關する具體的なプログラ

ムが展開され、モスコイ市經濟の大小幾多の問題は其の後新しく提出され、其の實際的な解決の規模は老大なものがある。首都の改造に偉大な貢献を爲したのとしては六月總會の決定に依つて着手された地下鐵の建設を擧げることを得る。一・九料の延長の第一期工事は既に完成した。非常な難工事であつたにも拘らず、ソヴェートの技師及労働者によつて短期間に建設された第一期の地下鐵は交通の最も輻輳する區に於ける市内乘客輸送を著しく緩和してゐる。

モスコイ市經濟を根本的に改造する第二の大なる手段は中央委員會六月總會の決定に基き開始されたモスコイ・ヴォルガ運河の建設である。運河は延長一二八料、幅員八五米、深度五・五米である。土工事の事業總量は一億三千四百萬立方米である。此の巨大な運河は文字通りモスコイを水の飢饉から救ひ、水の消費を充分保障して、永遠に且つ迅速に給水事業を完成した。と同時に運河は南方及北方に對する最も豊富な水路をモスコイに提供し、モスコイ河、ヤウザ河及都市の幾多の貯水池を灌漑し、住民の衛生及生活狀態を著しく改善するであらう。

新しく建設された最大のヴォルガ水道發電所と相並んで間斷なき給水をモスコイに保障すべく、現存する幾多の發電所が擴張された。此の結果都市への給水は一九三〇年の二千三百萬ヴェドロ及一九一三年の八百萬ヴェドロに對して現在は一晝夜四千七百萬ヴェドロに増加した。

モスコイの水道の給水能力は現在の水準を越へること五・五倍に及ぶ。

之はルーブリフスカヤ發電所の強化及一晝夜の給水六百萬ヴェドロの新しいチレブコフスキー發電所の第一期工事の完成により達成されたのである。一九三五年には此の發電所の能力は一晝夜一千二百萬ヴェドロに達するであらう。

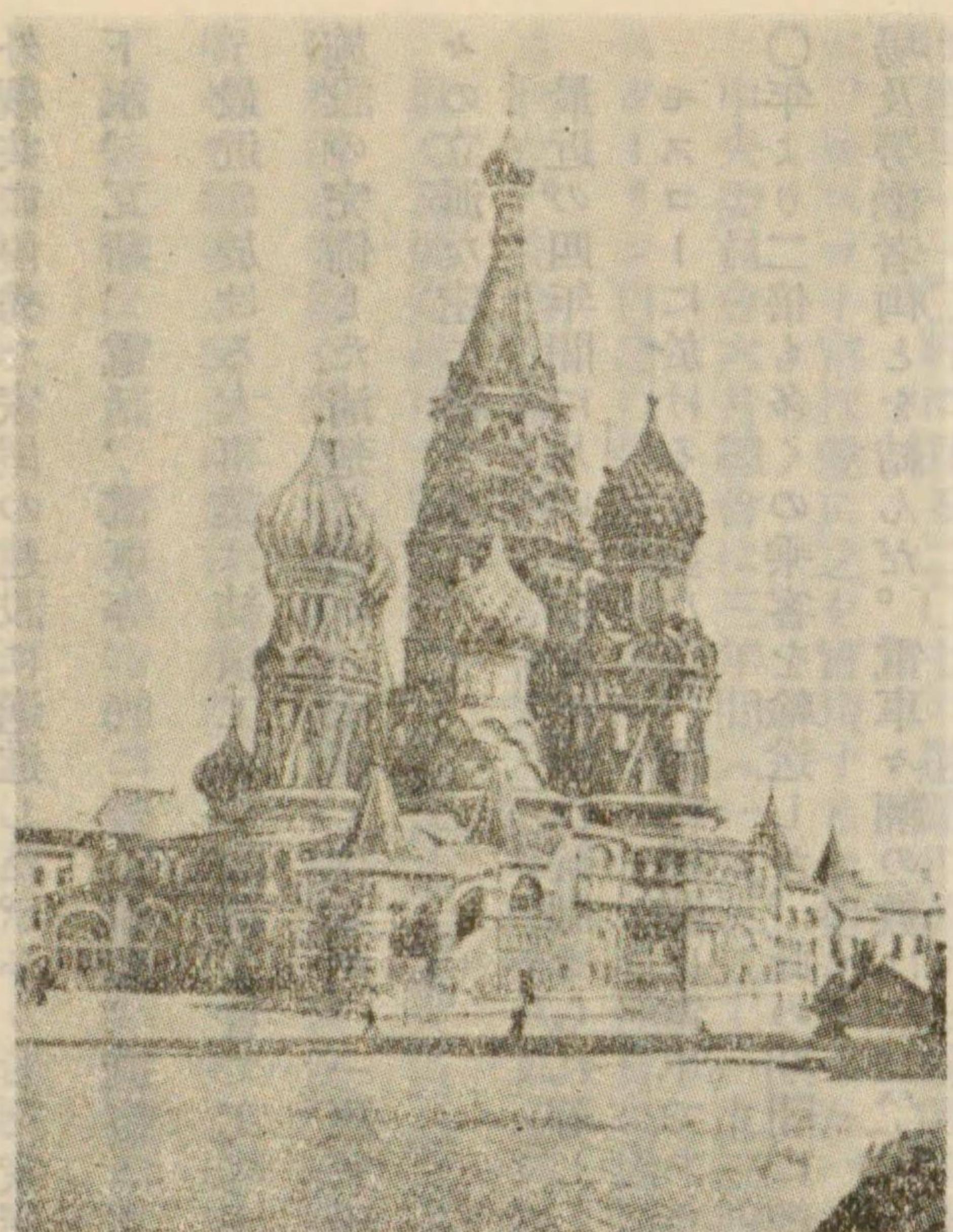
四年間に二八料の水道枝線が敷設された。之に依り一、二〇五の住宅が水道を利用し得ることとなつた。

此等の手段は新しい工業地區に於ける給水を著しく改善し、都心への給水を統制することとなつた。モスコイに於ては現

在一〇〇人中九五人は水道を利用してゐる。人口が甚しく増大して行くに拘らず、モスコイに於ける一人當水の消費量は一九三〇年の一一一立、一九一三年の六一・五立に對して現在一六〇立に達したのに過ぎないのである。

上水の發達と平行してモスコイ下水も亦擴張された。四年間に五九料の新しい下水網が敷設されたのであるが、其の殆んど半はプロレタルスキー及スターリンスキーの新しい工業地區に敷設されたのである。ソヴェート聯邦に於ては最初の淨水場がカヂウーホヴォに建設され、既に作業を開始した。又他にもかうした淨水場建設が計畫されてゐる。

住宅建築は人口の急速な増加及モスコイの古い住宅地が極端に未開發狀態に停頓してゐる爲、依然都市經濟の最も緊急な問題の一とされた。



院寺大ーリシワ聖

最近四ケ年にモスコイでは面積二百十萬平方メートルの住宅地が建設された。此の建設費は約五億二千五百萬留であり、此の新しき住宅地に建設される住宅には約五十萬人を收容することを得る。

最近の住宅建築の特色は主として高價な大家屋の建築であつた。黨モスコイ委員會及モスコイ市ソヴェートは斷乎不良建築家屋を一掃した。一時は「プロレタリア的」建築の下に内外共に醜惡な倭屋が建設されたが、之等の家屋は施設の完備した地區から遠くの部落に移轉せしめられた。黨モスコイ委員會及モスコイ市ソヴェートは、斯くの如き住宅建築を排撃し、内容

外觀共に優秀な家屋の建設に邁進した。かうした家屋は原則として都市の主要な街路、河岸通、廣場に存し、其處は水道、下水、瓦斯、電話、電車等が既に敷設され、道路は立派に舗装される等文化的施設に充分恵まれてゐる。

最近に於ける大事業は紡績工場に附屬し會て工場主が建設した労働者用住宅の取毀しであつた。改造された労働者住宅は施設の完備した清楚な明るい家屋と化した。一萬三千人の労働者（而も其の大部分は紡績工であるが）は共同宿泊所から別々の立派な室に移された。

最近の四年間に凡ゆる運輸機關は統制せられ著しい發展を遂げた。

モスコーに於ける主要な市内運輸機關は電車である。一九三四年にモスコーの電車は十九億二千萬人の乗客、即ち一九三〇年より二倍も多くの乗客を輸送した。此の期間に總延長九〇・六軒の市電路線が新設された。此の路線は都心と新しい工場及労働者街とを結んだ。電車々輛の數は一、六六一から二、四七五迄に増加し、都心と工業區を繋ぐバスの運轉系統は著しく増加し、電車々庫數亦二・六倍に増加した。變電所の技術的装置及電線網は復興し、改造され、一段と強化された。

現在第二の最も大衆的な運輸機關はバスである。ソヴェート自動車工業の急激な發達はバスの輸入を完全に停止せしめたのみならず、モスコーに於ける其の臺數を二倍に増加した。バスの路線は二七敷設され、其の總延長三三六軒に達した。一六のバス運轉系統は都心から主要郊外地に迄延びてゐる。バス系統の半分は最近の四年間に敷設された。タクシーの車庫は殆んど二倍に増加した。

然しバス、殊にタクシーの車庫は現在數では不充分であるから近い將來に於て著しく増加せしめなければならない。

一九三三年の末期からモスコーに新しい全く大衆的な運輸機關が現はれた。即ちトロリー・バスである。五〇臺のトロリー

一・バスを使用したか、その成績極めてよく、而して此の運輸機關は近い將來に於て異常な發達を爲すであらう。

モスコー河上に市内乗客運輸機關の新設を見た。即ち一九三二年に組織されたモスコー沿岸汽船會社は當時十七隻の蒸汽船を有してゐたが、一九三四年に於ては七三隻の蒸汽船、五隻の船舶、五隻のモーター・ボートを有するに至つた。

中央委員會六月總會後に於ける舗装街路の建設は都市の衛生狀態改善にとつても、將來急激に發達して行く自動車運輸にとつても重大な意義を有する。

革命前に完成された舗装道路は十九萬八千六百平方メートルで、其れはモスコーの全舗装面積の約二%にしかなかつた。他のモスコーの街路は總て丸石で覆はれてゐた。特に場末の如きは全く舗装されてゐなかつた。一九一一年にモスコー市會は延長一一〇軒に亘る二〇七の道路に於ける舗装の改造を計畫した。其の實現に要する豫定期間は十年間であつたのであるが、モスコー市は遂に之を實現するを得なかつた。

中央委員會六月總會は三年間（一九三二—一九三四年）に二百萬平方メートルに及ぶ道路建設を決定した。中央委員會の決定、スターリン自身の指導及カガノヴィツチの連日の指揮が此の領域に於ける徹底的な變化を爲し遂げた。黨の訓令は悉く遂行された。完全な舗装廣場は一九三〇年の七八五、九〇〇平方メートルより、二、六二〇、〇〇〇平方メートルに増加した。

最も重要な都市の幹線、中心に於ける大部分の補助道路、市内十區に於ける主要道路、中心より大工場に至る道路及都市と砂利道とを繋ぐ幾多の道路が完全に舗装された。之等を合計して、此の時期にモスコーに於ては一五五の最も重要な道路及廣場の舗装が完全に施行されたのである。

舗装工事は著しく改善せられ、其の舗装も良質となつた。

革命前に於けるモスコー河岸通は甚だしく荒廢してゐた。河岸通の建築及施設に關する問題が中央委員會六月總會に提出

された。一九三三年六月建築家の會議に於て同志カガノヴィツチは河岸通の改築及建築に對して考慮すべき旨のスターリンの提議を指示した。一九三五年の當初迄に約十一軒のモスコイ河岸通が花崗岩で鋪裝された。

其の他モスコイ市經濟の各部門も亦中央委員會六月總會後急激に發達して行つた。街燈の數は二倍に増加し、五〇以上の部落に電燈が引かれた。都市清掃事業の改善は顯著なものがあつた。浴場及洗濯場が新設され、又都市の綠地事業が施行された。最近四年間に十四の學校が新設増築せられた。又一九三五年には七二の學校が新設された。子供の爲の施設物は二倍に増加した。四年前モスコイに於ける生徒數は二四〇、〇〇〇人であつたが、現在は四五〇、〇〇〇人に増加した。保健施設網も著しく整備し、其の釣床ハシモツクの數は僅々一年間に一一、五〇〇から一四、〇〇〇に増加した。七個所の公衆診療所が新設された。

社會給食は經濟の領域に始めて大きな部門として新たに登場して來た。一九三〇年にはモスコイに僅か三つしかなかつたのが、一九三四年には二六に増加した。四年前に於て社會食堂(共同食堂)の利用者は百三十萬人であつたのが、一九三四年には二百四十四萬人に増加した。社會食堂に於ける衛生の點には深甚な考慮が拂はれた。

かうした動かすべからざる事實及數字は、最近に於けるモスコイ市經濟の總べての部門の未曾有の發展を物語るものである。凡ゆる領域に於て夫々對策が考究され、優秀な幹部が養成され、茲にプロレタリア首都の將來の發達及改造の基礎が決定されたのである。

最近の二年間は都市の計畫及建築構成上に於て重大な意義を有してゐた。

一九三三年には建築計畫事業が徹底的に再組織された。幾多の獨立した計畫機關、市街地研究委員會及二〇以上の計畫案研究所が創設され、而して此の事業には大建築家及多數の若いソヴェートの専門家が動員せられた。モスコイ市ソヴェート

及黨都市委員會に附屬して、カガノヴィツチの唱導に係るモスコイ市建築及計畫に關する諸問題の研究委員會が設置された。茲に於てか建築的設計に對する要望が次第に昂まり、其の質の方面に於ても種々改善が加へられた。

此の時代には多くの廣場及街路が全く改造された。一九三三—一九三四年には從來交通を阻害してゐた多くの朽廢建築物が撤去された。左は其の例である。即ち、極度に交通を困難ならしめてゐたスウハレフスカヤ塔は取り拂はれ、其の場所に大廣場が建設された。ノーギン廣場からスヴェルドロフ廣場迄のキタイ・ゴードロ城壁が取毀され、此處に新しい廣大な大通りが築造された。更に、劇場、通路及マホーバヤ街路が擴張された。不潔な食糧品屋や飲食店等の密集してゐた會てのアホートヌイ・リヤードにはモスコイ市ソヴェートのホテル及ソ聯邦勞動國防會議委員會の家等の美麗な大建築物が屹立してゐる。

中央委員會六月總會後の數年間はプロレタリア首都の社會主義的改造が大規模に展開された時期であつた。改造事業はスターリンの指令に基き黨モスコイ委員會、モスコイ市ソヴェート及カガノヴィツチ自身指導の下に行はれた。此のことはボリシエビツクの飛躍、事業の急速的展開の向上を保障した。

然し我々は都市經濟の發展過程に於て著しい躍進を爲し遂げたとしても、其の發達の水準に於て先進資本主義諸國の大都市に比較すれば尙依然として後塵を拜してゐる。

最近實現を見た新住宅建築の著しい發達にも拘らず、勤勞者の住宅状態は尙不滿な點が尠くない。住宅地は大部分、木造の、古い、施設の悪い其の上技術的に缺陷の多い倭屋によつて占められてゐる。

勤勞者の住宅状態を根本的に改善する爲めには人口の増加、住宅に對する各種の要望、古い建築物の撤去等を考慮して、長期に亘り大事業を繼續し、更に住宅面積を大いに増加し、同時に其の質の方面に於ても漸次改善して行かねばならない。

住宅建築は都市の根本的改造、計畫、運輸及文化施設網の發達と歩を同じくして進行して行かねばならない。

モスコーは又上水及下水に於ても後れてゐる。人口の増加、住宅の不足、公共施設の不足、新設の浴場は施設の點では充分なりとするも、數に於て不足である。新設の浴場は施設の點では充分なりとするも、數に於て不足である。新設の浴場は施設の點では充分なりとするも、數に於て不足である。新設の浴場は施設の點では充分なりとするも、數に於て不足である。

公衆洗濯場は未だ充分住民に奉仕の目的を達してゐると謂ひ難い。學校の數及其の建築の規模に至つては未だ不十分である。現在の圖書館の數を以てしては未だ住民に對して充分奉仕することを得ない。モスコーの劇場は座席に於て觀客の要求を満たし得ないのみならず、更に映畫館に至つては其の數が全く少い。

我が社會主義發達の全過程は幾千と謂ふ新住宅の建築、幾百幾千もの學校、兒童遊園地、託兒所、診療所、俱樂部、病院、劇場の建築等の尤大な課題を我々の前に提出してゐる。住宅の建築、幾百幾千もの學校、兒童遊園地、託兒所、診療所、俱樂部、病院、劇場の建築等の尤大な課題を我々の前に提出してゐる。住宅の建築、幾百幾千もの學校、兒童遊園地、託兒所、診療所、俱樂部、病院、劇場の建築等の尤大な課題を我々の前に提出してゐる。住宅の建築、幾百幾千もの學校、兒童遊園地、託兒所、診療所、俱樂部、病院、劇場の建築等の尤大な課題を我々の前に提出してゐる。

之等の建設は廣汎多岐に亘り、莫大な費用を要し、且つ科學的プランに依るに非ざれば之を實現することを得ない。それは又地域の根本的な改造をも要求する。都市計畫を施行し、且つ人口分布の爲の地域改造を施行しなかつたならば、巨大な住宅建築を眞に展開させ、運輸、文化生活的諸施設の開發を企圖し、或は都市の衛生設備を完全に改善することは之を期することを得ない。

モスコーに於て現に痛感されてゐる街路の狹隘、彎曲、多數の袋路及交叉點の爲に歩行者及自動車が道路横斷に於て特に困難を感じ、更に屢々悲しむべき事故を惹起するのを目撃するとき、地域の根本的改造及周到なプランによる都市建設の要望益々切實なるは多言を要せざる所であらう。

四、モスコー市改造の基礎問題

一 現在錯雜を極めてゐる幾多の都心に多數の工場を集中せしめることを不合理とし、モスコー及レーニングラードには工場の新設を認めざる旨の黨中央委員會六月總會の決定に基き、モスコーには直接都市の需要を満たす施設以外の（パン工場、冷蔵庫等）工場は原則として新設されないであらう。

將來に於ける工場の改造は労働過程の最大限度の機械化、電化及自動機械化を基礎として施行される。

工場の或る種のもの（將來モスコーから漸次他へ移轉せしめることとする。先づ第一に周圍の住民にとつて保健衛生上有害な工場（主として化學工場）、發火の虞ある危険な工場乃至は新設擴張された幹線道路及河岸通に於ける規模小さく技術的にさほど價値のない多くの工場が移轉せられる。之等の工場の移轉は都市の衛生状態を改善することとならう。

二 モスコーに於ては今後企業工場の新設を一切停止すべしとの規定は人口の將來の發達を制限する。モスコー市計畫は大體五百萬の人口を基礎とする。

「モスコーを資本主義都市に反する社會主義都市として計畫するに際して、さほど大きくない區域に多數の人口、工場、學校、病院、劇場、俱樂部、商店、食堂等を密集させてはならない」との一九三一年の黨中央委員會六月總會の指令に基き、サドワヤ環狀路内及東南工業地區に於ける過剰人口密度を低減すべく計畫されてゐる。而して其の地は現在住宅地一ヘクタールに付一、〇〇〇人であるが、將來は其の密度を一ヘクタールに付四〇〇人迄とする。住宅地として最も便宜且つ貴重な各地區に於ては（例河岸通等）人口の密度は一ヘクタールに付五〇〇人迄は許容されるのである。茲に於て住宅、仕事場、經濟生活的施設及文化施設が相互に最も衛生的な状態に於て直接連絡し得る様配置せられねばならない。

市域に如何に人口を配置するかと謂ふ計畫は住宅建築の進行及び住宅状態の完成に従ひ、モスコイ住民一人に對する住宅面積の規律ある増加から出發する。

三 豫定計畫は左の地區を綜合して、市域を一九三四年の二八、五〇〇ヘクタールから六〇、〇〇〇ヘクタール迄將來漸次擴張して行く。

レーニンスキー丘の背後のレーニノ（以前のツアリーツイノ）からクンツエヴォ迄面積約一六、〇〇〇ヘクタールを占める新しい西南地。

イズマイロフスキー附近、約二、四四五ヘクタール。

ペローヴォ・クウスコフスキー附近、約二、四〇〇ヘクタール。

テクスチリーシチキ、約二、七〇〇ヘクタール。

リユーブリノ、一、六三五ヘクタール。

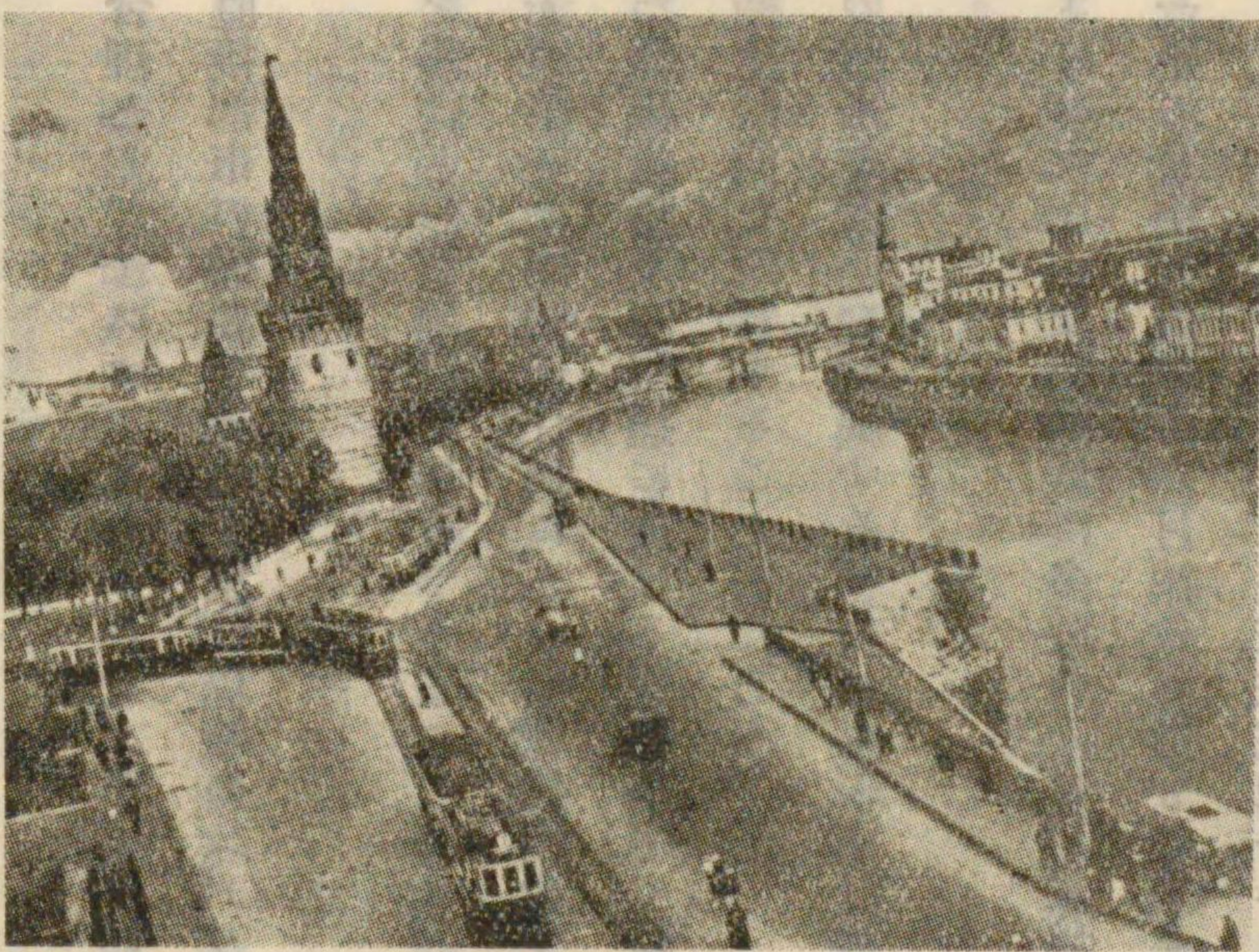
ノーヴインキーノガシノ、八一五ヘクタール。

トウシノーザハルコヴォオブリノリホポリイ、約三、一〇〇ヘクタール。

テイレホーヴォームニョーブニキーハローシエヴォーシチウキノ、一、七〇〇ヘクタール

○ヘクタール及現在既に編入され或は近き將來に於て市域に編入せられる其の他の土地。之等合計三二、五〇〇ヘクタールが將來に於てモスコイ市に編入されるのである。

之等の地域は總て建築の爲モスコイ市の場合に於けると同じく、區劃整理を施行して將來モスコイ市に編入さるべき地と



モスコイ河岸通

爲される。而して計畫幹線に沿ふて建築案を決定し、同時に其の地域に於ける居住地の行政的管理權をモスコイ市ソヴエトに從屬せしめることとする。逐年此の區域に建築物、教育施設、下水、水道等の完備するに隨ひ此の地域は市に編入されるのである。

四 モスコイ市域計畫の基礎問題を爲すのは左の如きものである。

第一に街路を擴張改修し、現在の幹線街路の幅員を三〇—四〇米に擴張し、現存する幹線で歴史的に複雑した放射環狀組織は之を徹底的に再計畫し改修し、且之に統制を與へること。

第二はレーニンスキー丘と共にモスコイの新しい中心地となるに至つたモスコイ河岸通の改造を企圖し、此處に於ける建築物は一切之を統制し一層建築美を發揮せしめることである。

第三、レーニンスキー丘の背後の新しい西南地の計畫的建設。此の土地はモスコイの中で土地最も高燥、繪畫に見る如く美しい所であり、百五十萬の人口を包容することを得る。

第四には都市及廣場の改造である。

ヂエルヂンスキー廣場からソヴエト宮殿に向つて更に遠くルーヂニクへ、又モスコイ河を棧橋によつて越へて新しい西南地へ向ふ直線の廣い大通が敷設される。

五 ヴオルガ・モスコイ運河建設の結果灌漑の便を得たモスコイ河岸通は總べて住宅建築及公共建築物の爲に割當てられる。右河岸は花崗岩を以て鋪装され、階段、乗客の乗降場が設置せられ、橋梁は現在新設又は改造されつつある。而して此等は河岸通の綜合的建築美を發揮する。曾ては荒廢し不潔な下水溝を爲してゐたヤウザ河の河岸通も亦同様な方法に依つて改造されつつある。

六 左の放射幹線道路は擴大され、直線とされ且つ緑地化される。而して此の幹線道路は三本の直徑を形成して市を横斷してゐる。

(a) イズマイロヴォーストロムインカーソコロリニキールサコフスカヤ・コムソモリスカヤ廣場・ノヴォキーロフスカヤ・ノヴィ・ブロスベクト(新大通)・ルーヂニコフ・西南地。

(b) レーニングラツキー・シヨス・ゴリキー通・中央半環狀路・ソリヤンカー・スターリン記念工場のある新しい環狀路・ユージヌイボルト(南港)。

(c) オスタンキンスキー公園・コムミューン廣場・ロヂストベンカーキタイ・ゴードーバリシヤヤ(大の意味)・オルディンカ及マラーヤ(小の意味)・オルディンカーセルプウホフスキー・シヨス。

カーメル・コリヂスキー環狀路の改造が終了し、主要な公園緑地帯を連絡する新しい公園環狀路が敷設される。

放射環狀幹線路の改修以外に、各區を連結し、且つ中心地の交通輻輳を緩和する爲、四本の相互に直角に交叉する幹線が新設される。

(a) コムソモリスカヤ廣場・モスコイ白露バルチツク驛の廣場。

(b) コムソモリスカヤ廣場・アベリマノフスカヤ^{ワグダイフ}關所。

(c) モスコイ白露バルチツク驛の廣場・キエフスキー驛の廣場。

(d) シェリビーハーザモスクワレーチエープロレタルスキー區。

七 都市の擴張は主としてクンツェヴォからレーニノ(以前のツアリーツイノ)迄、レーニンスキー丘の背後のモスコイ河に沿ふて百五十萬の人口を包含し得る西南方に於て施行される。此の地區はノーヴィ・ブロスベクト、モヂヤイスキー、

カルウヂスキー、セルプウホフスキー・シヨス及ベレンコフスキー河岸通の街路等、モスコイの現市域と有機的に且つ緊密に連絡するであらう。

八 社會主義首都五百萬人口の文化生活的要求に對する全般的な奉仕施設を基礎として、住宅建築と共に文化的施設網の建設に特殊な注意が向けられる。

九 公共建築物、住宅、廣場、街路、公園等都市の建築に於ては古典的な或は新しい建築形式の粹をとり、一方現代の建築的建設技術の成果をも利用しなければならない。茲に於て記念的建築物が特に異彩を放つのである。之等はプロレタリア革命の首都としての都市の外貌を決定し、而して都市の綜合的計畫に於ける之等の建築的美觀及配置は藝術的文化的特に高度な水準を要求する。此處に建築されるものとしては、例へばソヴェト宮殿、工業館、地區ソヴェト會館、赤軍劇場、メイエルホリド記念劇場、モスコイ州労働組合會議記念劇場、レーニン圖書館、科學學士會館、マルクス・エンゲルス・レーニン研究所、全露醫學研究所、建築學士會館、書籍の家、タス通信の家(ソ聯電報通信社の家)、學校、大停車場、ホテル、地區百貨店、イズマイロフスキー競技場等がある。

廣場、公園、河岸通に於ては凡ゆる世紀及民族の卓越せる革命家、科學、技術、藝術の巨匠及暴虐なる社會組織や自然の脅威から人類を解放した闘士を記念する建築物の設計が計畫されてゐる。

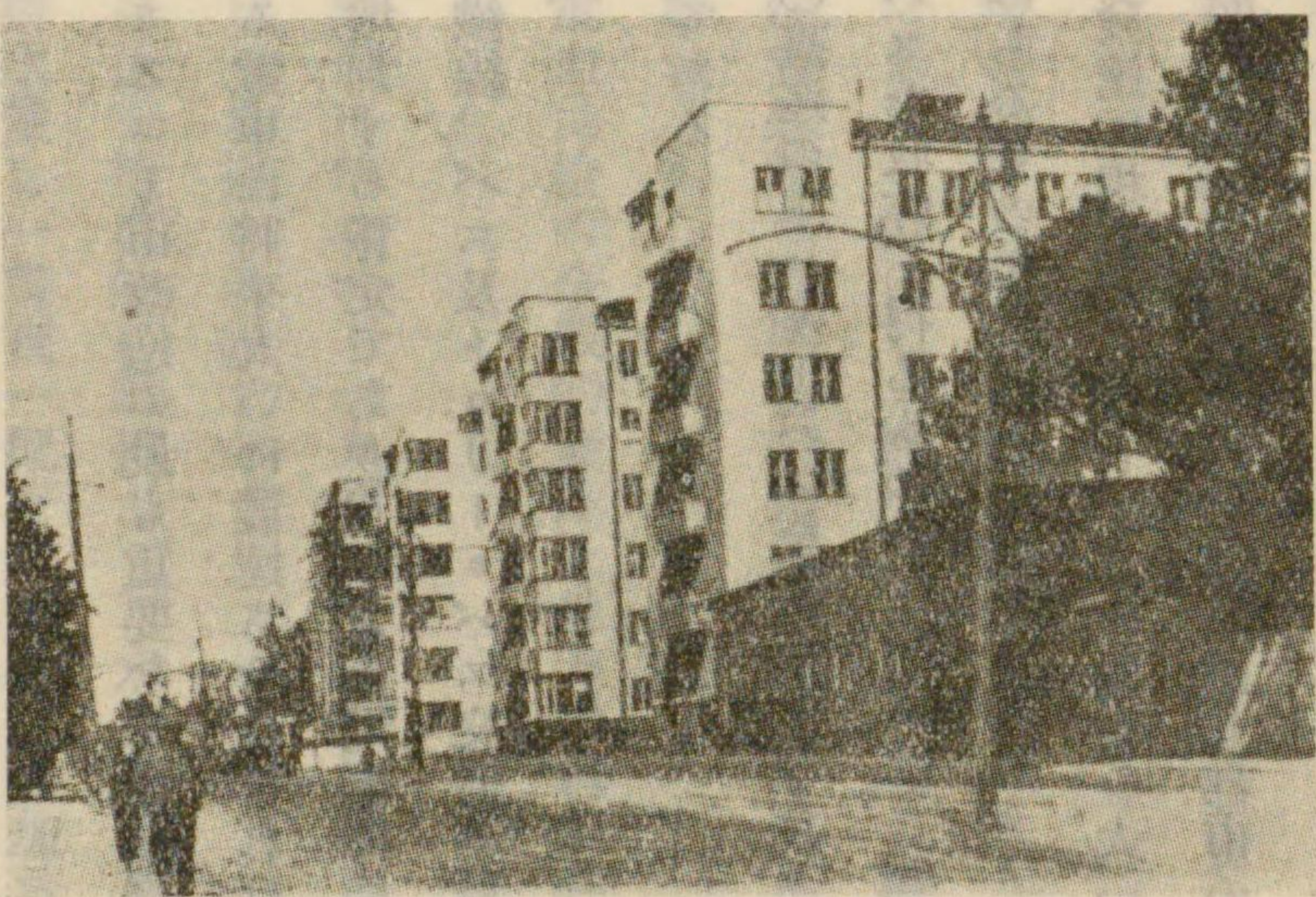
モスコイ地域計畫の最も重要な要素の一は都市の緑地化である。勤勞者の生活及休息の保健衛生上茲に都市の建築美觀上植樹の重要意義に鑑み、將來モスコイに於ては緑地廣場の著しい増加を計畫すること。現在諸處に存する緑地帯を擴張し、改造し且つ灌漑して、市内に左の如く多數の公園を建設する。

- (1) スターリン記念イズマイロフスキー公園、一、九五六ヘクタール
 - (2) 新しい西南地及セトン河邊に擴がつてゐるレーニンスキー丘を包含するゴリキー記念中央公園及ルーヂニーク、約三、二〇〇ヘクタール
 - (3) ソコリニーチスキー公園、九五二ヘクタール
 - (4) クラスノブレズニンスキー公園、八一ヘクタール
 - (5) フイリ・クンツエフスキー公園、一、一九八ヘクタール
 - (6) ヒムキンスキー公園、一三三ヘクタール
 - (7) テミリヤゼフスキー公園、一四三ヘクタールの現在公園及二四六ヘクタールの新設公園
 - (8) リホルズスキー公園、五一〇ヘクタール
 - (9) オスタンキンスキー公園、三七三ヘクタール及之に近接する新しい動物園、二五三ヘクタール
 - (10) クスコフスキー公園、五七八ヘクタール
 - (11) クズミンズスキー公園、六七六ヘクタール
 - (12) レーニン・コロメンスコエ、一、七四〇ヘクタール
- 其の他森林、貯水池等(デューデノ、チヨープルイ・スタン其他)幾多の大公園が都市の新しい西南地に建設される。都市の緑地事業を實現する爲都市の周圍一帯に亘り廣汎に植樹園及温室を設ける。
- 十一 將來施行される巨大なモスコイ給水計畫の實現はモスコイを全く一變せしめることとならう。最近開通を見たヴォルガ・モスコイ運河は給水、灌漑、航行の幾多の問題を同時に解決し、又モスコイを中心とする二大

環狀水路となる幾多の運河及貯水池建設を計畫させる。又右ヴォルガ・モスコイ運河はモスコイ河の曲折を修正してヤウザ河の改造を促進し、更に船舶の航行、勤勞者のスポーツ及休息の爲其の河面を大いに利用せしめることとなるのである。

左の建設が計畫される。

- ヒムキ村からニコリスコエ村迄レーニンダラツキー・シヨスに沿ふて都市の西北部にヒムキンスキー貯水池の建設
- ハローシエフスキー・セレブリヤンヌイ松林の附近に於てモスコイ河を直線とするハローシエフスキー運河の建設
- ドロゴミロフスキーの曲角(河岸邊の)ザモスクワレーチエに於てモスコイ河を直線とするアレドレーフキー及ドロゴミロフスキー運河の建設
- カラムイシエフスキーの修正。
- ヒムキンスキー貯水池からヤウザ河迄都市を得る。
- ヒムキンスキー貯水池の東方沿岸にはセーベルヌイ・ポルト(北港)、一方カヂウーホヴオ地帯にはユージヌイ・ポルト(南港)



舍宿寄校學るけ於に通ヤカスフゴーロビ

の北方地區を貫流する運河(テミリヤゼフオースタンキー)。と同時に延長一〇料の市域をまるで深さ一〇―四〇厘の下水溝が開かれた儘になつてゐるやうな光景を呈してゐるヤウザ河を改造する計畫が施行される。而してヤウザ河はヒムキンスキー貯水池からの水によつて灌漑され、更に下水の放流が禁止される結果、綺麗な河に變化するであらう。此の河は幾多の公園の間を縫つて貫流し、小さなモーター・ボートが航行することを得る。

の建設が計畫されてゐる。ヴォルガ・モスコイ運河の組織は市外公園の地區に廣々とした河川流域を創設し、それはモスコイ勤勞者の休息の地として廣く利用されるであらう。

十二 住宅建設及文化生活的建設と相並んでモスコイ市改造の最も重要な課題を爲すものは都市運輸の改造である。地下鐵と平行して都市の重要な交通機關である電車は將來大いに發達させなければならない。最近一〇年間に於てモスコイの市電網は現在の四四〇軒から尙四〇〇軒丈増加する豫定であり、一方市電車庫に至つては最近の三年間に二、六五〇の車輛を收容し得る様増築する豫定である。地下鐵線、バス及トロリー・バス交通の發達につれて、市電の線路は交通の輻輳する中心の幹線路から市外へ移される。

最近三年間に左の車庫の面積を擴大する豫定である。

トロリー・バス車庫は五〇臺から一、〇〇〇臺迄のトロリーバスを收容し得るものを、バス車庫は四二二臺から一、五〇〇臺迄のバスを收容し得るものを、

タクシー車庫は二、五〇〇臺迄の收容能力のあるものを、

モスコイに於ては將來輕量自動車運輸及此の發達に相應するガレージの建設を大いに發達させて行かねばならない。十三 自動車運輸の發達及都市將來の衛生問題に鑑み、最近一〇年間に期し都市の凡ゆる街路及廣場をアスファルトで完全に舗裝する計畫が實施せられる。

十四 モスコイ鐵道連絡點の改造はモスコイ市計畫上重要な意義を有する。現在のモスコイ鐵道連絡點は幾多の大なる缺陷を有する。

連絡驛の輻輳と亂雜は市内に存する無数の連絡支線及操車場、技術作業場と相俟ち、市域を鐵道により完全に攪亂してしまつた。

依つて左の實現を保障する連絡點の改造が必要となるのである。

(a) 鐵道線路、操車場、技術的作業場、線路附近の倉庫等によつて現在占められてゐる都市の部分を縮少せしめること。

(b) 連絡點に於ける貨物の流れを調節すること。

(c) 連絡點に於ける凡ゆる交通、就中郊外地に於ける交通を總て電化すること。

(d) モスコイに落合ふ多數の鐵道線路をトンネルで結合し、終端驛の數と其の機能を整理統制すること。

十五 モスコイを模範的な都市となすには、住宅建築の展開及都市運輸改造と共に、照明、給水、下水、煖房及其他の領域に於て住民の要求を完全に保證せねばならない。

モスコイ市經濟改造事業の最も重要な課題は電力供給の全般的發達及地方燃料の利用を基礎として都市を煖房化し、瓦斯化することである。

十六 モスコイの給水問題に於ては、將來の計畫に依れば、一九四五年頃迄に都市に對する給水量を一晝夜一億八千萬ヴエドロ迄に、即ち四倍増加せしめる目的でモスコイ水道を改造する。

十七 都市給水の發達に伴ひ、モスコイ下水は之を徹底的に改造し、下水の不備はヴォルガ河水を利用して最近の裡に一掃しなければならぬ。一〇年の日子を費して排水量を一晝夜一億ヴエドロ迄増加させねばならない。

下水と平行して放水路組織の新設を實現しなければならぬ。

十八 都市の地下經濟を統制する目的の下に種々雜多な地下施設（電氣、電話、電信地下網、水道管、瓦斯管等）を包含

する共同溝の建設を計畫すること。

五、モスコイ市計畫一覽

六〇

モスコイ市現在の面積は二八、五二〇ヘクタールである。而して此の面積の三四・九％は住宅及公共建築物によつて、一六・一％は工業地及特殊指定地に、八・九％は鐵道運輸に、八・五％は街路及廣場に、二・七％は水面に、一二・七％は植樹（綠地）に、一六・二％は農耕地其の他によつて夫々占められてゐる。

一九三五年一月一日附調査に依れば、モスコイ市人口は三、六四〇、五〇〇人であるが、此の數字はモスコイ市に於て現に活動してゐる者を悉く包含するものではない。郊外から鐵道によつてモスコイ市内の職場に通勤してゐる所謂郊外居住者の數をも考慮しなければならぬ。かかる郊外居住者は其の家族を加算するとき、約三五〇、〇〇〇人に達する。斯くしてモスコイ市に關係を有する總人口は約四、〇〇〇、〇〇〇を算するのである。

モスコイ市内の人口の分布状態は著しく不同である。

モスコイ市の中心地に於ける人口密度はサドワヤ環狀路内に於て、住宅街衢一ヘクタールに付平均一千人に達し、最大資本主義都市の水準に及んでゐる。

サドワヤ環狀路内に於ける計畫及建築様式の特徴を爲すものは街衢の狭小であること、（一一・二ヘクタール）建築物稠密し、特に低い家屋の密集してゐる點にある。ブリワール環狀路内に於ける六・二三〇立方メートルの容積に對し住宅階數は平均二・五であり、サドワヤ環狀路外の住宅地に於ては一・三八〇立方メートルの建築の容積に對し一・五の平均階數を有する。

モスコイ市計畫の最初の命題を爲すものは資本主義都市の自然的發達過程に於て不可避とされる凡ゆる建築上の缺陷を

除去することである。

モスコイ市計畫の基本的問題を爲す人口分布の原則は左の如くである。

1 住宅地に於ける人口密度及街衢の構築を保健衛生上の要求と完全に一致せしめ、且人口の密度を社會主義的組織の上立つ實生活の諸要求に適應せしめること。

2 市の各區に於ける人口密度の著しい動搖……資本主義都市に於ては特に顯著な現象であるが……を防止すること。

3 市住民によつて利用せられる文化的生活的施設は之を住宅地區に近接せしめること。

以上の如き考察に準據して、モスコイの人口密度は住宅街一ヘクタール當り四〇〇人と定められる。而して此の標準はモスコイ市の人口分布の算出及都市計畫の基礎をなし、同時にモスコイ市域の限界を決定するのである。

敘上の諸要件に鑑み、モスコイ市將來の發達計畫に於ては都心の分散の爲又他方増加し行く人口を配置する爲に豫備地域が豫め決定される。

人口の分布に當り先づ第一に生活上至便、衛生上最善の地區であるモスコイ河岸通が計畫される。一部の人口は職場に近接せる舊幹線路内に分布される。此處には現在、早晚取拂はるべき運命にある不良住宅が密集してゐる。

最後に人口配布の爲めにイズマイロフスキー、クウスコフスキー及クウデミンスキー等の公園の附近（テクスチーリシチキ、ペローヴォ）或はレーニングラツキー・シヨス及ハローシエフスキー・シヨスに沿ふ地帯乃至はヒムキンスキー公園附近等の如く市に隣接する新地域が豫め計畫される。然し人口分布上主要な且健康的な地區は西南地であらう。此處には一、五〇〇、〇〇〇の人口を包擁し得ると謂はれる。

將來の市計畫は其の綠地の方面に於ても深甚な考慮が拂はれる。現在郊外の凡ゆる森林、公園、市内の遊歩道及遊園地を

悉く統制し、連繫し、更に夫等に新しい緑地帯を配し、幹線道路及水路を以て之を繋ぎ、以て都市と連絡すると謂ふ課題が提出されてゐる。

基本的な緑地帯は……例へば市の周囲及東北のパゴノ・ロシーヌイ・オストロフ、西方のルブリーフスキー貯水池保護地帯の森林、南方のチヨールイ・スタン及北方のサヴィロフスキー森林の如き……新たに市に編入せらるべき郊外地に存する。環状をなして市を圍繞する此の緑地帯は二六、〇〇〇ヘクタールの面積を有し、モスコーに清澄な空気を供給する豊富な源泉となつてゐる。

右併合される森林地帯は都市防護の機能を營むものであり、此處に於ては工場は謂ふ迄もなく、住宅の建築も禁止されてゐる。此の保護地帯に於ては森林保護に關する凡ゆる法規が適用せられ、やがて郊外の公園に變化して完備せる道路網を以て市に通ずることとなる。

市公園は現在の公園面積を一四、二〇〇ヘクタール迄に擴大して築造せられる。區の主要な公園、遊園地及遊歩道が市域全般に亘り劃一的に配置され、緑地は一般と増加することとならう。將來に於ては住宅地を緑地の防護地帯によつて企業工場から隔離する方針である。市の水路幹線を爲すモスコー河及ヤウザ河の沿岸は全面的に緑地化せられる。

モスコー市の灌漑に關する大事業も又計畫案に依つて規定されてゐる。

モスコー市灌漑の基礎となるものは最近完成されたモスコー・ヴォルガ運河である。此の運河は既にクリヤヂミンスキー貯水池からモスコー及其の郊外地帯の計畫上に重大な影響を及ぼした。

而して此の巨大な水面は（一、九〇ヘクター）將來水上スポーツの發達に資する所大なるものがあらう。

東方航行運河はクリヤヂミンスキー貯水池の東部に存する堤防から一籽の距離の處に其の源を有する。該運河は船舶、特に貨物船の爲に北方から重要な東南工業地方へ通ずる一直線のコースを展開し、其の航行距離を著しく短縮し、市内に於けるモスコー河の濁流を綺麗にし、且貨物船の輻輳を緩和することを得る。運河はスーキン濠の附近に計畫されたモスコー河のユージヌイ・ポルト（南港）に向ひ其の總延長四〇籽に及ぶ。

主要な航行運河はクリヤヂミンスキー貯水池の西部に其の源を有し、モスコー市と接觸する處に於て三二〇ヘクタールの面積を有する巨大なヒムキンスキー貯水池を形成してゐる。此の貯水池にはレーニングラツキー・シヨスに沿ひ市の北方を流れる河の乗客用渡場が建設され、又貨物埠頭が築造される。貯水池の南方ボクロフカスコエ・ストレンシネヴオ公園に近接して廣大な水上競技場が設置される。

航行運河はヒムキンスキー貯水池から二つの水門に依つてモスコー河の方へ流れる。而してかうした水準の設定及び船舶航行の爲カラムインシェフスキー堤防が築造される。斯くしてモスコー河はハローシエヴオ及カラムインシェフの附近に於て改造せられ、一直線を爲すに到る。

市の中心部分に於てベルルヴァからカラムインシェフ迄貫通する一つの水路が築造される。此の水路はベルルヴィンスキー堤防を建設する一方、バビエゴロツキー堤防を取毀して敷設される。

一二〇米の曲線を有する水路の一區域に大船舶の航行を容易ならしめる目的を以て二の直線の運河が計畫されてゐる。それはモスコー河の中流に位するカーブからザモスクワレーチエに通ずる延長四・六籽のアンドレーエフスキー運河及ドロゴミロフスキーのカーブに於て河を一直線に改修する延長二・二籽のドロゴミロフスキー運河の兩者である。

モスコーの周圍にある幾多の運河は高さ、深度及吃水に於て河川航行のかなりの大船舶を通過せしめることを得る大環状

水路を形成する。

同時に小船の航行及市の灌漑の爲に第二の市内環状水路が設置される。此の環状水路は北方から市を圍繞する。ヒムキンスキー貯水池から河の北方地區に沿ふて延長一〇・五軒の運河がヤウザ河迄敷設される。

延長一〇軒の此の環状路の延長を成すものは現在改造中のヤウザ河である。環状路はモスコイ河、モスコイ・ヴォルガ運河の水門部分及ヒムキンスキー貯水池によつて切斷されてゐる。

ヤウザ河の幅員は二〇・二五米迄に擴大され（現在の幅員は八一・一六米である。）其の最小限度の深度は現在の一〇・一四種が二米とせられる。

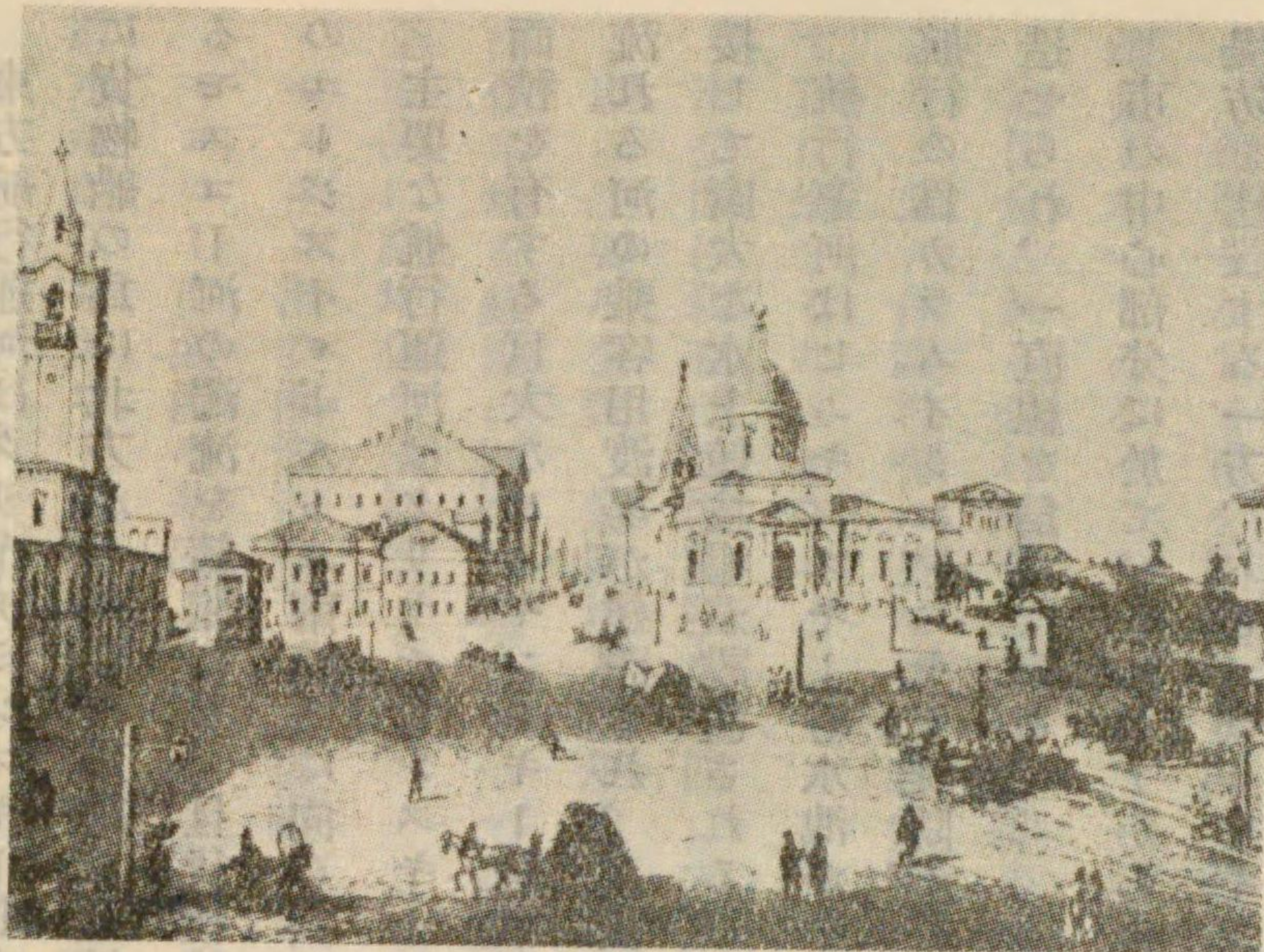
モスコイ河、ヤウザ河及排水渠の沿岸は全般的にアスファルトで舗装し、且つ綠地を配置する。之等河岸通の幅員はモスコイ河のそれは四〇・一五〇米ヤウザ河及排水渠のそれは二五・三〇米に擴張される。

河岸は花崗岩及コンクリートでカバーされる。

シエリビーハとカヂウーホゾオ間の延長六四軒に亘るモスコイ河岸の中、革命前に砂岩で舗装された處は僅々四、五軒に過ぎなかつた。其の後一九三二―一九三四年には六・五軒、一九三五年には一二軒が花崗岩で蔽はれた。

斯くしてモスコイ河に於ては砂岩より成る古い河岸通の改造を加ふる時、尙約四六軒の河岸通を建設しなければならぬこととなる。

ヤウザ河岸は河口からソコリニーク迄二〇軒の延長に亘り、又排水渠の岸



十九世紀中葉に於けるストラトヤナト市場

は八軒に亘つて舗装しなければならない。

河岸通に於ける以上の工事は最近三年間に實現せられる。

灌漑によりモスコイ河に於ける船舶の自由な航行を可能ならしめる爲、現在ある一部の橋梁を改造して行かねばならない。市内の橋梁は水面より八・六米迄の高さを有する船舶が自由に航行し得る様に改築せられ、而して之等の桁下空間は増加せられる。ウステンスキー、ノヴォオスパスキー及モスコイ白露バルチック驛の橋梁等が改造される。カーメンヌイ・クルイムスキー・モスクワレツキー及クラスノホルムスキー等の橋梁が新築されることとならう。之等の事業は最近三年間を期して遂行される。

尙此の外都市計畫に依れば市の新幹線道路の爲の橋梁が一〇年間に建設される。即ちルーヂニークから新しい西南地區へ向ふ橋梁、モスコイ河及ザモスクワレーチエに於けるブリワール環状路間の排水渠を越へる二つの橋梁及プロレタルスキー區とキエロフスキー區とを結ぶ橋梁である。木造のダニロフスキー橋も亦改造される。ヤウザ河を改造し一直線とする運河建設後、ヤウザ河及新運河の上に架せられる幾多の橋梁が將來に於て改造され或は新設される。

自然に錯雜を來したモスコイの組織の最も重大な缺陷は住宅、工場、鐵道運輸、消費經濟其の他幾多の部門が市域全域に亘り亂雜に配置されてゐることである。

モスコイ市計畫の方針に依れば第一に住宅、物質的及文化生活的施設網、工場、鐵道運輸、綠地、水域、道路及廣場を市域全般に亘り合理的に配置することを要する。

自然的に複雑して來たモスコイ街路網の主要な缺陷は左の如くである。即ち
1 街路は亂雜を極め横町及袋路が多く、放射幹線道路の系統が全く統制を缺いてゐること。例へばオストヂエンカ、ク

ロポトキン通、アルバート、ゲルツエン通及ゴリキ通等五つの幹線が存するに反して、市の東部は同じ大きさの地區でありながら、僅かにキーロフ通、ボクロフカ及ソリヤンカの三幹線を有するに過ぎない。而も市の東部には幾多の重要な停車場及多數の労働者を擁する重要工場が存するのである。

2 街路幅員が狭小な結果として、モスコーに於ける今日の交通は著しく支障を來してゐる。モスコーに於ける大部分の幹線街路の幅員は十八―十九米であるが（ゴリキ通、アルバート、ビヤトニツカヤ、ボクロフカ其の他）、更に遙かに狭小なものも少なくない（大ボリヤンカ）。三〇米以上の幅員を有する街路は市内では寧ろ例外を爲してゐる。（第一トヴェルスカヤ通、第一メシチヤンスカヤ通）尤も場末には更に廣い道路が存する。（レーニングラツキー・シヨス及カールシスキ 1・シヨス）

3 街路は屈曲多く且つ破損してゐる爲交通を著しく困難ならしめる。
4 多數の横町や袋路を有する街路が屢々交叉してゐること。
5 廣場計畫が不完全である。

6 街路が急激な傾斜を爲してゐる爲、局部的交通のみならず街路網全般の改造事業が阻害されてゐる。例へばロヂストヴェンスキー遊歩道の勾配は八%に達し、環状路の此の部分に於ける通行を困難ならしめる。

街路網のかういつた缺陷を除去する爲に、次の諸手段が講ぜられる。
横町と袋路の數を減少して街路系統を簡單にする。次に街衢を擴大し、其の合理的計畫により不必要な袋路を清算し、又交叉する多くの主要街路及横町の數を減少し統制する。

市の東部にいくつかの放射幹線道路を新設する。

新幹線道路の敷設が甚だしく困難なる場合、或は古い幹線道路の改造が巨額の費用を要し、尙且つ其の目的を達し難い場合には複線街路が敷設されるのである。斯くの如くしてノヴォキーロフスカヤ及新アルバートの平行した二條の街路が敷設される。

多くの新環状幹線路と直線の街路が築設せられる。之等は郊外にある放射街路を相互に連結し、又市の中心部の輻輳する交通を緩和する機能を營む。多數の廣場が擴張され、其の交通組織が改善される。

急な傾斜を爲してゐる街路は可及的になだらかに改造され、又地區の起伏と地形が許す限り交通は種々なレベルに組織されるのである。

プランの核心とする所はモスコー河及ヤウザ河の河岸通を整備することに在る。河岸通には其の全延長に亘りアスファルト舗装の通路及遊歩道が設置せられる。河岸には花崗岩の舗装が施される。

河に近接する地區は河の美觀を最高度に發揮せしめる目的で、全般的に住宅及公共建築物の爲めに豫定される。

都心部はヂェルヂンスキー廣場からレーニンスキー丘の方向に通じ、且市の中央幹線道路を形成してゐる新しい大通を利用して著しく擴大される。クレムリン附近の廣場が擴張される。即ち「赤い廣場」はスパスキー及ニコリスキー門の側に於て二倍に擴張される。

ボロヴァイツキー及トロイツキー門の處からクレムリン・ソヴェート宮殿の廣場及新大通の間に存する家屋を取拂ひ其處に廣場を築設する。

「革命の廣場」も同様に擴張せられる。

國家的及社會的意義を有する中樞機關は一部は新大通ノボイ・プロスペクトに沿ふて配置せられ、一部はキタイ・ゴードに於ける數個の記念建築物に集中される。

キタイ・ゴードに現存する多數の家屋を除去し、此處に建築的及藝術的見地から見て卓越した數個の記念建築物を建築することとし、且つ之等の間に植樹を施すこと。

河岸通からラーヂン通迄のザリヤードに重工業人民委員部會館が建築され、更に綠地、噴水、彫刻等が配される。現在の街路を改造すると共に、中心を圍繞する幾多の幹線道路が敷設され、而して其等は各連絡點及各區を相互に直線に結び付ける。

計畫によれば、現在の多數の廣場は改造せられ、擴大されることになつてゐる。而して此の改造及新建築に於ては綜合的美觀の表現が骨子となつてゐる。中心部に存する廣場以外に夫々地區中心地に於ける廣場の發達を企圖すること。

首都に於ける五百萬人口を合理的に配置する爲、市域は新しく將來擴張される。モスコイ市の擴張せられる方面は主として西南方であり、市に編入される地域はセレブリヤンヌイ松林及ルブリーフからレーニノ(以前のツアリーツイノ)迄地勢的に見て最も健康的であり繪の如く美しい處である。

新しいモスコイ市計畫に於てはモスコイ河及其の河岸通は市の中樞を占め、最も重要な幹線路をなす。今日モスコイ河の市に對する役割は單なるワキ役的存在ではなく、心臟部とも謂ふべき重要な中心水路をなしてゐる。一直線をなす運河によつて河の幾多の曲折を統一することは水面を新しい西南地區へ接近せしめることとなる。

全市と便利に連絡する健康的な地區に於て人口を合理的に配置すると共に、都市構築上に於ける美觀を發揮せしめること。

計畫に於ては市の建築に特別な注意が拂はれる。

廣大な地域計畫、優秀な社會的建築物、大住宅の建築、市各部の連絡等を模範的社會主義首都の單一プランに依據して建設して行くことは、多くの廣場、街路及公園の綜合的調和、延いては市全體としての調和を痛感せしめるものである。

地區を初めとし都市計畫は先づ第一に、ソヴェート宮殿を筆頭とし、大規模、且特殊の意義を有する大建築物を市に配置する方針である。かうした建築物を設置する廣場の位置、廣さ及配置を決定する場合に於てはかかる地點を出来るだけ車道及鋪道に接近させることとする。

單に純粹の事務用に供せられるもののみならず、大なる社會的政治的意義を有する建築物の周圍には綠地及記念碑建設の用途に供せられる一定の地域が定められる。

左の規定に符合して住宅地區の街路及幹線路を計畫すること。即ち新建築物は六階を下らず、特に幅員の大なる幹線路、河岸通及廣場に面しては七—一〇—一四階とすること。

廣大な區域に於ては豫め綜合的建築及各部分間の調和を考究して、長い廊下の様な街路が惹起し易い單調な印象は努めて之を避けること。

これが爲には大建築物の方へ通ずる幹線路の或る部分を擴張し、綠地を配し、更に所々に空地を設けて記念碑、彫刻、郵便掲示板等の設備に供すること。殊に長い幹線道路は相當高い建築物によつて、幾つかの部分に切斷される。斯くの如き多くの手段によつて街路の綜合美が發揮される。

市の起伏地の利用、或は恰も市の見晴臺をなしてゐる高臺に於ける建築物の配置も大いに考慮せられる。斯様にくつきりと浮び出でる地點には公共施設物が建築される。

廣場設計の決定に當つては單に運輸の方面から觀た實際的必要のみならず、市の綜合的建築から出發せる建築的要求に付ても配意する所があつた。

都市の改造に於ては古蹟の保存に關する問題が實際に生ずる。計畫に依れば、古代の記念物なるが故を以て盲目的に之を保存すると謂ふことをしない。若しそれが都市の發達を阻害すると認めらるるときは、如何なる記念碑でも遠慮なく取拂はれる。但し歴史的及藝術的觀點より、最も貴重なりと思料されるものは（例へばクレムリン、以前のワシリイ・ブラジンスイ大寺院等）保存される。

河岸の變化に富む起伏地を利用して水と緑地とを配合せしめることは建築的計畫決定に特に有利な條件を提供する。

河岸に沿ふ大緑地帯、水力發電所、競技場、河岸に展開せる立派な建築物、住宅地區、階段、テラス、彫刻、噴水、橋梁及棧橋等は水面と映發して特に繪畫的優美さを發揮する。

計畫案に依れば、華麗な建築物、緑地、空地を豊富に市に配置し、市の各部分の各種構成をして社會主義時代の豪華と優美とを反映する巨大な綜合的都市建設を圖ること。

市に隣接する市編入豫定地に都市計畫を施行すると共に郊外地帯の計畫組織を豫め創設すること。

郊外地帯の計畫はモスコイ市計畫と同時に之を行ふこと。森林地帯及貯水池の保護策及地域利用の統制はモスコイにとつて重大な意義を有する。

モスコイ市の發達に關聯して郊外地帯の計畫に必要な條件は左の如くである。

1 郊外地帯に於ける運輸を最大限度に發達させ、輻輳するモスコイの貨物輸送を緩和すべく、街、労働者住宅地及郊外の農耕地を相互に直接連絡する爲の環狀道路を敷設すること。

2 左に掲ぐる郊外の多くの町々や部落の計畫案を研究すること。

ムイチーシチ、シチエルコヴォ、イウンテエフカ、ボルシエヴォ、ロシノオストローフカ、クラスノゴルスク、ヒムキ、フレイブニコヴォ、ソルニチノゴルスク、イストラ、スヴェニゴロード、バラシーハ、レウトヴォ、ラメンスコエ、リニールツイ。

3 ズヴェニゴロード、イストラ、クラスノゴルスク、ヒムキ、フレイブニコヴォ、ロシノオストローフカ等の町々、モスコイ河、イストラ河、ヴォルガ・モスコイ運河、更にモスコイの他の水路に沿ふ居住地をして衛生的技術的建設の方面に於て高度な要求に合致せしめること。

4 森林地帯に於ては嚴重に保護方法を講ずること。モスコイ市との交通上至便にして、土地柄に於て將又風景に於て優秀な緑地層は之を漸次森林公園に變化させること。新しい森林植樹は水源池の保護及郊外休息地の建設に關聯して施行すること。

5 衛生施設の整備せざる郊外地帯には灌漑事業、植樹事業、農地改良事業及都市施設等を施行し以て衛生上遺憾なきを期すること。

6 多くの河岸や天然の貯水池は休息、散策及スポーツ用として住民に廣く利用せられるを以て、貯水池の沿岸に直接接壤して工場、住宅其の他の建物の建築を禁止する。多くの河や天然の貯水池の沿岸一帯は漸次森林を以てカバーすること。



局話電便郵央中一コスモ

と。一面淨水場の機能を營む大貯水池はモスコー市及附近の町々への飲料水供給の源泉地として嚴重に擁護すること。

7 郊外に休養地帯を建設する場合には緑地帯を最大限度に擁護すること。

8 天然及人工の貯水池を有する森林地帯及衛生上最も貴重とせられる廣汎な郊外地帯は郊外休息機關を設ける爲に最大限度迄利用される。之等の地帯に於ても別荘、夏の子供のキャンプ地、休息の家、ピオネールの家が設備せられ、更に休日には一般モスコー市民が散策し得る「文化と休息の郊外公園」が設置される。

9 モスコー市は野菜、果實等を供給する源泉地として郊外地帯を完全に利用する爲、農業を高度に發達させる計畫を研究すること。

モスコー市綜合計畫に於て詳細な郊外計畫案を編成すること。

六、モスコー市に編入さるべき新地域

モスコーの市域は市改造計畫に依り、郊外に主として市の南方及西南方に新たに擴張せられる。此の中最も大きく且つ重要な土地は延長約三〇軒、幅員六一・六・五軒に及ぶルーブリフからレーニノ(以前のツァリツィノ)に至る西南方に位する部分である。

此の新しい西南地の總面積は一萬六千ヘクタールであり、位置から謂つても最も高燥且つ健康に恵まれた地點であるのみならず、モスコーの風上に位し、溪谷、河邊に富んでゐるのである。之等の溪谷や河邊はやがて大公園地帯及灌漑された新地區に變化することとならう。

市域は著しく緑地化された。其の主なものとしてルブリフスキー給水場の保護地帯をなしてゐる緑地層、セトン河の

緑地化された河邊、レーニンスキー丘及ツァリツィンスキー公園が存する。新地區の外側の境界には廣漠とした森林地帯が接して遙かに擴がつてゐる。殆んど自然の儘の状態である此の新地區をモスコー市に併合することは市將來の發達にとり幾多の重大な建築的、計畫的可能性を招來する。

新しい地區の中で土地最も高く繪畫的な部分はレーニンスキー丘である。新しい西南地區の併合に關聯し、又モスコー市域の新しい配置に當り、レーニンスキー丘は新しい市中央公園と變化する。

新地區の中心點はレーニンスキー丘の一點であり、それは直接に河の方に通じ、此の高臺の眼下にソヴェート宮殿の大通り及モスコー市全域の特に美しい風景が繰りひろげられる。

新しい西南地區の計畫に當つては丘陵の多い起伏地が利用され、地區の高臺の優秀な土地には住宅が建築される。

新市域は三つの主要な地區に分割される。レーニンスキー丘に隣接する第一の中心地區は左の町々と連絡する。

a ノーヴィープロスペクト(新大通)

b 大カールヂスカヤ通の延長

c ポトイリーハを越へてベレヂコフスキー河岸通へ一直線に通ずる新計畫幹線路

此の地區の境界を爲すものは西北に於てはセトン河邊、東南に於てはカトウアロフスキー・シヨス附近の溪谷であり、更に西南に於ては森林地帯である。

次に東南地區は西方に始まり、カトウアルスキー・シヨス附近の溪谷の所で終つてゐる。而して地區の東部の境界をなすものをコロメンスキー及ノガテノ村に於けるモスコー河とする。此の地區はセルプウホフスキー・シヨスに依つてモスコーの中心と連絡する。

最後に西北地區はモヂヤイスキー・シヨスに依つて市と連絡する。新市域は大部分、人口の稠密なモスコの東南工業地區に於ける住民の住宅建築地として計畫される。従つて新市域と南方並東南工業地區とは直接に連絡されるのである。

延長二八軒に亘る幅員大なる直線幹線路はルーブリフからレーニノ迄の新市域を横斷する。ルーブリフスキー、ヴォロビツキー及カシールスキー等の砂利道の一部が此の幹線路に包含されるのである。

新市域の西南方からレーニンスキー丘に向つて巨大な公園幹線が敷設せられ、新市域の核心を形作ることにならう。而して此の幹線路には公共建築物及住宅が建設される。此の核心は同時に郊外に存する大緑地帯から清澄な空気を市に供給する動脈の機能をも營むのである。

幹線路の兩側には歩行専用の街路が計畫され、やがて住宅地區の街路に化するのである。かうした靜かな街路及住宅地區の奥まつた所に、緑地に圍繞された託兒所、學校、体育場が設置される。

計畫された幹線道路及街路は新しい地區と主要地區とを最も便利に連絡する。街路の組織は多くの幹線道路と丘陵の高臺とを結ぶ。而して此の高臺に於ては四方八方、都市及河川の多種多様な眺望をほしきままに爲し得るのである。

新しい西南市域に於けるモスコの河の彎曲を矯正する目的以外に、將來、クンツエヴォ地區に於けるセトン河並に其の支流であるラメンカ河、チルタノヴォ村及クルスキー鐵道附近のチルタノフカ河邊が利用される。貯水池建設の爲にルブリフスキー・シヨス、クンツエヴォ及小セトン附近のセトン河に、或はマトヴェーフスキー村附近のラメンカ河及チルタノフカ河に堤防が建造される。セトン河の堤防は延長十四軒、幅員二〇—四〇〇米迄、事業總量二千萬立方厘米及五〇ヘクター以上の水面を有する貯水池四個を形成する。

池四個を形成する。

モスコ市は主として左の主要な地域を合併して擴張される。

1 イズマイロフスキー附近の地域はスターリンスキト區に接し、其の總面積は約一、四四五ヘクターである。現在既に此の地域は住宅及工場の建設に當てられてゐる。

2 ペロトヴォ・クウスコフスキー附近の地域はスターリンスキト區に接し、總面積約二、四〇〇ヘクターである。ペロトヴォ、ノヴォ・ギレーエヴォ、カラチヤロトヴォ草原及クウスコトヴォ等が此の中に包含されてゐる。又此の地域の中には約六〇〇ヘクターの公園が存在する。既にこの地域の一部には住宅及工場が建設されてゐる。(第二電氣都市地帯、裁斷機の工場、ペロフスキー車輛修繕工場)

3 テクスターリシチキはリヤザンスキー・シヨスとルーブリフ市間に介在する一、七三〇ヘクターの區域である。此の地域の中にチフリンカピヤゾフカ、グラヴォルノヴォが存在する。此の地域は實際に於て住宅と工場が建設されてゐる。

4 交通人民委員部の「モトヂエリヨズ」工場の在るルーブリフの面積は約一、六三五ヘクターである。工業の發達と共にノヴィンキーノガテイノの總面積は約八一五ヘクターで、其の半分は港、造船所等によつて占められてゐる。

6 コロメンスコエーレーニノはセルプウホフスキー及カシールスキー砂利道に存し、新しく編入される西南地域の東南部である。面積約二、二〇〇ヘクターであり、住宅建築の豫定地である。

7 ヴェルフニト及ニトジニト・コトルイは南方に存し、其の面積約一、〇〇〇ヘクターである。工業の發達と共にチレムーシキー—セミヨーフスカヤは西南に存し、面積約一、四〇〇ヘクターであり、此處には現在幾多の煉瓦工

場が存在する。

9 マトヴェーフスコエー—オチャニコヴォ—トロパレエヴォ—セミヨーフスコエは新たに編入される西南地域の中心地区であり、レーニンスキー丘に隣接する。面積約三、八〇〇ヘクタール。

10 レーニンスキー丘及ヴォロビエヴォ村は西南方に位し面積約一、二〇〇ヘクタールである。此の地域は現在煉瓦工場及農耕地を以て占められてゐるが、此處には公共建築物が建設され、公園が設けられる。

11 フイリー・マジロヴォは西南に存し、面積約六〇〇ヘクタールである。此の部分はフイリーフスキー工場の労働者住宅地帯として計畫される。

12 タタロヴォ—クンツエヴォは新たに編入される西南地区をなし、モヂヤイフスキー及ハロシエフスキー砂利道によつてモスコー市と連絡する。面積約一、八〇〇ヘクタール。

13 テレホーヴォ—ムニョーブニキ—ハロシエヴォ—シチウキノはフルンゼンスキー區及クラスノプレスニンスキー區に隣接し、總面積は約一、七〇〇ヘクタールである。オクチャプリスキー草地及シチウキノには住宅が建築され、テレホーヴォ、ムニョーブニキ、カニューシキ其の他の地帯には公園が築設される。

14 トウシノ—ザハルコヴォ—ホブリーノ—リホヴォイ—メドヴェードコヴォ其の他。之等の總面積は約三、一〇〇ヘクタールで、此の地域にスホードニンスキー及ヒムキンスキー貯水池、更に四〇〇ヘクタールの面積の緑地層が建設される。

七、モスコー市主要幹線道路の改造

一、ノーヴィ・プロスペクト（新大通）

ノトヴィ・プロスペクトは新しい西南地區と市の中心を繋ぐモスコーの重要幹線である。

プロスペクトはヂエルチンスキー廣場から現在改造中の劇場通路に沿つてスヴェルドロフ廣場の方へ向ふ。マールイ劇場及文藝院附屬第二モスコー藝術座の建築物は改築され、廣場を背景として建築上の美觀が發揮される。

キタイ・ゴロドの城壁の處にはスヴェルドロフ廣場と赤い廣場を結ぶ幅員の廣い坂道が設けられる。

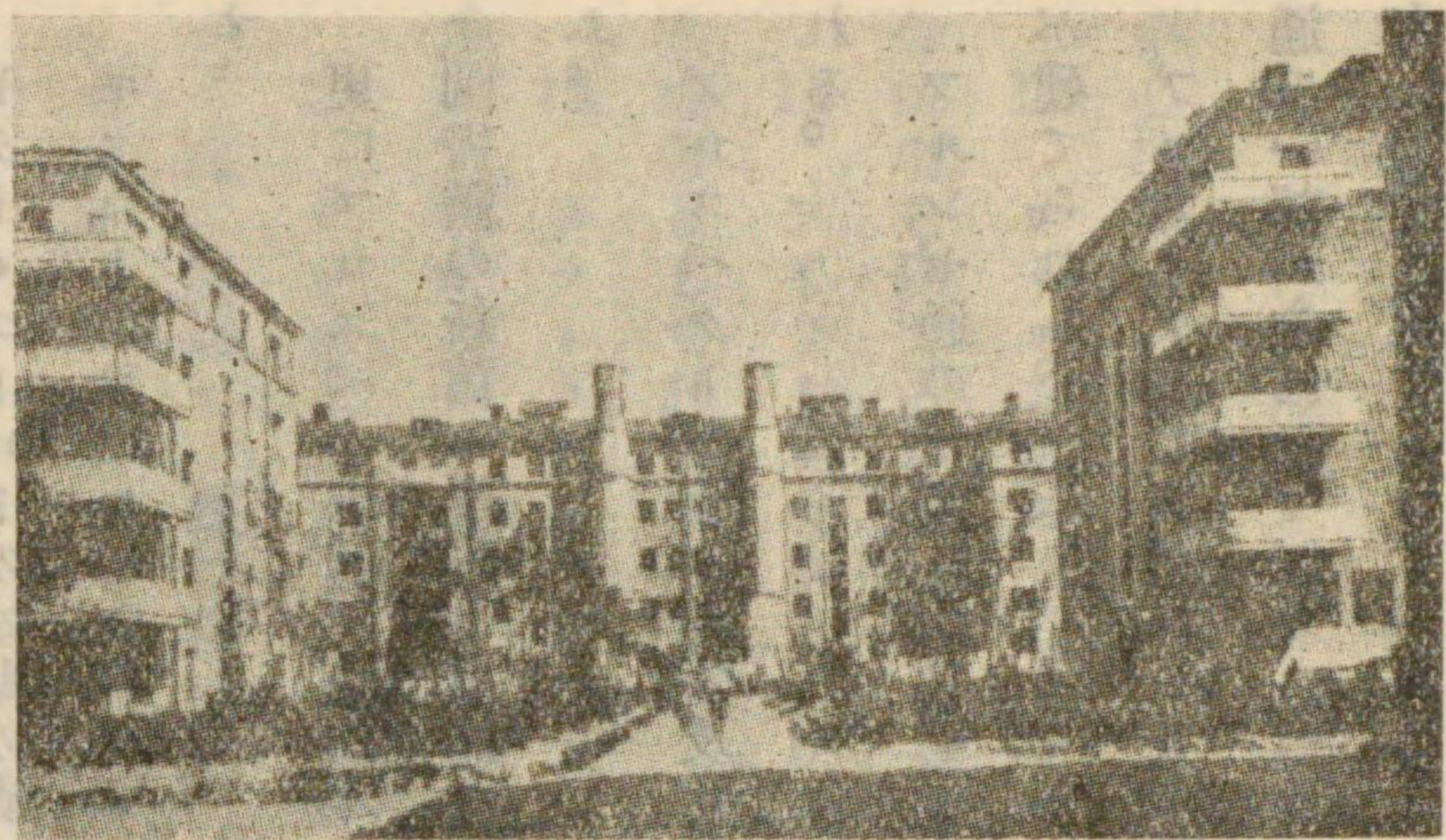
モスコー市ソヴェートのホテルは改築中の「コンチネンターリ」及「グラント・ホテル」と共に一個の記念的建築物を成す。

更にプロスペクトは、一面からクレムリン、他面から藝術的な美觀に富む多くの有名な建築物（大學の建物、レーニン記念圖書館の新舊の建物）の傍に存するマホーヴァヤ通に沿つて、現代に於ける最大建築物といはれるソヴェート宮殿に向ふ。

プロスペクトの此の部分及此のプロスペクトの一部を成すアレクサンドロフスキー庭園には噴水、彫刻、緑地等が設けられる。

フルンゼ通の外側にはソヴェート宮殿の廣大な廣場が築造され、該廣場の右側には公共的及文化的意義を有する大建築物が建てられる。

プロスペクトはソヴェート宮殿からレーニンスキー丘へ向つて巨大な幹線を成し、此のプロスペクトにはオストヂェンカ通の一部が含まれる。プロスペクトはルーヂニク附近に於て廣場を作り、此の廣場は橋梁を以つてモスコー河を経て、市の中央公園と化するレーニンスキー丘に接する。



（年七二九一）區地宅住の街者働勞一キスフロブド

レニンスキー丘を越える大通は延長されて新しい西南地區の中央幹線と成るであらう。

大通の西側には科學的及公共的記念建築物が配置される。マールスクーヤ、ルサコフスカヤ、ストロムインカ、プレオブラデンスカヤ、チルキゾーフスカヤ通、イズマイロフと結合して一直線を成し、西南から東北に向つて市を横斷してゐる。

二、モスコイ河岸通

モスコイ河岸通は幅員四〇—五〇米のアスファルト舗装の緑地化された多くの通路を有し、市内を貫通する單一の幹線に變化する。

河岸通は其の地形を利用して大住宅ブロックが建設される。カラムイシエフスキー水門から白露バルチック鐵道の橋梁に至る兩河岸に五〇米の幅員を有する多くの通路が敷設される。シエリピーハ地區には住宅が建築される。

白露バルチック及オクルーヂヌイ鐵道の築堤は棧橋にとつて代り、河岸通りの貫通

せる幹線が棧橋の下を通過する。

クラスノプレスニンスキー公園は擴張され、對岸には給水發電所を建設する爲に天然の入江が利用されるであらう。

オクルーヂヌイ鐵道からドロゴミロフスカヤ通に至る全長に亘つて上層通路では四〇米、下層通路では一〇米の幅員を有する二段の通路が敷設される。

モスコイ河の對岸であるクラスノプレスニンスキー河岸通は四〇米に、更にクラスノプレスニンスキー特別火力發電所を撤去したる後は五〇米に擴張される。

兩岸に沿ふて此の地區にはクラスノプレスニンスキー及ドロゴミロフスキーの二大公園が設けられる（墓地の在る所に）。ノイ・アルバートの橋梁と河岸通との交叉點の兩岸に廣場が設けられる。

キエフスキー驛の廣場はドロゴミロフスカヤ通及河岸まで擴張される。キエフスキー驛の反對側に花崗岩の階段—水面に向つて—幅員の廣い階段を有する棧橋が既に建設された。

ベレシコフスキー河岸通は五〇米に擴張される。廣場からフルンゼンスキー特別火力發電所迄の地區には住宅が建築される。

反對側に在るスモレンスキー及ロストフスキー河岸通は五〇米に擴大され、其處に住宅ブロックが建設される。

ロストフスキー河岸通の延長を成すサヴィンスキー河岸通は五〇米に擴大される。最近の數年間に以前のリーヴェルス工場及スヴェルドロフ記念工場の如く河岸に接近せる一團の工場の一部が改造され、四〇米の幅員を有する河岸通がノヴォデヴィチーに至る迄敷設された。將來此の河岸通は五〇米に擴張される。

菜園及建設材料倉庫として現に利用されてゐるルーヂニークは徹底的に改造される。鐵道は改造され、「雀ヶ丘」の驛は取拂はれる。ルーヂニークの地域にはクレムリン、ソヴェート宮殿及ルーヂニークを新しい西南地區と藝術的に結び付けるノイ・ブロスベクトが設けられる。

ポトイリーハ附近に於てモスコイ中で最も高臺を成す繪のやうに美しい場所であるレニンスキー丘が展開され、其れはやがて市の中央公園となるのである。河岸は花崗岩で舗装され、其處には繫船場及多くのスポーツ施設物が設けられる。

反對側のハモブニーチスキー河岸通は利用價値の少ない建築物及荒蕪地を利用して五〇米に擴張され、新大通^{ノイッイフスベクト}に出る幅員の廣い緑地化された河岸大通となる。此處には住宅、公共施設物、科學的建築物及全ソ同盟建設陳列館が緑地の中に配置される。河岸通には河へ通ずる花崗岩の階段が築造される。

此の河岸通の地域はチトフスキー通路附近に於て新しいブリワール環狀路の計畫された橋梁によつて横斷される。現在改造中のモスコイ河、排水渠の中央部分及岬が兩岸から展望される。

クロボトキンスキー及クルイムスキー河岸通はソヴェート宮殿の全景と完全に調和させて築造される。

クレムリン河岸通は部分的にモスコイ河床を整理して擴大される。而して其の反對側のベルセネフスキー及ソフェイスキー河岸通は四〇―五〇米に擴張される。

排水渠は四〇―四五米に擴張され、岬は河に沿ふて正確に、而も幾何學的に構成される。

岬の突き出た部分にはチユリスキン救助記念碑が建立され、ブリワール環狀路の二つの橋梁と交叉する。岬の處には各種の建築を一切禁止して、之を整備する。

現存の橋梁の代りに建設されつつある新しいモスクワレツキ橋梁は棧橋によつて河岸通の上を通過する。かくして上下二つのレベルに於て交通が出来る。

ラウンスキー河岸通は第一國營モスコイ發電所を撤去した後五〇米迄に擴張される。

反對側のモスクワレツキ河岸通はキタイ・ゴロドの城壁及ザリヤデーを取拂つて五〇米迄に擴張され、其處に重工業人民委員部の建物が設けられる。

ブリチャーリヌイ河岸通の地區はウスチンスキー橋梁の所から五〇米迄に擴張される。

反對側のコテリニチスキー河岸通は丘に富む起伏地(シヴィイイ丘)を利用して築造され、其處にゴリキト記念文學研究所及住宅ブロックが建設される。該河岸通の幅員は五〇米に擴張される。

排水渠とモスコイ河間に存するオストロフに現存する建築物は撤去される。而して其處は緑地化され大公共施設物が設置される。

新しいクラスノホルムスキー橋梁は棧橋を以つて河岸通の上を通過する。

ノヴォオパスキー河岸通は幅員五〇米の幹線を成し、特に住宅が建築される。五〇米の幅員を有する河岸通はユージヌイ・ポルト(南港)の地域に續き、此の河岸通はシモノフスキー地區に於て河へ降るテラースによつて計畫される公園系統の中に含れる。

キーロフ記念工場(以前の「ダイナモ」)の附近に於て河床は直線に改修されて、キーロフスキー區の方へ突き出る。といふのは岸が急に傾斜を成してゐる爲に此處に通路を設けることが不可能であるからである。河岸通は五〇米の幅員を有する二つのレベルに計畫される。

スターリン記念工場附近に廣場が設けられ、其處に工場に附屬する公共施設物が集團的に建設され且つ植樹が施される。

排水渠口からコヂブニーチスキー、デルベネフスキー、パヴェリツキ、ダニロフスキー及トウリスキー河岸通に沿ふて右岸には四〇米の幅員を有するアスファルト道路が敷設される。河岸通には住宅が建築される。

排水渠の岸は花崗岩で鋪裝され、二五―三〇米の幅員を有するアスファルト鋪裝の一直線の通路が敷設される。

三、ヤウザ河岸通

ヤウザ河岸通の改造案に依れば個々の地區に於ける河床を改修し、擴大し、更に兩岸を強化し幅員二五—三〇米の廣いア
スファルト舗装の通路、遊歩道及綠地を設け乗客用階段を築造すること。

河岸通は地形を利用して大住宅ブロックが建設される。

水の幹線に沿ふて公園系統が設定される。(オスタンキンスキー、ソコリニチスキー、リフォルトフスキー、メーデー
及ヴィソキー丘)公園は水路に沿ふて設けられる。

ヤウザ河及其の支流に沿ふ幾多の地區の下水が完全に設備される。

ウスチンスキー橋梁からサドワヤ・ゼムリヤナヤに至る一部の河岸通には大住宅ブロックが建設される。

以前アンドロネフスキー寺院の存在してゐた河上に著しく盛り上つた丘には大建築物が建てられる。此の丘はプロレタ
ルスキー區の中で最も美しい一地點を成すであらう。

反對側にあるクラスノカザルメンヌイ河岸通には大住宅が建築される。此の地點に於て河床は半圓形の形態を採る。左岸
の錯雜した起伏は階段式の棧橋を具備する二重層の河岸通を設ける爲に利用される。

更にルーブツオフスカヤ廣場に至るルーブツオフスキー河岸通の右側にはバチトーワヤ通の新しい高層建築物をも含む大
住宅地帯が設けられる。

電氣工場附近に於けるヤウザ河床は改修される。之に因り工場の建築物を維持することが出来又河岸通に通路を設けるこ
とが出来。クレスネイゴイトリ

「赤い騎士」工場の附近に於て河床は改修される。その結果工場の建築物は維持されることになる。水門を有する堤防の
建築に伴ひ、水準は升高し、更にソフリニークに於てはヤロスラフスキー・シヨスに至る廣汎な潮が形成される。此の水面

にはソコリニチスキー公園の大體育場が設けられ、是に相應しい建築物、埠頭及棧橋が建設される。

四、レーニングラツキー・シヨス——スターリン記念工場の直徑

レーニングラツキー・シヨス——ゴリキー通り——ソリヤンカー——スターリン記念工場に至る幹線道路はモスコ一の一
つの基本的幹線路を成してゐる。其れは廣大な西北地區及現在建設中のセーベルヌイ・ポルト(北港)と、市の行政的政治
的中心地、モスコイ東南の最大工業地區及ユージヌイ・ポルト(南港)とを結び付ける。幹線に沿ふて科學研究所、空港、
「ダイナモ」競技場、白露バルチツク大停車場、モスコイ市ソヴェエト及スターリン記念工場、カガノヴィツチ記念工場、キ
ーロフ記念工場(以前の「ダイナモ」)等の多くの重要な工場其の他が存する。

オクルーヂヌイ鐵道内に於ける直徑の全長は二四軒を成し、一直線を成してソヴェエト廣場からブシーチナヤ通を経てヂ
エルデンスキー廣場、ソリヤンカに向ふレーニングラツキー・シヨス及ゴリキー通(一七軒)、更にスターリン記念工場に
通ずるゴリキー通(七軒)の直接に連結する三つの主要道路から成る。

レーニングラツキー・シヨスは、ヒムカからヴオロコラムスキー・シヨスに至る地區に於ては一〇〇米に、更に白ロシア
驛の廣場に至る迄は新建築の大家屋に沿ふて一二八米に擴張される。

改造されたレーニングラツキー・シヨス及附近の地區は住宅建築の爲に特に利用される。

白ロシア驛の廣場からサドワヤ・トリウムフアリナヤ廣場迄のゴリキー通は現在の三六米の幅員の儘とされる。幹線はサ
ドワヤ・トリウムフアリナヤ廣場からアホーヌイ・リヤード迄一八一—一九米のが四〇米に擴張される。

幹線はソヴェエト廣場からヂエルデンスキー廣場迄スタールイ廣場及ノーヴィイ廣場を越へてノーギン廣場に接する。幹線
の一部は住宅地區を貫いて新設され、中央半環狀路、更にブシーチナヤ通に沿ひ、ヂエルデンスキー廣場に向ふ。

白露バルチック驛の廣場は改造される。

トリウムフアリナヤ廣場は擴張され、現在建築中の新しいメイエルホリド記念國立劇場は他の文化施設物の建築と共に廣場の総合的な建築美を一層發揮させる。

プーシキン記念碑、「イズヴェスチヤ」の家及建築中のソ同盟電報通信社の建物の在るプーシキン廣場は改造され、同時に著しく擴張される。ストラストヌイ寺院は除去され、ブリワール環狀路の緑地帯が展開される。

ソヴェート廣場及プーシキン廣場からアホトヌイ・リヤード迄の一區間の幹線には主として公共的施設が設けられる。新しい建築物の高さは平均七階と決定され而して幹線の或る部分に於ける個々の公共建築物は七階以上と規定される。

幹線はノーギン廣場から勞働宮殿の街區を通過してヤウザ河迄一直線を成す。

ヤウザ河の背後に於て幹線は、インテルナツイオナリナヤ通及ヴオロダルスカヤ通に沿ひ、ヤウザ病院へ向つて著しく上昇する。幹線の右側には多くの大住宅が建築され、其の間に緑地が設けられる。左側は建築上貴重な建物であるヤウザ病院から初まる。幹線はヤウザ病院の背後のタガンスカヤ廣場に至る迄大住宅が建築される。

現存のボーリシイ・カメンシチキー通はタガンスカヤ廣場からクルチツキー兵舎迄利用される。

クルチツキー兵舎及住宅地區の小高い場所に於ては地區の中心を成す新しい廣場が築造される。

幹線は廣場外に於て二つの方向に岐れる。其の一はカガノヴィツチ記念「ポールベヤリング」工場を経て港へ向ひ、他はスターリン記念自動車工場及シモノフスキー障壁に沿ふてプロレタルスキー區の文化の宮殿へ向ふものである。

五、幹線 オスタンキノ——セルブウホーフスキー・シヨス

幹線、オスタンキノ——セルブウホーフスキー・シヨスは、一七軒以上の延長を有する直徑を成し、市の北方と南方を一直

線に結ぶ。

直徑はオスタンキンスキー公園から發し、先づ第一にクリヤヂミンスキー公園の大緑地帯及貯水池を繋ぐ。

幹線は五〇米に擴張されるロヂエストヴエンカ通を越へて延長される。

直徑の南方部分にはモスクワレツキー橋梁からザモスクワレチエの地域に於て核心的な位置を占め、セルブウホーフスキー・シヨスを越えて工業地區及郊外を都心に結び付ける。

ザモスクワレチエに於ける排水渠からブリワール環狀路に至る幹線はオルデインカ通に沿ふて計畫される。(マーラヤ・オルデインカの延長及排水渠迄のバリシヤヤ・オルデインカの改修)。ブリワール環狀路からドブルーイニンスカヤ廣場に至るオルデインカは統一されて一〇〇米の幅員を有する幹線道路となる。

はれる。幹線には主として住宅が建築されるであらう。



工場事場

ダブルイニンスカヤ廣場はオルデインカ幹線とサドワヤ環狀路との交叉點に存在する運輸連絡點に改造され、更に著しく擴張され、公共的、文化的使命を有する建築物が建てられる。

セルブウホーフスキー關所の廣場は建設され且その美觀に遺憾なきを期せられる。

幹線の改造は、その全長に亘り、特に階數の少ない家屋は之を撤去し、左程重要でない工場は改造し、或は之を取拂つて行

六、幹線 キーロフ通—クラスノブルドナヤ—ルサコフスカヤ—ストロムインカ—ボリーシヤヤ・チルキン
 ーフスカヤ—イズマイロヴォ

幹線キーロフ通はノヴィ・プロスペクトの延長であり、ノヴィ・プロスペクトと共に全市を横断する直徑を成してゐる。

現在キーロフ通はモスコの主要幹線の一つを成し、此處に建設されたメトロの第一期線は幹線道路をして益々重要ならしめるに到つた。

建築の資本主義的特色はキーロフ通の徹底的改造を困難にする。随つて其の改造は建築物の第一階に歩道を敷設して街路を整理し稍擴張する程度に過ぎない。

キーロフ通に沿ふ建築物は全面的に維持される。之等の正面は改造されて街路の完全な綜合的建築美が遺憾なく發揮される。

クラスノブルドナヤ及ルサコフスカヤ通は五二米迄に擴張され、多く住宅が建築される。クラスノブルドナヤ及ルサコフスカヤ通に於ける塀や古く朽廢した建築物は取毀されて其處に最も大きい住宅（突撃隊の家、交通人民委員部の住宅其他）が建築される。

セーベルヌイ驛からクラスノセーリスカヤ通に至る地區の建築物は完全に撤去される。而して此處に最大の住宅建築が行はれ綜合美が發揮される。

幹線はブノフ記念ソコリニチスキ公園に接する處にソコリニチスキ區の廣場が敷設される。

更に他の幹線は其の途上に於てヤウザ河と交叉し、ヤウザ河に架かる橋梁は兩岸の個々の建築物と調和する高い大棧橋と

成るであらう。

幹線の最後の部分であるプレオブラヂンスカヤ及ボリーシヤヤ・チルキゾーフスカヤは現在殆んど一階建の小家屋、而も主として木造である。此の地區に於て幹線は八〇米に擴張され、高層住宅が建築される。幹線のプレオブラヂンスキー及チルキゾーフスキー地區は公園道路に改造される。

幹線はオクルーヂヌイ鐵道の背後に在る國際競技場の前の廣場を以つて終點とし、此處の競技場に於ける二十萬の觀客の交通を整理する爲に複雑な大交通機關が設けられる。又一面、廣場は其の建築上の美觀を發揮する點に於ても有利な條件を有する。出場選手及觀客のホテルとなるアパートは競技場の前に全面的に建築され、而も廣場の建築條件に従はねばならない。競技場の入口は建築上から觀て殊に花壇が豊富に設けられ、その中心には記念碑的な彫刻が多數配置される。

七、ノヴォキーロフ通

キーロフ通は高層建築物が建立されてゐる爲、之が速急の改造は困難である。此の通の輻輳せる交通を緩和する爲に四二米の幅員を有する直線の平行幹線が新設される。

新しい通はキーロフ通が通過する廣場（マルブリースカヤ通から）の出口の處で統一され、ヂェルヂンスキー廣場を起點とする。

新しい幹線とキーロフ通の間の街區には公共的意義を有する記念的な建築物が個々に、而も相當の間隔を以て建てられ、其等の間に綠地が配置される。

新しい幹線はヂェルヂンスキー廣場からキーロフ通とマラーヤ・ルピヤンカ間の街區内の建物を越えて電話局の建物の一

角に向ひ、キーロフ通とマルフリーフスカヤ通間の住宅地區を経てトゥルゲーネフ廣場に出る。

更に通はキーロフ通とウランスキー横町間の價値の少ない建物（全露中央執行委員會代表部の家、地下鐵建設事務所、輕工業人民委員部の家の如き新建築物は保存される）の存する住宅地區を越えて、サドワヤ環狀路に出る。而して其の後オルリーコーヴィ横町及ドムニコフスキー通の間の住宅地區を横斷し、農業人民委員部及國營圖書合同出版局の建築を通り過ぎて、通はコムソモルスカヤ廣場に出る。

コムソモルスカヤ廣場は三つの大停車場を有して、市の最も重要な交通の要衝を成す。而して鐵道連絡點の改造と共に廣場の建築的研究が行はれる。

八、幹線コミンテルン通——アルバート——ドロゴミロフスカヤ通——モヂヤイスキー・シヨス

コミンテルン通はレーニン記念圖書館から現在の二四米の代りに四〇米の幅員を有する幹線に變化し、公共的意義を有する建築物が設けられる。此の通はアルバート廣場に向ひ、而して此の廣場は改造され、廣場の單一の綜合的な建築美を發揮する大公共建築物が建てられる。

アルバートには特に大家屋が存する故、之が擴張には相當の困難を伴ふのである。街路の幅員は二二米から三二米に擴張される。

アルバートは完全に改造されて大建築物の連擔するスモレンスカヤ廣場で終る。スモレンスカヤ廣場にはカガリンスキー横町を経てソヴェート宮殿へ向ふ道路が敷設され、更に現在改造中のモスコイ河岸通に接近してゐる關係上益々重要な意義を有する。

道路の高低及一〇五米の幅員を利用して、スモレンスカヤ通はモスコイ河及河岸通の建築と直接に調和する一個の綜合的

建築として計畫される。街路の輪廓は二つの水準に計畫される。

キエフスキー驛の廣場はドロゴミロフスカヤ通迄擴張され、モスコイ河の全景と調和して美觀を發揮する。

ドロゴミロフスカヤ通はドロゴミロフスカヤ廣場に至る迄三一米から七〇米に擴張される。

現在改造中のドロゴミロフスカヤ廣場は連接地點及貨物の集散地を成し、此處に於てドロゴミロフスカヤ通及ノーヴィ・アルバートはモヂヤイスキー・シヨスと連接するに至る。

モヂヤイスキー・シヨスは七〇—一〇〇米の幅員を有する交通の最も輻輳せる道路と化する。

此の幹線道路に於ける右側の古く朽廢した建築物は悉く撤去される。垣根に覆はれた墓地の豊富な綠地層により幹線とモスコイ河とは接する。

更にモヂヤイスキー・シヨスは新設された廣場及現在改造されつつある高架橋に通ずる。

ボクロンヌイ丘の高地に（一七〇米の地點）フィリー地區的廣場が設けられ、此の廣場に公共的文化的の大建築物が配置される。而して此の廣場からモスコイの全景が展開される。

九、ノーヴィ・アルバート（新アルバート）

急速な街路の改造を困難にしてゐる高層建築物の存するアルバートの輻輳せる交通を緩和する爲に、四五米の幅員を有する一直線の幹線が新設される。但しモスコイ河に接する處に於ては八〇米の幅員とされる。

幹線はアルバート廣場を起點とし、モルチャフーフカ、サバーチヤヤ、クレチトニコフスキー及ノーヴィンスキー横町、更に建築物の少い街區を越え、廣いプロスペクト（大通）を成してモスコイ河に通ずる。

モスコイ河に架けられる橋梁の兩側に於ける廣場は擴大される。此の幹線に於ては、平均七—八階の住宅が、更に十字路

に於ては可なり高い住宅が建築される。モスコイ河からドロゴミロフスキー河岸通の街區を経て幹線はドロゴミロフスカヤ
廣場へ通ずる。

一〇、幹線 **ゲルツエン通**—**クラスナヤ・プレスニヤ**—**スヴェニゴロツキー・シヨス**

幹線はマホーヴァヤ通を起點とし、一八—二二米の道路が四〇米に擴張される。

幹線はニキーツキー門から四〇米に擴大されるマーラヤ・ニキツカヤ通に沿ひ、サドワヤ環狀路を経てクラスナヤ・プレ
スニヤ通へ一直線を成して通ずる。

ワスターニ廣場はノヴィンスキー遊歩道の展望を遮ぎつてゐる建物を取拂つて改造され、動物園の緑地帯と建築的に結合
する。

クラスナヤ・プレスニヤ通は二二—三二米から四〇米に擴大され、クラスノプレスニンスカヤ關所の廣場に出る。

右側に(ワガニコフスキー墓地の處に)公園地帯を包有する幅員六四米のスヴェニゴロツキー・シヨスはハローシエフ
スキー・シヨスと接続する爲に白露バルツク鐵道を越えて直線に敷設される。

一一、幹線 **マロセーカ**—**ポクロフカ**—**マルクソフ**—**スパルタコフスカヤ**—**ポリシヤヤ・セミヨノフスカヤ**—
シチルバコフスカヤ通

幹線の延長はオクルーヂヌイ鐵道に至る迄殆んど八軒、幅員は一四—二四米である。

幹線には建物密集し、都心をパウマンズスキー區、スターリンスキー區及スターリン記念イズマイロヴォ公園に結ぶ唯一の
大道路を成してゐる。其處にはパウマンズスカヤ廣場及セミヨノフスカヤ廣場等地區の代表的な廣場が存する。クルルスキ
驛への交通は主として此の幹線に依る。

ポクロフスキー門に至る幅員一四—二二米のマロセーカ及ポクロフカ通は、五〇米迄擴大される。

都心とクルルスキー驛の廣場との連絡を改良する爲、四〇米に擴張されたバラシエフスキー及バリシヨイ・カヂヨンヌイ
横町を経てポクロフスキー門の廣場から新しい幹線が一直線に敷設される。

バリシヨイ・カヂヨンヌイ横町の方向に新計畫幹線を敷設する爲に重要な意義を有するポクロフスキー間の十字路は大廣
場に改造され、建築的にブリワール環狀路及チーストイ濠に結合する。ポクロフスキー門からゼムリヤヌイ障壁に至る一八
—二〇米の幅員を有するポクロフスカ通は直線に改造され、四〇米に擴張される。

ゼムリヤヌイ障壁の廣場は著しく擴大される(マルクソフ通の隅に在る新建築物を考慮して)。幹線はゼムリヤヌイ障壁か
らラズグーリに至る迄一六—二五米のが四二米に擴張される。

パウマンズスカヤ廣場は將來地區を代表する廣場と成るであらう。

幹線がカザン鐵道及ヤウザ河と交叉する地點に廣場が設けられて、此の連接點の運輸を統制する。廣場には公共施設物が
建設される。ポリシヤヤ・セミヨノフスカヤ通は廣場からシチルバコフスカヤ通に連結せしむべく、セミヨノフスカヤ
廣場を経て一直線に敷設される。

ポリシヤヤ・セミヨノフスカヤ及イズマイロフスキー障壁の交叉點に存するセミヨノフスキー關所の廣場は擴張され
る。其れはスターリンスキー區の廣場に豫定される。公園地帯は廣場をハピロフスキー濠附近に於ける緑地に結び付け、シ
チルバコフスカヤ通はイズマイロフスキー公園及國際競技場に至る表玄關を成すであらう。

幹線の幅員は此の地區に於いて六〇米に計畫される。

幹線の改造案はその多くの曲折を擴張し修正すると同時に之を行ふこと。

一二、新幹線ノーギン廣場——プロロームヌイ關所

市の東部との連絡改善の爲に新しい幹線が敷設される。其れはノーギン廣場を起點とし、プロロームヌイ關所に至る迄計畫され更に擴張される。クラスノクウルサンツカヤ廣場を経て、シニーチカ及ソコーリヌイ丘に對して新しい方向に従ひ、スターリン記念イズマイロフスキー公園の中心に直接通ずる。

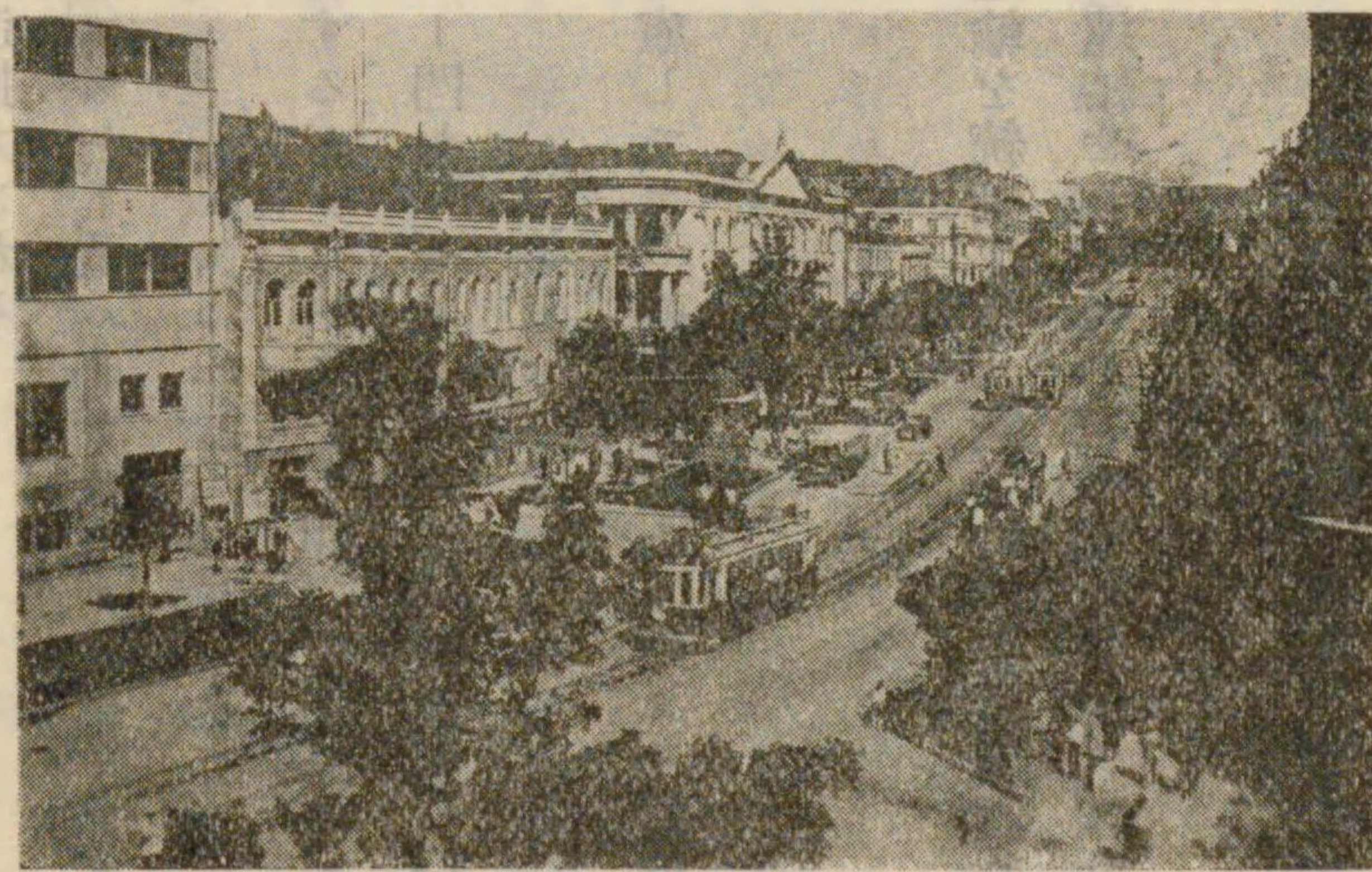
新しい幹線はノーギン廣場からポドコバエフスキー横町に至る迄街區に沿ひ敷設され、其れと同時に曲折に富むバリシヨイ・イワノフスキー及ホフロフスキー横町が部分的に利用される。

幹線はバリシヨイ及マイルイ・ブウヅフスキー横町に沿ふてブリワール環狀路に出る。而して其等の横町間には大公共建築物及住宅の街區が存する。

幹線はブリワール環狀路及サドワヤ環狀路及サドワヤ環狀路の間にボロンツォフ・ポリーリ附近のサドワヤ環狀路への出口を有する街區に沿ふて敷設され、サドワヤ環狀路からストロミヤトニークの地區を経て、ヤウザ河岸に降る。

此の部分に於て幹線は其の中にヴェルフニーストロミヤワカヤ通の一部を含み、コムソモルスカヤ廣場、アベリマノフスカヤ關所の迂回幹線と交叉し、幹線はプロロームナヤ廣場に至る迄街區に沿ふて敷設される。

幹線の此の一部の延長は三四五米である。第一直線道路を走る。第二直線道路は四〇米の幅員に計畫される。二三米の幅員に計畫される。五〇米の幅員に計畫される。



(中造改) 路狀環ヤワドサ

一三、幹線 ドミトロフカ——ドミトロフスキー・シヨス

スヴェルドロフ廣場からポリシヤヤ・ドミトロフカは建築物の第一階にアーチを設けて擴大される。更にポリシヤヤ・ドミトロフカはブリワール環狀路の交叉點から建築物の少ない街區を横斷し一直線を成してマトラヤ・ドミトロフカに接する。

サドワヤ・トリウムフアリナヤ通との交叉點に廣場が設けられる。カリヤトエフスカヤ、ノヴォスロヴオツカヤ、ブトイルスカヤ通及ドミトロフスキー・シヨスは六四米に擴大される。サヴェエロフスキー驛の廣場は區の代表的な廣場に變化する。其處からベトロフスキー公園の側面及テシリヤジフスキー學士會館の側面及トウベルスキー關所の凱旋門に對する見透しが展開される。

一四、幹線 チエルヂンスキー通、スレチンカ——第一メシチヤンスカヤ——ヤロスラフスコエ・シヨス

幹線はモスコの中心と其の周圍及北方の近郊地を結ぶ。チエルヂンスキー廣場からカトメル・コリススキー障壁迄の幹線の全延長は三・八軒で、オクルーヂヌイ鐵道迄は八・七七軒である。

都市の發達に伴ひ交通の愈々輻輳する所は此の幹線を益々擴張して行かねばならない。チエルヂンスキー通は四〇米に擴大される。スレチンズスキー門の附近に在るスレチンカとブリワール環狀路の交叉點に廣場が新設される。

延長六三〇米、平均幅員一九米のスレチンカは主として左側に存する建物を除去して擴大され、右側の高層建築物は保存される。殘餘の部分に於ける通りは現在の三―四階の家屋を増築して改造される。スレチンカ——第一メシチヤンスカヤ通とサドワヤ環狀路の交叉點に於けるコルホーズナヤ廣場の綜合的な建築美觀が發

揮せられる。

コルホーズナヤ廣場を起點とする第一メシチヤンスカヤ通はベズボージヌイ横町迄四二米に擴大され、左側は高層建築物が保存される。

更に第一メシチヤンスカヤ通は現在の四二米の幅員を有し、ルヂフスキー驛の廣場に接する處に於て直線に修正される。クレストーフスキー屋上から新しいザクレストーフスキー高架橋が建設せられ、第一メシチヤンスカヤ通とヤロスラフスキー・シヨスとを直線に結び付け、三二米の幅員を以てザクレストーフスキー區の運輸を統制する。

一〇〇米に擴大されるヤロスラフスキー・シヨスは巨大な幹線と化し、市とオクルーヂヌイ鐵道の背後の郊外公園を結び付け、而して此處に住宅が建築される。

一五、幹線 ノヴォクズネツカヤ—ドウビニンスカヤ通

モスコーの中心とパヴェリツキー驛の地區との連絡はノヴォクズネツキー幹線を越えて實現され、而して此の幹線は遠く(パヴェリツキー驛から)リヤザン・ウラル鐵道の高架橋附近に於てセルプウホフスキー・シヨスと接するドウビニンスカヤ通と成る。

幹線の總延長は五・三軒である。

幹線の幅員は四〇米に擴張される。

幹線はブリワール環狀路とノヴォクズネツカヤ通との交叉點に設けられる廣場を起點とする。

ブリワール環狀路からザツイパイに至る幹線には高層住宅が建築される。

サドワヤ環狀路とノヴォクズネツカヤ通との交叉點附近のザツイパイの地點に廣場が設けられる。

パヴェリツキー驛の廣場は市内の凡ゆる運輸機關の連絡點として計畫される。

トウビニンスカヤ通はパヴェリツキー驛を起點とし主として貨物運輸道路として計畫される。此の通はバリシヤヤ・トウリスカヤ通に出てリヤザン・ウラル鐵道の敷設地に沿ふて倉庫に接近する。

一六、幹線 ポリシヤヤ・ヤキマンカ—ポリシヤヤ・カールシスカヤ—カールシスキー・シヨス

幹線はポリシヤヤ・ヤキマンカ、ポリシヤヤ・カールシスカヤ通及カールシスキー・シヨスの三道路から成り、而して市の中央公園を成すレーニンスキー丘及新しい西南地に至る市の最も重要な道路の一と化する。

都心との連絡は計畫中のブリワール環狀路からポリシヤヤ・ポリヤンカの一部を経て或は更にセラフイモビツチ通に沿ふて實現される。

幹線道路各部分の建築はそれぞれ特徴を有する様に計畫される。

計畫中のブリワール環狀路からオクチャブリスカヤ廣場に至るポリシヤヤ・ヤキマンカは特に住宅地として計畫される。而してブリワール環狀路附近の廣場及オクチャブリスカヤ廣場に通ずるポリシヤヤ・ヤキマンカの一部に事務所が建設される。

モスコー河に面する幹線の右側からはソヴェート宮殿が見晴され、幹線の左側には建築物が存して多くの道路が此の間を縫つて走つてゐる、通りは四〇米迄擴張される。

オクチャブリスカヤ廣場からオクルーヂヌイ鐵道に至る迄のポリシヤヤ・カールシスカヤ通は特に其の片側にのみ建築物が建てられる。オクチャブリスカヤ廣場附近に於て、唯最初の部分のみ即ち鑛山大學の建築物迄の兩側には建物が存する。右側はゴリキー記念公園建設地と豫定され通は五〇米迄擴大される。

左側は特に住宅建設地として計畫され、オクチャブリスカヤ廣場及カルージスキー關所の廣場に接する所に公共施設物が建設される。

幹線の最後の部分を成すカルージスキー・シヨスは七〇米に擴大される。砂利道は都心と新地域の重要地點とを連結し、更に最高地點を成すと共に大公園地帯に接してゐるチヨールイ・スタンに通ずる。

幹線の全長に亘つて左の廣場が築造される。即ち現在計畫中のブリワール環狀路と交叉する附近にオクチャブリスカヤ、リズパロデエンスカヤ及カルーデスキー關所の廣場が設けられる。

一七、幹線 クロボトキン通—ポリシヤヤ・ピローゴフスカヤ

幹線はクロボトキン、ズウボーフスカヤ、ポリシヤヤ・ピローゴフスカヤ通及ルーヂネツキー通路から成り、其等は四〇米に擴張される。

幹線は科學的醫學的施設物、諸企業及住宅地區の存する地區を都心及多くの區に結び付けると共に、他方に於て交通上の要衝としての意義を有する。何故ならば幹線はレーニンスキー丘に於ける市の新地點とモスコの中心とを結ぶからである。

ズウボーフスカヤ廣場は遊歩道の終端に存する建物を除去して擴大される。歴史的博物館の分館附近（以前のノヴォヂイヴィチー寺院）に於けるポリシヤヤ・ピローゴフスカヤ通の終端に廣場が計畫され、其處から河に綠地を施した立派な階段が設けられる。更に幹線はルーヂニトクを越えて一直線に西南地區に於けるレーニンスキー丘に通ずる。

一八、環狀幹線道路

市内の交通を整理し、輻輳せる都心の交通を緩和し、而して個々の地區を相互に連絡する爲に現在未完成の環狀系統は改造され更に新しい幹線道路が敷設される。

一九、中央迂回半環狀路

半環狀路は都心の輻輳せる交通を緩和する爲に補助的幹線として計畫される。

半環狀路は次の方向に實現される。ポリシヨイ・ズナメンスキー横町、クレストヴオズトビヂエンスキー、ポリシヨイ・キスロフスキー横町、アガリヨフ通、藝術劇場の道路、クズネツキー・モスト、フルカソフスキー横町、ポリシヨイ・コムソモリスキー、スパソグリニシチーフスキー、此等の横町及通は直線に改造され、二二—一五米から三五米に擴張される。新しい赤線に沿ふて半環狀路を建設すると共に、例へば、スパソグリニシチーフスキー横町及クズネツキー・モストに於ける如く、市の交通を阻害してゐる勾配を緩和する立體計畫が施行される。

中央半環狀路はクズネツキー・モストからプシーチナヤ通を経てヂエルデンスキー廣場への補助的な直通の出口が設けられる。

同時に餘り重要でない横町は之を除去し、十字路を整理し、其處に安全地帯を設備すること等が計畫される。

二〇、ブリワール(遊歩道)環狀路

環狀路はクロボトキン河岸通からクロボトキン門の廣場に至る迄、ソヴェート宮殿のマーラヤ廣場を経て新しい方向に計畫される。

ゴーゴリ遊歩道は外側に大建築物を有し、アルバート廣場迄の全長に亘り、内側を利用して六二—六四米のが七〇米に環狀路を擴張する。

ニキツキー遊歩道に於ては、運輸問題以外に特別な注意が街路の構築に向けられる。遊歩道の綠地及六〇米の現在の幅員は其の儘とされる。

アルバート廣場及ニキツキ門の廣場への出口は建築物を移動するか、或は他の建築方法によつて設けられる。アルバート廣場及ニキツキ門への遊歩道の出口を遮ぎつてゐる建築物は取拂はれる。トヴェルスコイ遊歩道はテミリヤヂエフ記念建築碑の存するニキツキ門の廣場から現在の幅員の儘に維持される。遊歩道はプーシキン廣場の近くの所で外側の通路に沿ふ地區を利用して稍擴張される。ストラストヌイ遊歩道は廣場から發し、以前のストラストヌイ寺院、バリシヨイ及マイルイ・プチンコフスキー横町間の街區を撤去して延長され、同時にプーシキン廣場の擴張が行はれる。

ベトロフスキー門の廣場は擴大され、公共建築物が設けられる。
トループナヤ廣場は美しく改造される。

トループナヤ廣場からスレチンスキー門の廣場に至る四二一六四米の幅員のロヂストヴェンスキー遊歩道は内側の通路に沿ふ地區を利用して七〇米迄擴張される。

スレチンスキー遊歩道はスレチンスキー門からトウルゲーネフ廣場に至る迄現在の六五八〇米の幅員の儘とされ、ノヴォ・キエロフスカヤ通附近に於て外側の地區を利用して直線に改造される。
トウルゲーネフ廣場は改造される。キエロフ廣場に面し、或はスレチンスキー遊歩道を遮ぎつてゐる建物は取拂はれる。廣場はウランスキー横町迄擴大される。トウルゲーネフ廣場とフロロフスキー横町との間の街區には公共施設物が建築される。

チストブルードヌイ遊歩道はキエロフ門の廣場から各地區に於て直線に改造される。

遊歩道に於ける濠は藝術的に構成される。

ポクロフスキー門の廣場は擴張され、チストブルードヌイ遊歩道及ホフロフスカヤ廣場の出口を遮ぎる建築物は取り拂はれる。ホフロフスカヤ廣場はポクロフスキー門の擴張される廣場に含れる。

更に二六一三一米の幅員を有するポクロフスキー遊歩道はヂエルデンスキー記念兵舎前の廣場を撤去して七〇米に擴張され、此處に於ける交通不便は解消される。

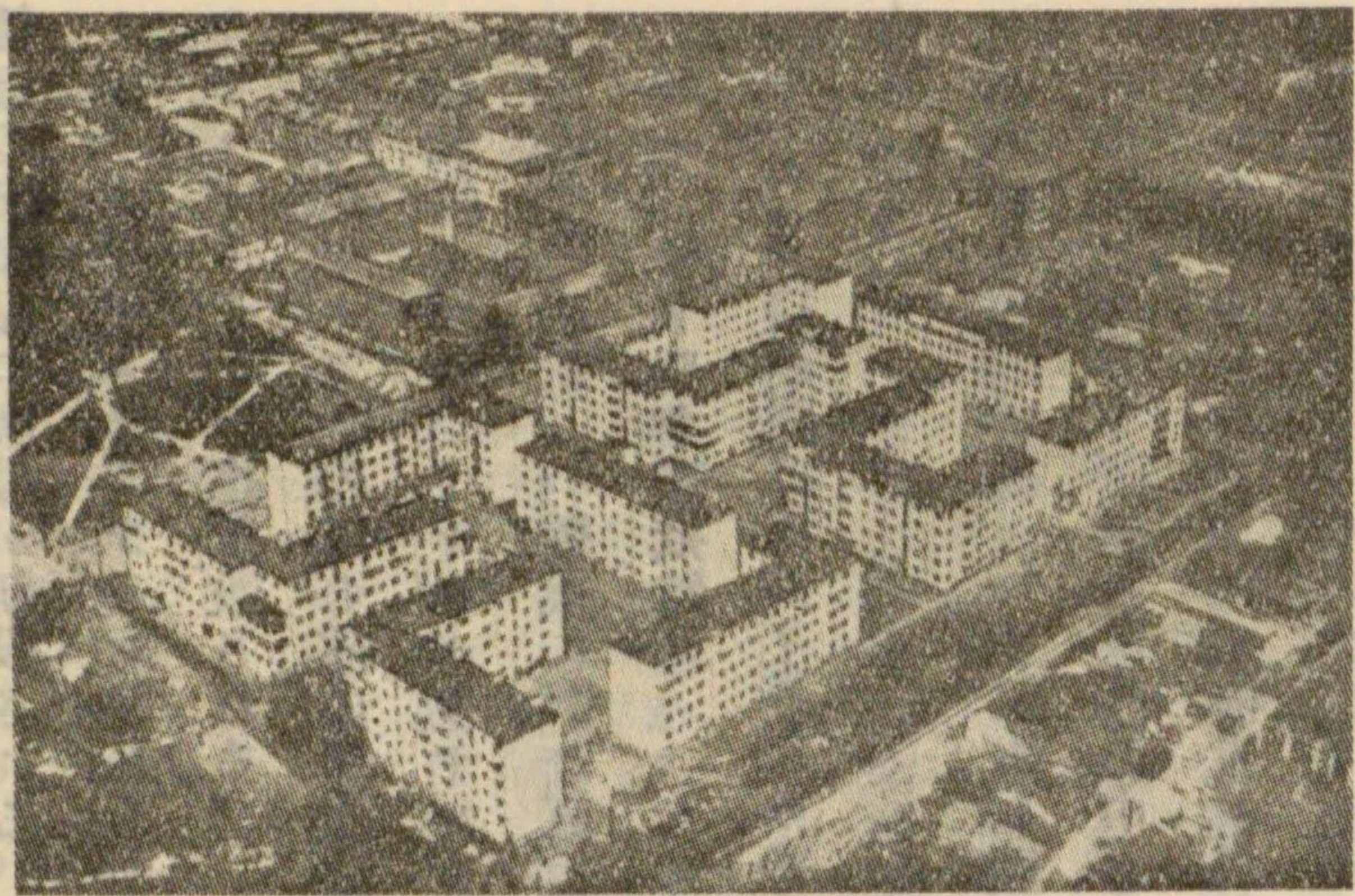
ポクロフスキー遊歩道の延長及ヤウズスキー遊歩道は内側及外側を利用して六五米迄擴大される。

ヤウズ門附近のブリワールの曲折はウスチェンスキー橋梁の方向に沿ふて直線に修正される。ヤウズ門とウスチェンスキー橋梁間のブリワール環狀路の一部分はソリヤンカとウリヤトノフスカヤ及インテルナツエオナリヤ通、モスコ

ー河及ヤウザ河の河岸通を結ぶ大廣場に變化する。
ブリワール環狀路はウスチェンスキー橋梁からザモスクワレーチエに延び、排水渠を経てコミツサール橋梁に通ずる。

排水渠からノヴォクズネツキに至る一部の幹線は朽廢した一階建の建物とさほど大きくない四階建の家屋を撤去して敷設される。

環狀路の延長はノヴォクズネツカヤ通からバリシヤヤ・オルディンカ迄七〇米の幅員に計畫され、計畫中のバリシヤヤ及マールヤ・オルディンカの平行幹



區地宅住の街者働勞一キスフーチサウ
(年〇三一六二九一)

線との交叉點に廣場が新設される。

ポリシヤヤ・オルディンカから幅員七〇米の新しい幹線路がポリシヨイ・トルマチエフスキー横町の街區に沿ふてポリシヤヤ・ポリヤンカ迄敷設される。

トレチヤコフ陳列館の前の環狀路には緑地を配された廣場が築造される。

環狀路とポリシヤヤ・ポリヤンカ及ポリシヤヤ・ヤキマンカの交叉點に廣場が新設され、環狀路は其處から排水渠及モスコイ河を跨ぐ新しい橋梁に沿ひ直線を爲してソヴェート宮殿の存在するマーラヤ廣場及ゴリ遊歩道に出る。

二、サドワヤ環狀路

サドワヤ環狀路はクルイムスカヤ廣場からトリウムフアリナヤ廣場に至る迄は現状の儘とされる。然し環狀路の歩道は擴大される。

基本的な放射幹線との交叉點に廣場が設けられる。廣場の所で遊歩道の出口を遮ぎつてゐる建物は悉く取拂はれる。

スモレンスカヤ廣場は地區の中心に相應しく築造される。

クレチエトニコフスキー横町に於て環狀路はノーヴィ・アルバートと交叉する。

スターラヤ・トリウムフアリナヤ廣場は擴張される。

ゴリキー通からウゴリリナヤ通迄のサドワヤ・トリウムフアリナヤ及サドワヤ・カレートナヤ通は二三―四〇米のが一〇〇―一一〇米迄に擴張され、此れが爲にオクルーヂヌイ横町とサドワヤ・トリウムフアリナヤ通間の街區は擴張される。而して此の環狀路の一部は緑地化される。

マーラヤ・ドミトロフカとサドワヤ・トリウムフアリナヤ通との交叉點に廣場が設けらる。ポリシヤヤ及マーラヤ・ウゴ

リリナヤ廣場はオクルーヂヌイ横町に沿ふて擴張される。

サドワヤ・サモチーチナヤ及サドワヤ・コルホーズナヤ通は(以前のサドワヤ・スハレーフカヤ通)マーラヤ・ウゴリリナヤ廣場からコルホーズナヤ廣場に至る迄現在の七五―八五米の幅員の儘にされる。

ツヴェートヌイ及サマチーチヌイ遊歩道からサマチーチナヤ廣場へ出る道路は其の廣場に特殊な建築的色彩を與へる。コルホーズナヤ廣場からクラスノヴォオロツカヤ廣場に至るサドワヤ・スパスカヤ通は五四―六四米に擴張される。

クラスノヴォオロツカヤ廣場は改造される。廣場の一端及ランチフカヤ通に存する建物を取拂つて擴大される。

クラスノヴォオロツカヤ廣場からゼムリヤヌイ障壁の廣場に至るサドワヤ・チオルノグリヤズナヤ通はポリシヨイ・ハリトネエフスキー横町ポクローフカ間のさほど貴重でない建物を利用して四〇―五一米のが六〇米に擴張される。

ゼムリヤヌイ障壁の廣場は新建築の「専門家の家」を考慮して著しく擴張される。廣場に於ける木造建築物を撤去すると、クラスノヴォオロツカヤ廣場及クルスキー驛の廣場が展開される。

ゼムリヤヌイ障壁の廣場からヴィソコヤウズスキー橋梁に至るサドワヤ・ゼムリヤヌイ障壁は兩側に存する多くの建築物を取拂つて五〇―六〇米に擴張される。現在の急勾配は緩和されるであらう。

サドワヤ・ゼムリヤナヤ通はヴィソコヤウズスキー橋梁からタガンスカヤ廣場に至る迄五四米に擴張される。

タガンスカヤ廣場は主として運輸上の性質を有する廣場として計畫される。廣場の建築は單一の綜合美觀を發揮させねばならない。

ルーヂニーク通からドブリニンスカヤ廣場に至る迄ワロワヤ通及ザツイバは合併して一個の幹線となり幅員は一四五米に擴大される。

ワロワヤ通とザツイ・パ間には遊歩道が計畫される。
ドブルーニンスカヤ廣場は著しく擴大され、此處にサドワヤ環狀路、ポリシヤヤ・オルデンカ及マーラヤ・オルデンカの
廣い遊歩道が集中する。

デイトナヤ通とカローヴィ障壁は統一されて、一五〇—一六〇米の幅員を有する幹線を形成する。此等の通りの間に存す
る街區は遊歩道に變化する。而してこの一つの環狀路の兩側には高層住宅が建築される。

著しく擴大されるオクチャプリスカヤ廣場（十月廣場）は地區の中心として計畫される。サドワヤ環狀路の此の部分に計
畫された豊富な緑地はゴリキー記念中央公園の緑地層と建築的に結合する。

クルイムスキー障壁及クルイムスキー通路は六〇—七〇米に擴大され其處に緑地を設ける事が出来、同時にオクチャプリ
スカヤ廣場、公園及ノーヴィ・プロスペクトとを結ぶ。

二、新ブリワール環狀路（以前のカーメル・コリススキー障壁）

ノーヴィ・ブリワール環狀路は主にカーメル・コリススキー障壁の方向に敷設される。

チトフスキー道路の反対側に存するモスコー河のハモブニチスキー河岸通から、七〇米の幅員を有する新ブリワール環
狀路はフルンゼンスキー區の建設街區を越えて敷設され、而して新計畫のモスコー河上の橋梁を経てキエフスキー驛の廣場
及更に遠くドロゴミロフスキー障壁に通ずる。

ドロゴミロフスキー河岸通からプレスニンスキー河岸通に向つてモスコー河を跨ぐ新橋梁が計畫される。

此の橋梁から七〇米の幅員を有する環狀路は直線にワガニコフスキー高架橋に至る迄敷設され、比較的建築物の少ない
街區を通過する。ズヴェニゴロツカヤ通とズヴェニゴロツキー・シヨスの間の地區に於て環狀路は一九〇五年記念廣場と接

し、其處に一九〇五年の事件に關係を有する建物が建築される。

ペーゴワヤ通は環狀路系統の一部を成し、七〇米に擴大される。

レーニングラツキー・シヨスからニージニヤヤ・マスロフカに至る迄ペトロフスキー公園とノヴァヤ・バシローフカを利
用して七〇米の幹線が敷設される。幹線の片側に池と「ダイナモ」競技場を有するペトロフスキー公園の緑地が配され、他
の側には高層住宅が全面的に建設される。

ニージニヤヤ・マスロフカとの交叉點に於て「ダイナモ」競技場の入口の前に運輸廣場が設けられる。

ニージニヤヤ・マスロフカはペトロフスキー公園から七〇米に擴大され、サヴェエロフスキー驛の廣場に接する。
スウシチエフスキー障壁はシレメテエフスカヤ通に至る迄七〇米の直線に擴張される。

シレメテエフスカヤ通からオクチャプリスキー鐵道迄七〇米の幅員を有する環狀路は以前のラザレフスキー墓地に於ける
緑地帯の北部及モスコー——ルーヂスカヤ終驛の存する地域を経て敷設される。

此の地域は鐵道を撤去したる後は環狀路に沿つて住宅及公共建築物が建設される。

新しい幹線はセーベルヌイ鐵道の貨物驛の空地を経て同じく七〇米の幅員に敷設される。

セーベルヌイ鐵道からムイチコフスキー支線迄幹線道路は第一ルイビンスカヤ通の兩側を利用して敷設される。

環狀路はプロエズデー通からクラスノブルードナヤ通迄七〇米の幅員を以て、會てのアレクセーフスキー寺院の公園に沿
つて敷設される。

公園には文化的特色を有する巨大な建築物の建設が計畫され、此等の建築物及公園建築は環狀路に美觀を添へる。

三〇米の幅員を有するガブリーコフ通はカザン鐵道に至る迄七〇米に擴張されて、此處に住宅が建築される。カザン鐵道

を跨ぐ高架橋の建設が計畫され、環狀路は高架橋から六〇米の幅員を以てバウマンスキー横町へ向ひ、現在の街區に沿ひバウマンスキー通及サルトイスカヤ通に沿ふて南方に通じ、更に以前のカーメル・コリンスキー障壁へ出る。

環狀路の此の部分は最も重要な幹線であり、バウマンスキー區を横斷し、ソコリニークとプロレタルスキー區との連絡を著しく緊密にする。

クルースキー鐵道迄に至る二〇米の幅員を有するゾロトロシスキー障壁は八〇米迄に擴張される。

アベリマノフスキー關所からマルクシスト通迄、四六一五〇米の幅員を有するボクロフスキー障壁は七〇米迄に擴張される。

クレスチヤンスキー關所からノヴォオスバススキー橋梁迄、通路の兩側を利用して八〇米迄に擴張された第三クルチツキー横町及サルスカヤ通に沿ひカーメル・コリンスキー障壁の新しい線が敷設される。

ノヴォオスバススキー橋梁からデイルベネフスカヤ通及第二ゴジブニチスキー横町の擴張と共に二條の幹線が計畫される。

新しい幹線はドビニンスカヤ通から第一シチブコーフスキー横町まで続き、セルプウホーフスカヤ通迄一直線に改造され、七〇米に擴大される。

一八米の幅員を有するアルセネフスキー横町は七〇米に擴張される。

ドロビヤナヤ廣場の通路はドロビヤナヤ廣場の空地を利用して二〇米から七〇米迄擴大される。公園の緑地帯に於て、更に環狀路はヴァイスタヴオーチヌイ横町と連接する處に敷設される。

カルーシスカヤ通とチトフスキー通路の交叉點に在る廣場はモスコイ河に向つて擴張される。而して此處から環狀路はゴリキー記念中央公園を棧橋で横斷し、モスコイ河の橋梁を経て、フルンゼンスキー區の環狀路と連結する。

二三、新公園環狀路

各住宅地區、諸企業及重要な市公園地帯を連絡させる爲に全長四四軒の公園環狀路が計畫される。

環狀路はソヴェート宮殿の大通とオクルーヂヌイ鐵道との交叉點を起點とし、此の鐵道線路に沿ふて一〇〇米の幅員を有するザヴィンスキー河岸幹線に至る。ルーヂニークは環狀路の此の部分に出る。而して環狀路の外側に於てレーニンスキー丘の雄大な公園地帯が展開される。

一〇〇米の幅員を有する幹線はモスコイ河を横斷し、建築物の少ない地區をドロゴミロフスキー河岸通に向ひ、オクルーヂヌイ鐵道に沿ふて續いてゐる。

ドロゴミロフスキー河岸通附近に於て環狀路はドロゴミロフスキー公園の綠地帯に平行して敷設され、更にモスコイ河を越えてプレスニンスキー河岸通に向ひ、其處からバスクレセンスキー・シヨスに至る迄一〇〇米の幹線を成してゐる。此の部分に於て環狀路は一面から此の幹線に接してゐるクラスノプレスニンスキー公園の綠地帯附近を通過する。

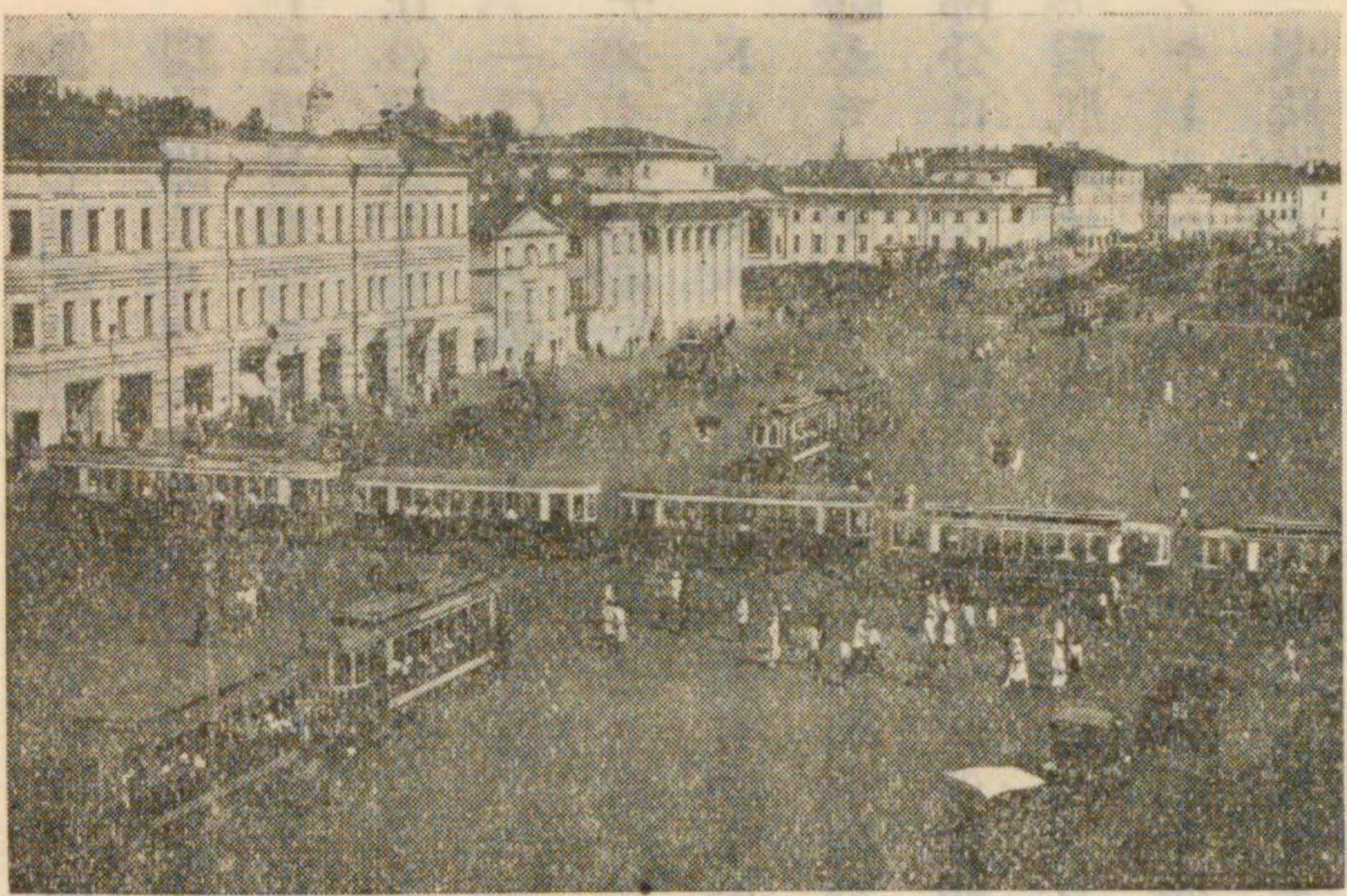
環狀路はバスクレニンスキー・シヨスからレーニングラツキー・シヨスに向ひ、ロヴィンスキー横町に於てレーニングラツキー・シヨスと交叉し、而して外側からは公園地帯を擁し、内側からは現在空港の存する地域を擁する。

環狀路はセーベルヌイ鐵道のサヴェロフスキー線及ヴァイトイルスキー地域を経てドミトロフスキー・シヨスからオクチャプリスキー鐵道との交叉點の方に向つてゐる。

環狀路は高架橋で鐵道を横斷し、更にヤロスラフスキー・シヨスとの交叉點に向ひ、此の部分に於て環狀路はオスタンキンスキー公園から都心へ向ふ直徑を横斷する。

ヤロスラフスキー・シヨスから一〇〇米の幅員を有する幹線はアレクセーフ村を通じてロストキンスキー通路附近のセー

ベルヌイ鐵道に至る迄、更に同一幅員を以つてヤウザ河に至る迄敷設される。
 バゴロツキー・シヨスからバガトイルスカヤ通は一〇〇米に擴張され、之と同じ幅員を有する環狀路は遠くブレオブラデ
 ンスキー障壁に沿ふてハビロフスキー濠迄通じてゐる。
 環狀路はハビロフスキー濠からセミヨノフスカヤ廣場迄六四米に擴張されたイズマイロフスキー障壁に沿ふて敷設され



コルホルナーザヤ廣場

る。
 メールホリド通路はイズマイロフスキー・シヨスから幅員六五米の直線に改
 造される。
 幹線はソコリンヌイ丘に於ける新しく計畫中の幹線との交叉點から更にエント
 ウジアーストフ・シヨスに至る。
 環狀路はエントウジアーストフ・シヨスからモスコ・クルスキー鐵道との
 交叉點迄六四米の幅員に敷設され、更にニヂエゴロツカヤ通からカヂウホボ高架
 橋に至る迄は一五〇米に擴張される。
 環狀路はカヂウホボ高架橋からシモノフスキー河岸迄四〇米の幅員を以て敷
 設される。
 環狀路はレーニンスキー場末街から新しいダニロフスキー橋梁迄五〇米の幅員
 を有する河岸通に沿ふて走る。
 環狀路はモスコ・クルスキー鐵道のリヤザンスキー支線の高架橋を越えて

ダニロフスキー河岸通から七〇米の幅員を以つて、セルブウホーフスキー關所の廣場に通じ、更にセルブウホーフスキー障
 壁に沿ふてシヤポロフカとの交叉點に通じ、此處に於て七四米に擴張される。

更に環狀路はカルーヂスキー關所の廣場に至る迄七〇米に擴張された第五ドンスキー通路に沿ふ。
 幅員四〇米の幹線路はカルーヂスキー關所の廣場から敷設される。此の幹線はゴリキー記念中央公園の緑地の中を通過し
 てモスコ河のネスクーチヌイ河岸通へ降下し、モスコ河を跨ぐ橋梁を以て環狀路を結び付ける。

二四、新迂迴幹線道路

輻輳せる中心の交通を緩和し、且各區間の連絡を緊密にする爲に新しい迂迴幹線道路が敷設される。

a 幹線、東南—西北(プロレタルスキー區—シエリビーハ)
 十二軒の延長を有する幹線はクラスノブレスニンスキー文化と休息の公園、キエフスキー驛、ライノフスカヤ新大通、ゴリキー記念文
 化と休息の中央公園、レーニンスキー區の代表的な中心をなすオクチャプリスカヤ廣場及東南工業地區を結び付ける。
 新幹線はハローシエフスキー・シヨスからモスコ河の小高い岸に於けるシエリビーハの繪のやうに美しい地域を通過す
 る。高架橋でオクルーヂヌイ及白露バルチツク鐵道を横切つて、此の幹線はクラスノブレスニンスキー文化と休息の公園の
 緑地帯附近を通過して、モスコ河の方に通ずる。

幹線はモスコ河の橋梁を渡り、ドロゴミロフスキー河岸通とモヂヤイスキー・シヨス間の計畫された廣場に入る。ドロ
 ゴミロフスカヤ廣場からキエフスキー驛の廣場迄の幅員は七〇米に規定される。幹線はキエフスカヤ廣場を横斷してモスコ
 ー河及擴張されたドルギー横町を越えて走る。

幹線はドルギー横町からサドワヤ環狀路に入り、ズウボーフスキー遊歩道、クルイムスキー通路及クルイムスキー障壁に

沿ふてオクチャプリスカヤ廣場に至る。

幹線はオクチャプリスカヤ廣場からムイトナヤ通と第一シチブコフスキー横町との間の建物の少ない街區に沿ふて敷設される。幹線は此處から擴大された第一シチブコフスキー横町を経て鐵道區域を横斷し、更にプロレタルスキー區の文化宮殿の地域に至る迄建築物の少ない街區やシモノフスキー低地に沿ふて走る。此の地區に於て幹線は撤去される運命にあるシモノフスキー石油貯藏所の所を通過する。

レーニンスキーの場末街の高い河岸には大廣場が建設され、其處からザモスクワレーチエを展望することが出来る。廣場からユージヌイ・ポルト(南港)迄幹線は建築物の行き直らない地域及將來撤去さるべき鐵道地域に沿ふて通ずる。

幹線の幅員は建築的、運輸的及經濟的條件に應じて五〇—七〇米及一〇〇米に計畫される。

ハ、コムソモリスカヤ廣場—白露西亞驛の廣場

新しい幹線は都心を迂迴して二つの最も重要な驛附近の廣場を結合し、而してレーニングラツキー・シヨスの地區とソコ—リニク及モスコ—の東方部分とを直接に結びつける。

幹線はコムソモリスカヤ廣場を起點とし、現在のカラランチエフスカヤ通及ボリシヤヤ・スバスカヤ通(部分的に)を利用する。

トヴェルスコイ關所の廣場に於て幹線はミウスカヤ廣場を越えて二つの方向に通ずる。一つはアレクサンドル・ネフスキー横町を越えてゴリキー通へ、他はアレクサンドルネフスキー通に沿ふてレーズナヤ通に至る。

幹線の方向は詳細に而も正確に研究されねばならない。

幹線は都心を包む四角形の周邊の一つを成す。

シ、サヴェロフスキー驛—モスコ—白露バルツク驛の廣場—キエフスカヤ廣場

幹線はサヴェロフスキー驛の廣場、白露バルツク驛の廣場及キエフスカヤ廣場等の驛附近廣場を結ぶ爲に計畫される。

其の結果オクチャプリスキー區、クラスノプレズニンスキー區及フルゼンスキー區を直接に連絡することが出来る。

幹線はモスコ—河とノ—ヴィ・アルバートとの交叉點に設けられる新しい廣場に於て部分的にカニエ—シユフスカヤ通に至る迄建設物の少ない街區に沿ふて敷設される。

幹線はクラスナヤ・プレスニヤ通から白露バルツク驛の廣場に至る迄街區に沿ふて更にサヴェロフスキー驛へ向つて現在の幹線に沿ふて敷設される。

ド、コムソモリスカヤ廣場—アベリマノフスキー關所

幹線はコムソモリスカヤ廣場を起點とし北方から南方に向ひ、かくしてソコリニ—チスキー區、バウマンスキー區及プロレタルスキー區をつなぎ、アベリマノフスキー關所附近で終つてゐる。幹線はサドワヤ環狀路の東部に於ける交通を緩和する上に於て重要な役割を演ずる大動脈を成す。

幹線はモスコ—・クルスキー鐵道の接續線の利用する。(鐵道の地區はコムソモリスカヤ廣場からクルスキー驛に至る迄トンネルの中を通ずるであらう。) 豫定線はクルスキー驛に達しない中に稍轉廻し、クルスキー驛の正面に出る。更に幹線は一直線を成してナスタブニ—チスキー横町を利用して南方に出る。更にヤウザ河を横斷し、アベリマノフスキー關所を經由しドプロリチ—スカヤ通に至る迄延長される。

幹線は、ドプロリチ—スカヤ通及ナスタブニ—チスキー横町に沿ふ部分を除き、其の全長に亘り(四料以上)新しく敷設される。街路の幅員は五〇米迄擴張される。

街路(通り)の建築は、クラスノブルドナヤ、リヤザンスカヤ、ノイヴィ・バスマンナヤ、マルクス及新計畫の幹線スイロミヤトニースカヤ及ウリヤノフスカヤ通等の放射幹線との交叉によつて決定される。

八、住宅建設及文化的、社會的建設

現在のモスコイは野蠻なロシア資本主義時代に於ける狹隘な、著しく立ち遅れた貧弱極まる住宅状態を其の儘繼承した。一九三一年に施行されたモスコイの住宅に關する全面的調査に依れば、五一、三〇〇の建築物中三二、八〇〇、換言せば其の六二%は木造であり、又モスコイに於ける全住宅面積の三〇%(四百萬平方米)は木造住宅の占める所であり、又市住宅面積の約半分と謂ふものは一階及二階建の建物に依つて占據せられ、其の數四三、六〇〇、即ち全住宅の八六%に及んでゐた。之等全住宅の半數以上は水道及下水道の設備を有せず、又住宅の八七%には暖房装置なく、僅に薪炭によつて暖を採るに過ぎなかつた。

之等の資料は、モスコイの住宅が日に増加して行く市住民の要求を満たし得ないのみならず、既に古きに失し住宅としての用を全うし得ず、大部分撤去さるべき運命に在ることを示すものである。更に多數の建物を取拂ふこと、部分的ではあるが最も大きく貴重な住宅を移動せしめることは古い街路及廣場の擴張乃至は之等の新設に不可缺の要素をなすものであることを知り得る。

最近十年間を期して一千五百萬平方米に亘る新しい住宅が建設されんとする。住宅建築に要する土地の面積の計算に當つては六階以上の大住宅を以て基礎とする。廣場、河岸通、或は主要幹線道路の如く、可及的に美觀保持の必要ある市内の各

地點に於ては七、一〇、一四階の高層建築物を建築することを要する。

狹隘なモスコイの街衢の五〇—六〇%の面積には二階、三階のさほど高くない建築物が密集してゐるのが現状であるが、かうした街衢は漸次之を改造して行かねばならない。規準となるべき街衢は少數の高層建築物の建設された九—一五ヘクタの街衢である。かくすることにより、住宅は總て衛生上の諸要求に合致して配置せらるべく、街衢の照明、換氣亦一段と改善されることであらう。

住民の文化的な生活施設(託兒所、兒童遊園地、體育場等)は出来るだけ住宅に接近せしめるを要する。

文化的施設の中で、特に學校は數字の上に於て著しい飛躍を示してゐる。現在モスコイに於ける小學校及中等學校の生徒數は四五萬に達する。一九三五年初期に於ては三七五校中七九校が木造であつたが、當時に於ける市の學校は其の規模に於ても將又其の使命に於ても尙充分と謂ひ難いものがあつた。十年間に於て學校の生徒數は大體七〇萬迄に増加するであらう。生徒を學校に入學せしめ、正しく課業に就かせる爲には十年間に五三〇校を、此の中三九〇校は一九三六—一九三八年の三年間に建築しなければならぬ。

病院を始め、各種の高度醫學設備を、増加し行く住民一般に充分利用せしめる様今後更に醫療網を増設しなければならぬ。これが爲には十年間に二七の施療病院及公衆診療所、更に十七の病院を建設することとし、此の中病院六、公衆診療所三は最近三年間に建設すること。又改造案に依れば、近く其の完成を見んとするモスコイ市ソヴェートのホテル以外に六つのホテルの新設を最近の十年間に施行することとせられてゐる。

勤勞者の物質的水準の堅實な發展は商品製造網の發達整備に拍車を加へつつある。新たに設けられる商店は多數の食堂と同様、新しい住宅の第一階に配置せられ、十年間に主として住宅の密集してゐる區に九の百貨店が建設される。

住民に食糧品を供給する目的を以て、倉庫、穀物倉庫及冷蔵庫を諸處に創設しなければならない。

プランは左記建設事業が實施されることを示してゐる。即ち
a 鐵道に依りモスコに到着する貨物の爲に線路附近に倉庫を建設すること。
b 莫スコ工場によつて産出せられ、廣く一般に使用される商品を貯蔵する倉庫を建設すること。而して之等の商品は大部分自動車によつて運搬される。

最近シエリビハに於ける製粉コンビナート(綜合企業)には容積六萬五千噸の穀物倉庫の建設が既に開始され、更に容積十一萬噸の穀物倉庫一個或は二個の建設が豫定せられてゐる。而して現存の容積七萬五千噸の穀物倉庫を合するとき、穀物倉庫の總容積は二五萬噸に上るのである。

特に冷蔵庫は配給倉庫に變化する。冷蔵庫内の貯蔵品は最小限度に止めなければならない。現存の多數冷蔵庫の總容積(冷蔵工業本部の第八、第九の冷蔵庫及「ガストロノム」の冷蔵庫を含む)は六萬噸に達するのであるが、十年間に容積五萬噸の冷蔵庫五個を追加建設の豫定である。

モスコの冬に備へて野菜及馬鈴薯は六七月以上に亘り貯蔵される。而して此の貯蔵品の一部は州(註、ソヴェト行政区劃の最高位にあるもの、此處ではモスコ州を指す)の貯蔵所に於て保管せられる。モスコの住宅の穴藏から物置を撤去しなければならない。十年間に六〇萬噸の容積の大野菜貯蔵所が建設される。貯蔵所は菌類に冒かされることなき物質で建設される。而して貯蔵に關する各種の過程は悉く機械化せられなければならない。

九、動力問題

モスコ市の動力經濟は將來凡ゆるエネルギーの統制的供給の一路に向つて發達する。

多くの個々の且つ小規模の設備は地方の燃料によつて活動する一〇―一二の巨大な發電所によつて置き代へられるであらう。

一九三四年に於けるモスコ特別火力發電所の産出熱量は七八萬メガカロリーであつたが、之とて僅かに需要の一部を満たし得るに過ぎない。將來に於て需要は二倍―三倍に増加する。従つて最近の十年間に於て熱エネルギーの産出量を少くも七百萬メガカロリー迄に増加しなければならない。

一九三四年に於けるモスコの光熱消費量

る。(勿論此の中には市の中心部に存する特別火力發電所の需要額は加へられてゐない)瓦斯は最近十年間に於て食糧品を煮たり、湯を沸かしたりする爲に日常生活上廣く利用されるであらう。然し市の暖房設備及電熱供給の發達に伴ひ、生活上の瓦斯の使用はやがて電熱の使用へと移行行くであらう。かくして熱湯は特別火力發電所から組織的に供給され、食糧は電熱によつて料理することが出来る様になり、而してそれは瓦斯に比較すれば多くの長所を有してゐるのである。



(ノイツーリアツの前以)園公るけ於に村ノニーレ

は十五億三千五百萬キロワット時に達し、此の中九億五千萬キロワット時は工業に、二億二千萬キロワット時は運輸に、三億六千五百萬キロワット時は照明及生活上の需要に消費された。十年間の末期に於てはエネルギーの消費は略三十七億五千萬キロワット時に上るであらう。

特定量のエネルギーをして最大の効果あらしめる爲には、一九四五年迄に特別火力発電所の能力を最少限度六十七萬五千キロワット時迄に増加しなければならない。その中二十七萬五千キロワット時は最近三年間に増加すること。

- (1) フルンゼンスキー特別火力発電所——五萬キロワット時迄に、
 - (2) スターリンスキー特別火力発電所——一〇萬キロワット時迄に、
 - (3) スターリン記念工場の特別火力発電所——二萬五千キロワット時迄に、
 - (4) 全露煖房研究所の煖房発電所は一九三六年に於て——六萬四千キロワット時迄に、
 - (5) 第一國營モスコイ発電所は一九三七年に於ては二萬四千キロワット時迄に、
- 市の中心部に於ける煖房を潤澤ならしめる爲には第一國營モスコイ発電所及第二國營モスコイ発電所が利用されねばならない。かくするときは總計畫實現の初期に於ける投下資本を著しく節約することを得る。將來市の中心部には多くの巨大な郊外の発電所から供給される。此の結果中心部に存する発電所は漸次取り拂はれる。

モスコイの瓦斯供給を急速に解決する爲には、將來モスコイ附近の石炭及泥炭を基礎とする瓦斯供給に移らなければならぬ。現在の瓦斯工場を二倍に擴張し、加之一九三八年頃迄には瓦斯の年産額二億立方メートルの新しいコークス瓦斯工場を建設し、其の活動を開始せしめること。

一〇、運輸問題

現在のモスコイ市經濟の中で、運輸の部門に於てモスコイの立ち遅れは最も顯著に反映せられてゐる。唯モスコイ市に於ける運輸を根底から改造することによつて始めて、運輸が技術的に完成され、住民の運輸上の要望が完全に満足せられ、交通時間を可及的に縮少し、以て凡ゆる便宜を乗客に與へることが可能である。

歐米大都市の体験に徴しても明らかである如く、地下鐵が發達し、更にバス及自動車著しく普及したからと謂つて、電車の存在理由が遽かに減少すると謂ふものではない。成程、電車は自動車及トロリーバスに都心部を譲つてはゐるが、最近十年間に地下鐵の建設に平行して、モスコイの市電網は單線四〇〇軒丈延長され、更に市の周圍には特に多くの近郊の部落と連絡する電車線が敷設される。電車の車輛數は最近三年間に二、六五〇迄に増加する豫定である。地下鐵の新線の開通、トロリーバス交通の發達に伴ひ、市電線路は市の中心部分に於けるサドワヤ環狀路其の他甚だしく狹隘、而も交通の輻輳する通から撤去されるであらう。

モスコイに於てはバス、就中トロリーバスによる交通を大いに發達せしめることを要する。バス路線は主として電車の通らない幹線道路及新地區の街路に、更に又郊外地との連絡に資する爲敷設される。バスの車庫は三年間に其の收容能力を一、五〇〇臺迄に、又トロリーバスの車庫は同じく一、〇〇〇臺迄に増加される。

自動車工場の生産力の増加、自動車製作費の低下及住民の生活の向上等諸原因は相合して家用自動車、タクシー、國營の貸貸自動車(運轉手のないタクシー)、事務所用自動車等各種自動車運輸の全般的普及を促進するであらう。タクシーの數は一九三九年頃迄には四六〇臺から二、五〇〇臺迄に増加する計畫である。

市域全般にガレージ網計畫が樹立される。自家用自動車爲、住宅地區にはホテルの様なガレージが建設される。自動車運輸の計畫的發達は街路交通の整然たる組織及郊外に流出する自動車交通を容易ならしめる爲、幅員大なる放射、環狀自動車道路の建設を要求する。

一 自動車の間斷なき交通にとつて主要な障碍の一をなしてゐる市の十字路に於ける交通を整理しなければならぬ。最も交通の頻繁な十字路、例へば、プリワール環狀路、サドワヤ環狀路との交叉點には其の地形に従つて短かい架橋或は地下道を設けて十字路に於ける交通を立體交叉たらしめる計畫である。

最近モスコに於て街路及廣場の舗裝、特に石疊舗裝をアスファルト及花崗岩の舗裝に代へる大事業が施行された。一九三四年の末期頃迄の舗裝總面積は九九六萬平方米に達したが、其の中完全に舗裝されたものは二六二萬平方米であつた。然しブルジョア商人的な市會の遺産は未だ清算し盡くされてゐない。七、三四八萬平方米に亘る面積は今日迄石疊舗裝の儘になつてゐる。而して殆んど五〇〇萬平方米の總面積を有する幾多の通路は全く舗裝されてゐない。最近の十年間を期して市の凡ゆる街路及廣場を舗裝する計畫であるが、就中、先づ第一に郊外の砂利道に通ずる主要な幹線道路、モスコ河及ヤウザ河の河岸通が整理され完全に舗裝される。

一一、給水問題

現在モスコに於ける給水の源をなすものはモスコ河とムイチンスキー水道の噴水である。而してモスコ河からはブリーフスキー水道及新設のチレブコフスキー給水場によつて水を供給される。

之等の水源は現在最大限度に利用されてゐる。然し乍ら一方モスコ市の水の消費量は増加しつつある。茲に於て黨中央

委員會六月總會（一九三一年）はモスコ・ヴォルガ運河の建設を決定した。此の運河こそ單に給水問題のみならず、モスコ河の設備及衛生的排水に關する問題を根本的に解決し、更にモスコ河からヴォルガの上流に向ふ最短水路を提供するものである。

又他方黨中央委員會六月總會はモスコ・ヴォルガ運河の開通に先立ちモスコへの給水に關する當面の對策として、モスコ河の支流イストラ河に堤防を速かに建設するの案を採擇した。此の堤防は曩に完成せられ、現在活動を開始してゐる。チレブコフスキー給水場の第一期工事は終了し、既に作業を開始し、一九三五年の初頭には一晝夜七萬五千立方メートル（六百萬ヴェドロ）を供給するに至り、次いで一九三五年の末期に至つては此の給水場の能力は十五萬立方メートル（一千二百萬ヴェドロ）迄に増加される。

ヴォルガの水を引き入れる最初の給水場（スターリンスキー給水場）の建設事業が施行される。

給水計畫に従へばモスコ市民一人當り水の平均消費量は一晝夜六〇〇立とされ、其の中二四五立は生活上の需要に使用される。十年間の終り頃迄には一人當り水の消費量は一晝夜四〇〇立となる。かくして人口五百萬とし、一人當り水の消費量一晝夜六〇〇立と假定すれば、モスコの水の需要は一晝夜に三百萬立方メートル（二億五千萬ヴェドロ）迄に増加しなければならぬ。

給水を充分ならしめる爲、次の水源地を利用する。

（一）モスコ・ヴォルガ運河系統中、第一期の水道建設後ウチンスキー貯水池から一億五千萬ヴェドロ、次いで第二期の水道から補充的に七千萬ヴェドロの水が得られる。加之、ヒムカークリヤヂマ運河は一晝夜五千三百萬ヴェドロの水を供給することを得る。かくしてヴォルガの水の總出量は給水場に於ける洩水を除外して、一晝夜二億二千八百萬ヴェドロとな

る。
（二）イストラ河に於ける堤防を考慮するとき、現在の運河組織の状態を以てしては、一晝夜七千萬ヴェドロの水の供給を仰ぎ得る。

（三）地下水一日の最大産出量は五百萬ヴェドロである。

かくして多くの水源地の給水能力を總計すれば、一晝夜三億三百万ヴェドロに達する。此のことはモスコイ市民一人當り規定標準の範囲の給水を充分保證することを可能ならしめる。モスコイに於て將來給水の必要に迫られた場合にはヴォルガの水の利用を一層強化し、モスコイ河の水量を増加せしめることを得る。かくの如くして更に一晝夜五千萬ヴェドロ程度の水を供給することを得るのである。

最近の十年間を期して市に對する給水は一晝夜一億八千萬ヴェドロ迄に増加する計畫である。

給水場建設地の選擇に當つては左の各種の條件に基礎付けられることを要する。

a 衛生上の見地からすれば給水場は市外に建設しなければならぬが、水道管の長くなるのを避くる意味に於て可及的に市に接近せしめる。

b 一晝夜の給水量の四〇%以上の容積を有する淨水貯水池は、假令壓力が低減されエネルギーの供給が停止する場合があつても水を自然の地形に従つて市に供給する爲、出來得る限り高所を豫定して建設するを可とする。

c 洗滌水は市よりも低い處でモスコイ河に流れ込む溝渠に排出しなければならない。かくの如き方法に依り給水場のポンプが停止した場合、運河からの水を供給しなければならぬ。モスコイ河の水量を増加せしめる爲に、運河の水量を増加せしめる市に對する個々の水源を利用する爲には左の給水場を建設し或は擴大すること。

ヴォルガの水を引き入れる最初の給水場（スターリンスキー給水場）はスターリンスキー區に給水する爲建設され、而してこれは水道附近に於ける市外の最も高い地點に存する。

ヴォルガの水を引き込む第二の給水場はウチンスキー貯水池から水道により、マクシンスキー貯水池からは自然流下によつて給水せられる。而して之はプロレタルスキー區の給水の爲めに豫定され、市の東南地區に於ける一四〇—一二五米の高度の地點に建設される。かくの如くして、水をマクシンスキー貯水池から自然に、或は水道により直接淨水場に送ることを得る。

ヴォルガの水を引き入れる第三の給水場（セーベルヌイ給水場）はドルゴブルードニンスキー貯水池附近のドミトロフスキー・シヨスの高地一八〇—一八五米の地點に計畫される。

約一八〇米の地點に存する貯水池からの水は導管により市の配水網に流される。而して流れの停止したる場合は壓力を低減し、自然流下により給水される。

其の他の幾多の給水場は（ヴォルガ及モスコイ河の水を引き入れる）各區の特質と建設状態に従つて配置される。南方の高臺をなしてゐる區（新しく市に編入される地域）の給水はヴォロビエフスキー貯水池に吸上ポンプを設置し、チヨイプイ・スタン附近の高地に（三五米）壓力貯水池を建設する方法によつて、ルブリーフスキー及プロレタルスキー給水場を通じて實現せられる。

市の周圍に數個の獨立した給水場が存在すると謂ふ事實及自然的地形は自ら市域を六つの獨立した給水地區に分ける。給水區域を定めることは、各地區の高度に應じて配水網に於ける適當な壓力をかなり平等に維持することを可能ならしめるものであり、又水を上げるエネルギーを節約することを得る。

更に又市の水道網を地區別に分割することは、他方に於て水道破損の場合、市への給水上極めて肝要である。何とならばかかる場合に於て不便を感じるものは一區に局限せられ、市全体が不便を蒙むことはないからである。多數の給水場から水を誘導する幹線は放射狀に敷設される。放射幹線水道は環狀幹線水道を相互に結び付ける。而して水は環狀幹線水路に沿ひ區から區へと流れて行く。

モスコイ水道の發達が計畫通りに實現するならば、住民、工業及市の各種施設に良質の水を完全に供給することを得る。最近十年間に給水場の能力を一晝夜一億八千萬ヴェドロ迄に増加する計畫であり、其の中三年間には五千萬ヴェドロのスタートリンスキー給水場及六百萬ヴェドロのチレブコフスキー給水場の第二期工事の建設を利用して一億六百萬ヴェドロ迄に増加する豫定である。

一二、下水問題

總計畫に依る下水改造の基準は次の如くである。

- (一) 左の下水組織を擴大して雨水、下水の放流を盛んにする。
 - a 新しい境界に於けるモスコイの地域から。
 - b 市の境界外に存在し、市外運河の方向に沿ひ、淨水場の存する地區内にある住居地帯及工場地帯から。
 - c 新しい市の境界外に存しても、市内の土地より高位の地點、或は市内に於て市の天然貯水池に注ぐ水路の流域に在る住居地帯及工業地帯から。
- (二) 下水の組織は大體現在の如き、即ち別々に放水する組織が其の儘踏襲されてゐる。下水と上水を同一共同溝に入れ

る案は採用されない。何とならば人口稠密な都分に於て之を行ふことは困難であるし、又現在の下水網の存する限り、之を經濟的に行ふことは至難である。

(三) 排水量は將來一人當り一晝夜三八〇立方米とされ、下水管への樋水の一晝夜の總受量は一億六千五百ヴェドロとされる。最近の十年間を期して一人當り排水量は二七〇立に、而して樋水の一晝夜の總受量は一億ヴェドロとすべく決定された。

(四) 樋水を淨水に還元する主要な手段として空氣濾清法が採用される。

(五) 淨水を還元された樋水を流す主要な場所は市外に在るモスコイ河の下流とされてゐる。莫斯科の地形其他土地の各種の狀況に基き、下水改造計畫は市域を西北から東南の線により二分する。左の半分は西南系統を形成し、右の半分は東北系統を形成する。西南系統の區域はモスコイ河の流域に存し、ヤウザ河の流域は東北系統の一部をなす。

西南系統

クリヤイノヴォ村に於ける空氣濾過場に給水する新しい西南運河は本系統の主要な幹線として計畫される。西南運河系統は次の建設からなる。

- 1 莫斯科イ河の左岸に沿ひてフイリーからポリシヨイ・ヴラーシスキー横町に至る上流の河川
- 2 ポリシヨイ・ヴラーシスキー横町附近に唧筒場を
- 3 イズボフスキー廣場迄の水道管
- 4 クロポトキン横町迄の運河

- 5 桶水をモスコイ河の右岸に移し、クルイムスキー橋の處でモスコイ河を横斷して、クロボトキンスキー通からカルーシンスキー廣場に通ずる地下管
 - 6 カルーシンスキー廣場からモスコイ河の左岸に於けるクリヤーノヴォ村迄の河川
 - 7 コロメンスキー村に於ける地下管
- 此の系統に屬する全區域は三つの主要な地區に分けられる。
- 1 現存の上流運河の流域
 - 2 ヤウザ河の流域
 - 3 東南地區

ループリノに於て自然に水を流す現在のの上流運河は排水能力完全なるを以て、全延長に亘つて利用される。此の運河に引かれる水の餘剰は、一部は移送の方法によつて中心部を迂回してヤウザ河流域の下水系統へ、一部は自然に下流運河系統へ流入して行くのである。

唧筒場に流れ込む水は二つの方法に従つて移送される。

- a リューベルツイに
 - b ノヴォリュープリンスキー運河に沿ひリュープリノに
- 東南排水區域の水は一部(はリヤザンスキー・シヨスよりも北方の地域から) ヴイヒンスキー空氣濾清場に、一部は(砂利道よりも南方)リュープリンスキー給水場に向ふ。

重要な淨水場(空氣濾清場)は八ヶ所の地點に配置され、中四ヶ所は西南系統に於て、他の四ヶ所は東北系統に建設される。

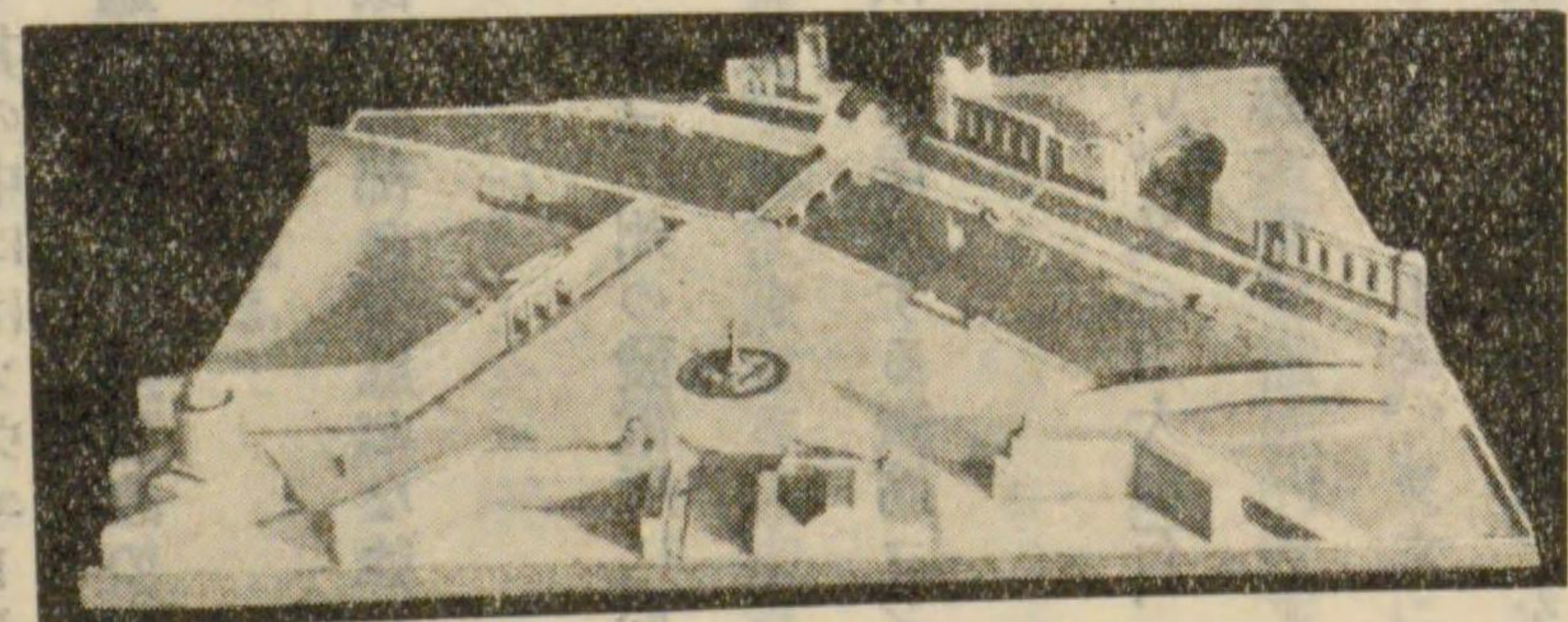
下水道改造事業に關する廣汎な計畫は一九三五—一九三九年の五ヶ年を期して作成された。これは新しいヴォルガ發電所よりの給水の増大に比例して出来る下水を考慮して幾多の空氣濾清場及第一義的、更に第二義的な運河建設の必要性に基いて計畫されたものに外ならない。

最近の十年間に一晝夜一億ヴェドロの下水を淨水場に於て還元すること。即ち其の能力を二倍以上に増加し、その中三年間に六千二百萬ヴェドロ迄に増加すること。此れが爲には淨水場及唧筒場の大建設を必要とする。

總延長一八〇軒に及ぶ現在の市下水網は傾斜の急峻なこと、街路舗装の特徴を考慮することなく、曾つての小河の岸邊に沿ひ幾つかの運河を建設したことに禍されて、一層複雑なものとなり畢つた。

完成された舗装廣場が増加し、市域が擴張されるに従ひ、汚水は愈々繁く下水道に流入するを以て、現在の下水道の範圍を擴大し、更に下水道を新設し、全市域に亘る下水網を敷設することが肝要である。

前之と共に排水能力の不十分な、設備の悪い現在の多くの下水を部分的に改造して行かなければならない。



案造改の場廣ヤカスフエキ

モスコイ改造十年計畫の大規模の建設は（幾千と謂ふ新住宅及幾百と謂ふ公共建築物………其の中にはソヴェート宮殿、工業の家の如き建築物をも含む。）現在大部分を占めてゐる非組織的な建築法、主要な建築過程の機械化及建設の工業的手段の發達上に根本的變革を齎すものである。之をスピードアップし、且つ建設労働者幹部を養成しなければならぬ。同時に一方に於て、一年間は間斷なく建設を續行し、之をスピードアップし、且つ建設労働者幹部を養成しなければならぬ。

之等の課題を實現する爲には新しい建設材料、特に熔鑛爐から獲た鋼滓、或ひはモスコイ市及モスコイ州の發電所に於て泥炭、石炭を燃焼する場合に獲られる灰によつて作られるコンクリートを廣く利用しなければならぬ。

銅鐵及鐵壓延板製造の將來に於ける大發達と關聯して、大建築建設のテンポの促進及最大の機械化を保證する鐵筋コンクリートの骨組の利用を擴大することを得る。

凡ゆる建築物の建築をより優秀たらしめると共に、人工の鋪裝材料の製造を盛んに行はねばならない。又一方大理石、花崗岩其の他の天然鋪裝材料の採掘並に加工を最大限度に機械化して、之を廣汎に展開せしめることを要する。

生産の發達に伴ひ、特殊な建築物の塗裝及裝飾の爲に硝子、陶器材料及アルミニウム等が盛んに用ひられる。

建築を正しく構成する爲には建築物の内部の仕上げに當り品質の優秀な部分品（把手、鍵、縦門、發電子其の他）を、又同じく工場に於ては便利且つ美麗な家具を大規模に製造しなければならぬ。

建築を機械化するには次のことが必要である。

- a 蒸氣掘鑿機及水力機械化を廣く應用して土工事を完全に機械化すること。
- b コンクリート製造の完全な機械化と相平行してコンクリートポンプに依つてコンクリートの供給を機械化し、又發振

器によりコンクリートの凝縮を機械化すること。

c 運搬装置及起重機を用ひて建築に際し水平及上下運搬を完全に機械化すること。

d 建築事業に際しては凡ゆる種類の機械化された器具を廣く利用すること。（空氣で動かすもの、特に電氣の力で動かすもの）

e 優良な裝飾物を保存するに付てはペンキ塗、漆喰塗り其の他の加工工事を機械化すること。

大ただ、事業の徹底的な技術的改造及工業化によつてのみ、建設の計畫された規模とテンポが始めて實現せられ、又之によつて始めて、労働者の數の減少、其の資格の向上、建設者の労働形式の變更、現下の甚だしく高價な建設費の徹底的低下を庶幾し得るのである。

一三、モスコイ市の主要街路幹線の説明

モスコイ市に於ける主要街路幹線を擴張し、直線に改造し、更に新しい街路幹線を敷設する場合左の如き重要な（指導的な）赤線を設けること。（註 赤線とは豫定線を謂ふ）

一、モスコイ河岸通

モスコイ河岸通は市の重要幹線と成り、此の河岸通に沿ふて現存の多くの通路を擴張する傍ら、更に新しい通路を敷設してその全長を貫通する幅員四〇―五〇米のアスファルト鋪裝道路を敷設すること。河岸通の個々の地區に沿ふて

左岸―カラムインエフスキー水門からトウリヨフゴールヌイ横町迄―鐵橋の下に幾多の貫通通路の在る空地を利用して五〇米の幅員を有する通路が新設される。

右岸—カラムインエフスキー水門の出口からドロゴミロフスカヤ通迄—鐵橋の下に多くの貫通通路の在る幅員五〇米の通路が新しく敷設される。而して其の多くの貫通通路の中にはオクルーヂヌイ鐵道からドロゴミロフスカヤ通迄の區間に於て起伏に富んだ河岸を考へて四〇米及一〇の二段層の通路が敷設される。

プレスニンスキー河岸通—トウリヨフゴルヌイ横町からポリシヨイ・ノヴィンスキー横町迄—四〇米の幅員を有する通路が新設され、其の後は五〇米迄に(クラスノプレスニンスキー特別火力發電所及其れへの通路を移動させた後)擴張される。

スモレンスキー河岸通—ポリシヨイ・ノヴィンスキー横町からスモレンスキー通迄—通路は全長に亘つて五〇米に擴張される。

ロストフスキー河岸通—スモレンスキー通から第一ヴラシンスキー横町迄—通路は一五—一八米のが五〇米に擴張される。

サヴィンスキー及ノヴォデイヴィチー河岸通—第一ヴラシンスキー横町からオクルーヂヌイ鐵道迄—通路は、石炭倉庫を取拂ひ、河床を改修し、スヴェルドロフ記念工場及以前のリーヴェルス工場の一部を利用して二—一五米から五〇米に擴大される。

ペレシコーフスキー河岸通—第二ペレシコーフスキー横町からオクルーヂヌイ鐵道迄—通路は利用價値の少ない建築物及空地を利用して一四—二二米から五〇米に擴張される。

ノヴォデイヴィチー、ヴォロビエーフスキー及ルーヂネツキー河岸通—オクルーヂヌイ鐵道の橋梁間—一五〇米の幅員を有する通路が新設される。

ネスクイチヌイ河岸通及ゴリキー記念公園の河岸通—四〇—五〇米の幅員を有する通路が新設される。

ハモブニチヌスキー河岸通—通路は利用價値の少ない建築物、空地及水上競技場を利用して一四—二六米のが五〇米に擴張される。

クロボトキン河岸通—通路は一四—二二米から五〇米に擴張され、ソヴェート宮殿の建築案と關聯して敷設される。

クルイムスキー河岸通—通路は一五米から五〇米に擴張され、ソヴェート宮殿の建築案と關聯して敷設される。

クレムリン河岸通—通路は新しいカーメンヌイ橋梁の建設に對應してヴォドズボードヌイ塔附近の河床を統制し、且ベクレミシエフスキー塔附近の階段を撤去して擴張される。

モスクワレツキー河岸通—通路はキタイ・ゴーロド城壁、ザリヤーデイ及勞働宮殿附近に於ける障壁を撤去して二〇米から五〇米に擴張される。

ベルセネーフスキー河岸通—通路はベルセネーフスキー河岸通に沿ふ地區を利用して一〇—二二米から四〇米に擴張される。

ソフィンスキー河岸通—通路は一四—二〇米から五〇米に擴張される。

ラウシンスキー河岸通—通路はモスコ國營發電所合同管理局を取拂つて五〇米迄擴張される。

コテリニチヌスキー及ゴンチャールヌイ河岸通—通路は二—一七米から五〇米に擴大される。

ブリチャーリヌイ、コミサリアツキー及ブーイシエフスキー河岸通—ウスチンスキー橋梁からクラスノホルムスキー橋梁に至る迄一八—二〇米から五〇米に擴大される。

ノヴォオパスキー河岸通—通路は二—三〇米から五〇米に擴張される。

クルーチツキー及シモノフスキー河岸通は一ニ米から擴大され、而してクルチツキー河岸通に沿ふ建築物、石油貯藏所

及シモーフススキー通路を利用して五〇米の幅員を有する通路が新設される。更にキーロフ記念工場の地区に於て通路は河

を統制し、工場地域の境界線を改造して二つのレベルに敷設される。

コヂブニチスキー河岸通——通路は四一八米から四〇米迄擴大される。

デエルベネーフスキー河岸通——「勤勞者」工場、第一更紗加工工場及「電解物」工場の河岸地帯を利用して幅員四〇米の通路が新設される。

バヴェリツキー及ダニロフスキー河岸通——通路は八二一〇米から四〇米に擴張される。

スターリン記念自動車工場附近の河岸通——幅員五〇米の通路が新設される。

ポウリスキー河岸通及カルポフ記念工場及ノーギン低地に沿ふ河岸通——全ソ聯邦倉庫運輸業合同の倉庫及カリーニン記念工場、フルンゼ記念工場、「新しい綿花」工場建築物の一部を利用して幅員四〇米の通路が新設される。

カヂウホーフスキー河岸通——空地を利用して幅員五〇米の通路が新設される。

排水渠の河岸通——通路は二五—三〇米に擴張される。

二、ヤウザ河岸通

ヤウザ河岸通は全長に亘り、現存の通路を擴張し、更に新しい通路を敷設して幅員二五—三〇米の貫通するアスファルト舗装通路が設けられる。

幅員二—二四米のポリシヨイ・ウステインスキー橋梁からヤウズスキー橋梁迄のウステインスキー河岸通は三〇米に擴張される。

一一—一八米の幅員を有するモスコフ河からヤウズスキー橋梁迄のボドゴールスキー河岸通は三〇米に擴張される。

一—三米から一九米迄の幅員を有してヤウズスキー橋梁とヴィソキー橋梁の間に存するセレブリヤニチスキー河岸通は三〇米に擴大される。

一〇米から一四米迄の幅員を有して、ヤウズスキー橋梁とヴィソキー橋梁間に存するベルニコーフスキー河岸通は三〇米に擴大される。

幅員〇から一八米迄の、ヴィソキー橋梁からクルスキー鐵道に至る迄のパーヤロスラフスキー及コストマローフスキー河岸通は利用價値の少ない建物を取拂ひ、又空地を利用して三〇米に擴張される。

ヴィソキー橋梁からクルスキー鐵道迄、幅員〇米から二〇米迄のニコラヤムスキー及アンドロネフスキー河岸通は空地及利用價値の少ない建物を利用して幅員一〇米のもう一つの通を設けて二〇米迄に擴張される。

ゾロトロンスキー河岸通は建築物を撤去された河岸地帯を利用して三〇米の幅員を有する通路が新設される。

スイロミヤツトニチスキー及ラズウモーフスキー河岸通は三〇米に擴張される。

サルトイコーフスキー河岸通は空地及利用價値の少ない地域を利用して三〇米の幅員を有する通路が新設される。

サモカートヌイ通からドヴォルツォーバイ橋梁に至るクラスノカザルメンヌイ河岸通——五米から二五米迄の幅員を有する通路は之を二つのレベルに設け三〇米に擴張される。

ドヴォルツォーバイ橋梁からゴスピタリーヌイ横町迄のリフォルトーフスキー河岸通は空地及建築物の少ない地區を利用して三〇米の幅員を有する通路が新設される。

ゴスピタリーヌイ橋梁からカザン鐵道に至る迄のルーブツォーフスキー河岸通は二〇米に擴張され、空地と利用價値の少ない建築物を利用して三〇米の幅員を有する通路が新設される。

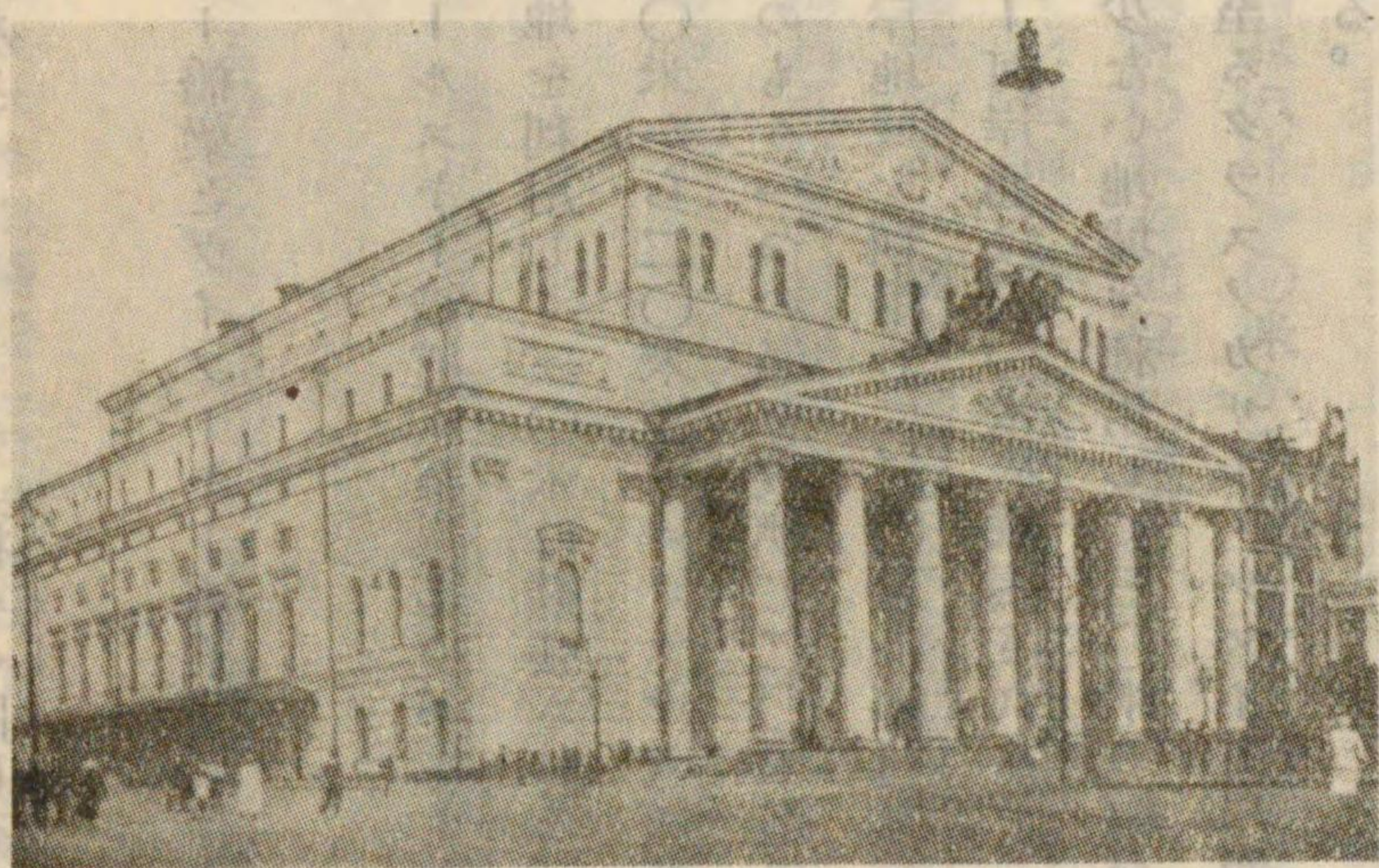
ゴスピタリーヌイ及セミヨノフスキー河岸通は空地を利用して三〇米の幅員を有する通路が新設される。
 プレオブラヂェンスキー河岸通——カザン鐵道からマトロフスキー橋梁迄は幅員二五米の通路（電氣工場地域との連接地に於て）、三ルーブツォーフスキー橋梁からシチルバークフ記念工場迄、更にプレオブラヂェンスキー通迄は幅員三〇米の通路が新しく敷設される。

ラゲルヌイ及マトロフスキー河岸通——三〇米の幅員を有する通路が新設され、而してルサコフスキー電車車庫に接する地域には二〇—二五米の幅員を有する通路が設けられる。

一一米の幅員を有してマトロフスキー橋梁からヴオゴロツキー障壁に至るパチーシヌイ河岸通は三〇米に擴大される。

八米から一八米迄の幅員を有して、マトロフスキー橋梁とオレニナイ障壁の間に存するドヴォルツォーブイ河岸通は利用價值の少ない建築物及空地を利用して三〇米に擴張される。

ヴオゴロツキー障壁からボガトイルスキー橋梁迄の河岸通——河の兩側に幅員三〇米の通路が



新設され、更に「赤い騎士」工場の地域の附近には空地と建築物の少ない地域とを利用して二〇—二五米の幅員を有する通路が敷設される。
 ボガトイルスキー橋梁からセーベルヌイ鐵道に至る河岸通——兩側に沿ふて幅員三〇米の通路が新設される。
 セーベルヌイ鐵道からヤロスラフスキー・シヨス迄に至る河岸通——左側及右側に沿ふて幅員三〇米の通路が新設される。

三、直徑、レーニングラツキー・シヨス——ユージヌイ・ポルト（南港）

次の多くの通や通路を結合し、直線に改造し、擴張し、而して新しい通を敷設して、即ちゴリキト通を擴張し、ソヴェエト廣場から中央半環狀路に至る通路を敷設し、プシーチナヤ通を擴張し、ノーギン廣場からヤウズスキー門に向ふソリヤンカ通を直線に改造し、而してスターリン記念工場及ユージヌイ・ポルト（南港）に向ふ新しい通を敷設した、更に又、インテルナツィオナリーヌイ、ラヂンチエフスキー、ポリシイ・カメンシチキ、クルーチツキー及シモノフスキー障壁の通、ヴェロゾボツキー通等の現存の通や横町を利用して、西北から東南に向つて市を横斷する貫通の幹線道路が敷設され、而して此の幹線の各區間に次の如き重要な（指導的な）赤線を敷設する。

a レーニングラツキー・シヨス——ゴリキト通——ヂエルデンスキー廣場。
 六〇—一一八米の幅員を有するレーニングラツキー・シヨスは、ヒムカからヴオロコラムスキー・シヨスに至る迄は、一〇〇米に、更に白ロシヤ驛の廣場迄は新建築住宅に沿ふ兩側を利用して一二八米に擴張される。

白ロシヤ驛の廣場からサドワヤ環狀路迄はゴリキト通の現在の幅員三六米の儘とされる。（車道——二六米及歩道——各側から五米づつ）

トリウムファリナヤ廣場は擴大される。

サドワヤ環狀路からプーシキン廣場迄のゴリキト通は奇數の側を利用して一九米から四〇米迄に擴張される。（車道三〇米、歩道——各側から五米づつ）

プーシキン廣場は以前のストラストヌイ寺院を利用して擴張される。

一八一—一九米の幅員を有するプーシキン廣場からアホートヌイ・リヤード迄のゴリキト通は四〇米に擴張される。（車道

一三〇米、歩道—各側から五米毎に、即ち藝術劇場の通路からアホートヌイ・リヤード迄は—偶数の側を利用して、ブ
ーシキン廣場からアガリヨーフ通迄は奇数の側を利用して擴張される。

モスコウの東南方に貫通する道路を敷設する爲に、ソヴェート廣場から中央半環狀路への幅員三五米の通路及更にヂエル
ヂンスキー廣場へ出る通路はブシーチナヤ通を直線に直し、更に擴張して三五—四〇米迄の幅員を保つて整然と敷設され
る。

b ソリヤンカ—インテルナツイオナリーナヤ—ラヂシチエフスカヤ—ポリシヨイ・カーメンシチキ—クルーチ
ツキー障壁—シモノフスキー障壁—ヴエロザヴオツカヤ—スターリン記念自動車工場—ユージヌイ・ポルト(南
港)

ソリヤンカ—ノーギン廣場からセレブリヤニチスキー河岸通迄—ヤウザ河を跨ぐアスタホーフスキー橋梁へ向つて
直通の出口を有する建築物の少ない地區を通じて新しく敷設され、更に六〇米迄に擴張される。

二〇米の幅員を有するインテルナツイオナリーナヤ通は六〇米に擴大し、直線に沿ふてヴォルダルスキー通へ向ふ。
タガンスカヤ廣場は擴張される。

幅員一七米のニーヂニヤヤ・タガンスカヤ廣場からノヴォオスバスキー横町迄のポリシイ・カメンシチキは偶数の側を利用
して六〇米迄に擴張される。

ノヴォオスバスキー横町から第一クルチツキー横町迄は六〇米の幅員を有する住宅地區を経て通路が敷設される。
幅員二二米のクルチツキー障壁通は二七番の^{ウチヤイストク}地區から奇数の側を利用して五〇米に擴大される。

ノヴォドブロフスカヤ通からカガノヴィツチ記念「ベヤーリング」工場へ向つて五〇米の幅員を有する通路が新設され

る。

幅員二二米のシモノフスキー障壁通はシモノフスキー及リーヂンスキー鐵道支線を撤去し、奇数の側を利用して五〇
米に擴張される。

ヴエロザボツカヤ通は—ワストーチナヤ通から新廣場及オクルーヂナヤ通路迄—五〇米に擴張される。

ヴエロザボドスキー通から聯邦倉庫運輸業合同倉庫、リーヂンスキー鐵道支線を越え、更にチュヘリフ遊歩道に沿ふてス
ターリン記念自動車工場に向つて幅員六〇米の通路が新設される。

オクルーヂヌイ鐵道から幹線は二つの方向に向ふ。即ち(1)カヂウーホヴォオ及モスコウ河を越えてノガテイノ—コロメ
ンスコエに向ひ(2)南^{ユシナイ}港^{ポルト}に向つて。

幹線に接するタガンスカヤ及マルクシツカヤ通は二—二二米から五〇米迄に擴大される。

四、直徑、オスタンキノ—セルブウホーフスキー・シヨス

マリイナ・ローシチヤ、ロヂストヴエンカ、キタイ・ゴーロド、バルチウク、ポリシヤヤ及マラーヤ・オルデンカ、リユー
シノーフスカヤ、ゼムリヤナヤ、ポリシヤヤ・トウリスカヤを越えてオスタンキンスキー公園からセルブウホーフスキー・シ
ヨスに向ふ幾多の通を結合し、直線に改造し、擴大し、更に幾多の新しい通を敷設して、北方から南方に於いて市を横斷す
る貫通幹線が敷設される。此の幹線は個々の部分に於いて左の重要な赤線を有する。

北方から、即ちオスタンキンから、マリイナ・ローシチヤを通るオクチャブリスキー鐵道に架かる三二米の幅員を有する
高架橋を具備せる幅員七五米の綠地化された廣い通が敷設される。

ロヂストヴエンカ通は偶数の側を利用して劇場通路迄五〇米に擴張される。

モスコイ河と排水渠の間に存するバルチウウク通は新しいモスクワレツキー橋梁の棧橋の建設の爲に擴張される。運河からブリワール環狀路との交叉點に至るポリシヤヤ・オルデンカは偶數の側を利用して一九米から三二米に擴大される。

ポリシヤヤ・オルデンカに平行して、此の地區にはマーラヤ・オルデンカの新しい道路が敷設される。

ポリシヤヤ・オルデンカ、マーラヤ・オルデンカ及ブリワール環狀路の交叉點に廣場が設けられる。

ブリワール環狀路との交叉點からドブリニンスカヤ廣場迄、マーラヤ及ポリシヤヤ・オルデンカは中間街區を撤去して一〇〇米の幅員を有する一つの幹線道路に統一せられる。

二六米の幅員を有するリュシノフスカヤ通及二七米の幅員を有するゼムリヤナヤ通は六五米に擴張される。

幅員四三米のポリシヤヤ・トウリスカヤ通は直線に改造され、六五米に擴張される。

四二・七〇米の幅員を有して、リヤザン・ウラル鐵道の高架橋からコロメンスコエ驛に至る迄のセルプウーフスキー・シヨスは直線に改造され、且七五米に擴張される。

五、直徑、ノヴィ・プロスベクト(新大通)——キエフ通——イズマイロヴオ

ヂエルデンスキー廣場からマニョーヂの建築物迄既に建設されてゐる新しい中央大通は尙ソヴェート宮殿、ルーヂニークの方に向つて敷設され、更に棧橋によつてレニンスキー丘に於けるモスコイ河を越えて新しい西南地區に敷設される。而して之はマホーヴオヤ——ヴオルホンカ及マニョーヂナヤ通、クレムリン河岸通の間に在る中間街區の建物を撤去し、オストデエンカ通を擴張し、ルーヂニークに向ふ新しい通路を敷設して實現される。新大通とキエフ通、クラスノブルドナヤ通、ルサコフスカヤ通、ストロムインカ通、ブレオブラデンスカヤ通、チエルキゾーフスカヤ通を結合し、擴大して、

レニンスキー丘の西南からイズマイロヴオに向ふ東北に於て市を横斷する貫通の幹線が敷設される。而して此の幹線はヂエルデンスキー廣場からイズマイロヴオ迄の幹線に於て次の如き重要な赤線を有する。

一八米の幅員を有して、第二〇番家屋からブリワール環狀路迄のキエフ通は大建築物の第一階の所に歩道を敷設して二六米迄に擴張される。(車道——一八米、歩道——各側から四米づつ)

トウルゲーネフ廣場は擴張される。

キエフ門からサドワヤ・スバスカヤ通迄のキエフ通は左側を利用して一八一・二〇米から二六米迄に(車道——一八米、歩道——各側四米づつ)擴張される。

三八米の幅員を有して、コムソモリスカヤ廣場からストロムインカに至るクラスノブルドナヤ及ルサコフスカヤ通はガブリコヴオヤ通迄の左側を利用し、且、ソコリニーチスカヤ通からストロムインカ迄は右側を利用して五二米迄に擴大される。更にムイチコフスキー高架橋は改造されて、其の幅員は四〇米に擴大される。

二六米の幅員を有して、ルサコフスカヤ通からヤウザ河迄のストロムインカ通はストロムインカ廣場、オストロウモーフスキー病院に沿ふて建築物のない地域、及左側に沿ふ地區と第一ポエフスカヤ通からマトロススキー橋梁迄の通の兩側に沿ふ地區を利用して五二米に擴張される。

マトロススキー橋梁からポリシヤヤ・チルキゾーフスカヤ通迄のブレオブラデンスカヤ通及ブレオブラデンスカヤ廣場は地形と現存の大建築物を斟酌して兩側を利用し、擴大される。

四五米の幅員を有するポリシヤヤ・チエルキゾーフスカヤ通は、ブレオブラデンスカヤ廣場からチルキゾーフスキー池迄は右側の利用價值の少ない建築物を、更にチルキゾーフスキー池からオクルーヂヌイ鐵道迄は左側の利用價值の少ない建築

物及空地を利用して八〇米に擴大される。

六、幹線**コミンテルン通**—**アルバート**—**スモレンスカヤ通**—**ポリシヤヤ・ドロゴミロフスカヤ通**—**モヂヤイスキ**

イ・シヨス 大連路の幹線として、アルバート通、ポリシヤヤ・ドロゴミロフスカヤ通及モヂヤイスキ・シヨスは之を直線に改造し、擴大して左の重要な赤線を有する單一幹線に統一される。

一三・九米の幅員を有するコミンテルン通は左の奇数の側を利用して四〇米に（車道一三〇米、歩道各側から五米づつ）擴大される。

二二米の幅員を有するアルバート通は三二米に擴大される。（車道一三四米、歩道四米づつ）

交通の輻輳と貴重な建築物が存する爲、街路の擴張は著しく困難なる故、ポリシヤヤ・モルチャノーフカ、サバーチー・クレチトニコーフスキー及ノヴィンスキー横町を経てアルバート廣場からモスコイ河迄、更にモスコイ河からドロゴミロフスカヤ廣場に至る迄新しい幹線が敷設される。而してアルバート廣場からノヴィンスキー遊歩道迄は幅員四五米に、ノヴィンスキー遊歩道からモスコイ河迄は幅員八〇米に、モスコイ河からドロゴミロフスカヤ廣場迄は幅員五〇米に規定される。モスコイ河とノヴィイ・アルバートの交叉點に廣場が新設される。

スモレンスカヤ通は一〇五米迄に擴張され、土地の起伏を利用して坂道に綠地を設ける。

キエフスキー驛の廣場は驛とポリシヤヤ・ドロゴミロフスカヤ通との間に存する中間街區の建物を取拂つて擴張される。

二九・三二米の幅員を有するポリシヤヤ・ドロゴミロフスカヤ通は奇数の側を利用して七〇米に擴大される。

ドロゴミロフスキー關所の廣場は擴大される。

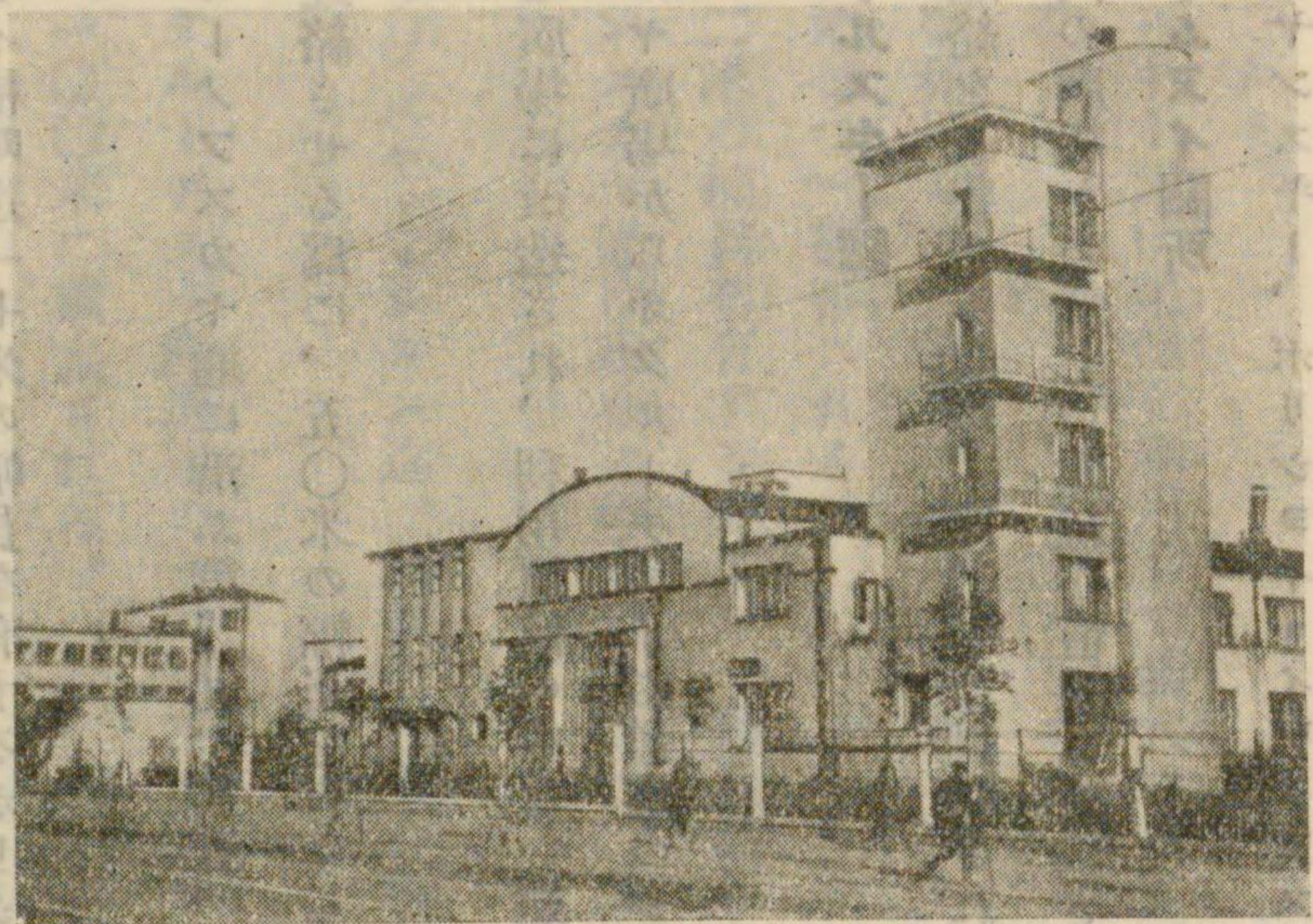
モヂヤイスキ・シヨスは兩側を利用して七〇—一〇〇米に擴大される。

七、幹線、**マロセーカ**—**ポクロフカ**—**マルクソフ通**—**スパルタコーフスカヤ**—**バクレーニンスカヤ**—**ポリシヤヤ・セミヨーフスカヤ**—**シチエルバコーフスカヤ通**—**マロセーカ**—**ポクロフカ**—**マルクソフ通**—**スパルタコーフスカヤ**—**バクレーニンスカヤ**、**ポリシヤヤ・セミヨーフスカヤ**及**シチエルバコーフスカヤ通**は直線に改造され、擴張され、更に次の重要な赤線を有する單一幹線に統一される。

一四—二二米の幅員を有するポクロフスキー門迄のマロセーカ及ポクロフカ通は直線に改造され、兩側を利用して五〇米に擴張される。

ポクロフスキー門の附近には新しい廣

ルタコーフスカヤ通は四七米に擴大される。パウマンスカヤ廣場は擴張される。



カールスヤカ通に於けるカリアイミデカア會館

一八—二〇米の幅員を有するポクロフスキー門からゼムリヤヤイ障壁迄のポクロフカは、兩側を利用して直線に改造され、四〇米に擴張される。

ゼムリヤヤイ障壁の廣場は擴大される。

一六—二五米の幅員を有するゼムリヤヤイ障壁からラスグーリヤ迄のマルクソフ通は兩側を利用して四二米に擴張される。

二〇—二七米の幅員を有するスパ

幅員二〇―三〇米のバクーニンスカヤ通は兩側を利用して四七米に擴張される。

ルーブツォーフスキー橋梁の處に新しい廣場が設けられる。

ルーブツォーフスキー橋梁からメドヴィ横町迄一七米の幅員を有するポリシヤヤ・セミヨノフスカヤ通は兩側を利用して五〇米に擴大される。

メドヴィ横町からポリシヤヤ・セミヨノフスカヤ通に沿ふ第二九、三五、三七、三四、三九、四一、四三、四五番の地區を経てシチエルバコーフスカヤ通と連絡させる爲に、五〇米の幅員を有するセミヨノフスカヤ通の一支線が設けられる。

セミヨノフスカヤ廣場は地區の重要な廣場に改造され、利用價値の少ない建築物を取拂つて擴張される。

二五米の幅員を有してセミヨノフスカヤ廣場からオクルーヂヌイ鐵道迄のシチエルバコーフスカヤ通は兩側を利用して六〇米に擴張される。

八、新幹線、ボクロフスキー門、クールスキー驛

市の中央部とクールスキー驛の廣場の連絡を改善する爲に、四〇米に擴張されたバラシエフスキー横町及ポリシヨイ・カヂョンヌイ横町を越えてボクロフスキー門の廣場から新しい幹線が直線に敷設される。

九、新幹線、ノーギン廣場、プロロームヌイ關所

市の東部との連絡を改善する爲に、ソリヤンスキー、ポリシヨイ・イワノフスキー、ホフロフスキー、ポリシヨイ及マリイ・ヴゾーフスキー、ヴェルフニスイロミヤツトニースカヤ通、其他幾多現存の横町及通路を利用し、擴張してノーギン廣場からプロロームヌイ關所迄幅員四〇米の新しい幹線が敷設される。

一〇、幹線、ヂエルデンスキー通、スレチンカ、第一メシチャンスカヤ、ヤロスラフスキー・シヨス

ヂエルデンスキー通、スレチンカ通、第一メシチャンスカヤ及ヤロスラフスキー・シヨスは其等を直線に改造し、擴張して次の重要な赤線を有する單一幹線に統一される。

一八―二二米の幅員を有するヂエルデンスキー通は兩側を利用して擴大される。スレチンスキー門の處に廣場が設けられる。

一九米の幅員を有するスレチンカは左側を利用して、更にダーエヴ横町の所からは兩側を利用して直線に改造され、四二米迄に（車道―三二米、歩道―各側から五米づつ）擴張される。

第一メシチャンスカヤは―三二米―四二米の幅員を有するサドワヤ環狀路から―ベズボーヂヌイ横町迄右側を利用して四二米迄に擴大され、更に第一メシチャンスカヤ通は現在の幅員通りとし、ルヂエフスキー驛の廣場に接する處で直線に改造される。

カメル・コリシンスキー障壁からヤロスラフスキー・シヨス迄、幅員三二米を有してクールスク・オクチャブリススキー鐵道を越える新しい高架橋が直線に敷設される。

幅員二五―三〇米の新しい高架橋からオクルーヂヌイ鐵道迄のヤロスラフスキー・シヨスは兩側の利用價値の少ない建築物と空地を利用して直線に改造され、且つ一〇〇米に擴大される。

十一、幹線、ポリシヤヤ・ドミトロフカ―ノーヴァヤ・ドミトロフカ―マラーヤ・ドミトロフカ―カリヤーエフスカヤ通―ノヴォスロポツカヤ通―ヴトイルスカヤ通―ドミトロフスキー・シヨス

ポリシヤヤ・ドミトロフカ、マラーヤ・ドミトロフカ、カリヤーエフスカヤ、ノヴォスロポツカヤ、ヴトイルスカヤ通及ド

ミトロフスキー・シヨスは之を直線に改造し、同時に擴張して、次の重要赤線を有する単一幹線に統一される。一八米の幅員を有する(車道一四米)ポリシヤヤ・ドミトロフカは街路の兩側に於ける建築物の第一階に歩道を設けた所では車道は一八米に擴大される。

ノイヴァヤ・ドミトロフカ通は三二米の幅員を有して、ポリシヤヤ・ドミトロフカの方向に向ひ、プチンコフスキー横町の第九番の地區からウスベンスキー横町の第二番の地區迄の市内街區の建築物を利用して敷設される。

プチンコフスキー通路からデクチャールヌイ横町迄のマーラヤ・ドミドロフカは現状の儘とされ、デクチャールヌイ横町からサドワヤ環状路迄のマーラヤ・ドミトロフカ(幅員二二米)は偶數の側を利用して四五米迄に擴張される。

二〇一三〇米の幅員を有するカリヤーエフスカヤ通は街路の兩側を利用して六四米迄に擴張される。

一九一六四米の幅員を有するノヴォオソロボツカヤ通は街路の兩側を利用して六四米に擴大される。

ヴトイルスカヤ通は街路の兩側を利用して三六一六四米から六四米に擴大される。

一八一二〇米の幅員を有する白ロシヤバルツク鐵道から、オクチャプリスキー鐵道の交叉點に至る迄のドミトロフスキー・シヨスは空地を利用して直線に改造され、六四米に擴張される。

一二、幹線、クロボトキン通——ポリシヤヤ・ピローゴフスカヤ通

クロボトキン通、ズボーフスカヤ通及ポリシヤヤ・ピローゴフスカヤ通は之を直線に改造し、擴張して左の重要な赤線を有する單一幹線に統される。

二〇米の幅員を有するクロボトキン通は偶數の側を利用して四〇米に(車道一三〇米、歩道一各側五米づつ)擴大される。

二七米の幅員を有するズボーフスカヤ通は偶數の側を利用して四〇米に(車道一三〇米、歩道一各側五米づつ)擴張される。

二二米の幅員を有するポリシヤヤ・ピローゴフスカヤ通は偶數の側に沿ふ建築物の撤去された地域を利用して四〇米に(車道一三〇米、歩道一五米づつ)擴大される。

(ポリシヤヤ・ピローゴフスカヤ通の終端に於ける歴史的博物館分館の處に(以前のノヴォデイヴィチー寺院の所)ルーヂニークとモスコト河岸とを通路によつて連絡する廣場が築造される。

一三、ポリヤンカ通

マールイ・カーメンヌイ橋梁からブリワール環状路に至る一八一二〇米の幅員のポリシヤヤ・ポリヤンカは街路の兩側を利用して五〇米に擴張される。

ポリシヤヤ・ポリヤンカとブリワール環状路及ポリシヤヤ・ヤキマンカとの交叉點に廣場が設けられる。

「A」環状路から第一カザーチー横町迄のポリシヤヤ・ポリヤンカは延長され、街路の兩側を利用して四〇米に擴大される。

第一カザーチー横町からドブルーイニンスカヤ廣場迄の通は街路の奇數の側を利用して四〇米の幅員を有する新しい直線となる。

一四、幹線、ポリシヤヤ・ヤキマンカ——ポリシヤヤ・カールシスカヤ通——カールシスキー・シヨス

幹線は三本の通——ポリシヤヤ・ヤキマンカ、ポリシヤヤ・カールシスカヤ及カールシスキー・シヨス——から成る。

一八一二〇米の幅員を有してブリワール環状路からオクチャプリスカヤ廣場に至るポリシヤヤ・ヤキマンカは偶數の側を

利用して四〇米迄に擴張され、而して第一一、一三、一五番の地區を利用して、ブリワール環狀路の廣場へ出る直線の出口が設けられる。

ポリシヤヤ・ヤキマンカの舊い通は——ヤキマンカ河岸通から第一一—一六番の地區迄——閉塞される。

二二—四八米の幅員を有するポリシヤヤ・カルーシスカヤ通は直線に改造され、兩側を利用して五〇米に擴張される。

ポリシヤヤ・カルーシスカヤ通とノールヴィイ・ブリワール環狀路との交叉點に廣場が設けられる。

カルーシスキー關所の廣場は擴大される。

カルーシスキー・シヨスは、オクルーヂヌイ鐵道から幅員七〇米を有するポリシヤヤ・カルーシスカヤ通の延長を成し——直線を成して敷設される。

一五、幹線、ゲルツイン通——クラスナヤ・プレスニヤ——ズヴェニゴロツキー・シヨス

ゲルツイン、マールヤ・ニキツカヤ、クラスナヤ・プレスニヤ通及ズヴェニゴロツキー・シヨスは之を直線に改造し、且擴

大して次の重要な赤線を有する單一幹線に統一される。

マホトワヤ通からマールヤ・ニキツカヤ通に至る幅員一三—二三米のゲルツイン通は街路の兩側を利用して四〇米に

(車道—三〇米、歩道—各側から五米づつ)擴張される。

ニキツカヤ廣場は擴張される。

ニキツカヤ門からワスターニ廣場迄のゲルツイン通は、奇數の側を利用して四〇米迄擴張されるマールヤ・ニキツカヤ通

に沿ふて延長される。

ワスターニの廣場は擴張される、

一 改造されるマールヤ・ニキツカヤ通は、サドワヤ・クドリンスカヤ通に沿ふ 第三番の地區及バリケードナヤ通に沿ふ 第四、六、一五、一七、一九、二二番の地區を利用して幅員三五米の (車道—二七米、歩道—各側から四米づつ) クラスナヤ・プレスニヤ通と結合する。

二 二—三二米の幅員を有するクラスナヤ・プレスニヤ通は四〇米迄に擴大される。(車道—三〇米、歩道—五米づつ) クラスナヤ・プレスニヤ通——ズヴェニゴロツキー・シヨスとプレスニンスキー障壁の交叉點にクラスノプレスニンスキー關所の廣場が設けられる。

三 五五米の幅員を有してクラスノプレスニンスキー關所の廣場から白ロシヤ・バルチツク鐵道に至るズヴェニゴロツキー・シヨスはワガニコーフスキー墓地及利用價値の少ない建築物の存する地區を利用して六四米に擴張され、更にハローシエフスキー・シヨスと連接させる爲に敷設される。

一六、幹線、ノヴオクズネツカヤ通——ドウビニンスカヤ通

クリメントーフスキー横町からザツエプスキー障壁迄の幅員一九米のノヴオクズネツカヤ通は四〇米に擴張される。

一六・五米の幅員を有するドウビニンスカヤ通は四〇米に擴張される。

一七、幹線、ウリヤーノフスカヤ通——トウリンスカヤ——エントウジアーストフ・シヨス

ウリヤーノフスカヤ通、トウリンスカヤ通及エントウジアーストフ・シヨスは之を直線に改造し、擴大して、左の重要な赤線を有する單一幹線に統一される。

一九米の幅員を有して、アスタホーフスキー橋梁からトボヴオリチスキー通に至るウリヤーノフスカヤ通は偶數の側を利用して五〇米に擴大される。

ブリヤミコフ廣場は擴張される。
第八番の地區からイリイツチ關所迄、二〇―二七米の幅員を有するトウリンスカヤ通は偶數の側を利用して直線に改造され、且五〇米に擴張される。

イリイツチ關所からクルスキー鐵道附近のアントウジアーストフ・シヨスへの出口に至る幅員五五米のアントウジアーストフ遊歩道は兩側を利用して直線に改造され、且六五米に擴張される。

三四―五六米の幅員を有して、モスコイ・クルスキー鐵道の高架橋からオクルーヂヌイ鐵道に至るアントウジアーストフ・シヨスは兩側の利用價値の少ない建築物を取拂つて六四米に擴張され、而してモスコイ・クルスキー及オクルーヂヌイ鐵道の下の高架橋は改造される。更に同じく「槌と鎌」の工場、モスコイ・カザン鐵道の乗客用支線及モスコイ・カザン鐵道の貨物用支線の上に架かる橋梁も改造される。

一八、幹線、ネグリンナヤ通―サマチーチナヤ通―ラザレーフスキー横町―シエレメテフスカヤ通

ネグリンナヤ通、サマチーチナヤ通、ラザレーフスキー横町及シエレメテフスカヤ通は之を直線に改造し、擴張して次の如き重要赤線を有する單一幹線に統一される。

ネグリンナヤ通は之を直線に改造して二六米の現在の規格の儘としておく。一號の支線は之を直線に改造して、擴張して二五米の幅員を有するサマチーチナヤ通は、サマチーチナヤ廣場からコムミューン廣場に至る迄三五米に擴張される。

コムミューン廣場は、此處に存する赤軍の家及現在建設中の赤軍の劇場を斟酌して改造される。

コムミューン廣場から第二ラザレーフスキー横町とシエレメテフスカヤ通を結合する爲、オスタンキン通の側へ幅員四二米の新しい幹線が空地に沿ふて敷設される。

一五米の幅員を有する第二ラザレーフスキー横町はラザレーフスキー墓地及利用價値の少ない建築物を利用して四二米に擴張される。

三二米の幅員を有するシエレメテフスカヤ通は、クルルスク・オクチャブリスキー鐵道迄全長に亘る區域の右側を利用して四二米に擴張される。

一九、環狀幹線路

a 中央半環狀路(クズネツキー)

輻輳する都心の交通を緩和する爲に左の幾多の通や横町を擴大し、直線に改造し、結合することによつてソリヤンカ通からクロボトキンスキー門に至る迄三五米の幅員を有する中央迂回半環狀路が設けられる。

一一―一八米の幅員を以てソリヤンカ通からマロセーカ通に至るスパソグリニシチエフスキー横町は奇數の側の全長及第二、四、一二番の地區を利用して直線に而も三五米に擴張される。運輸状態を正常にする爲に現在の坂道は一層平滑にされる。

マロセーカ通からキーロフ通迄の幅員一二―一六米のポリシヨイ・コムソモリスキー横町は奇數の側及偶數の側の第二、八、四番の地區を利用して三五米迄に擴大される。

フルカソフスキー横町は三五米に擴張される。

ヂエルデンスキー通からネグリンナヤ通に至る一七―二二米の幅員のクズネツキー・モストは兩側を利用して三五米に擴大される。現在の勾配は緩和される。

一一―一八米の幅員を有するペトロフカからゴリキー通に至る迄のクズネツキー・モスト及藝術劇場の通路は三五米に擴

張される。クズネツキー・モスト及ポリシヨイ劇場の間の地區は廣場を設ける爲に建物の建築を禁止される。ゴリキー通からゲルツイン通に至る幅員一一・二二米のアガリヨフ通は三五米に擴張される。

ゲルツイン通からポリシヨイ・ズナメンスキー横町に於ける第九番の地區に至る幅員九・一三米のポリシヨイ・キスロフスキー、クレートヴオズトビヂェンスキー、ポリシヨイ・ズナメンスキー横町は全長に亘る奇數の側と第二番から第六番家屋迄のポリシヨイ・ズナメンスキー横町に於ける偶數の側を利用して三五米に擴張される。ポリシヨイ・ズナメンスキー横町からゴリ遊歩道の内部の通路とポリシヨイ・ズナメンスキー横町の間の街區を経てクロボトキンスカヤ通と連絡させる爲に三五米の幅員を有する通路が敷設される。

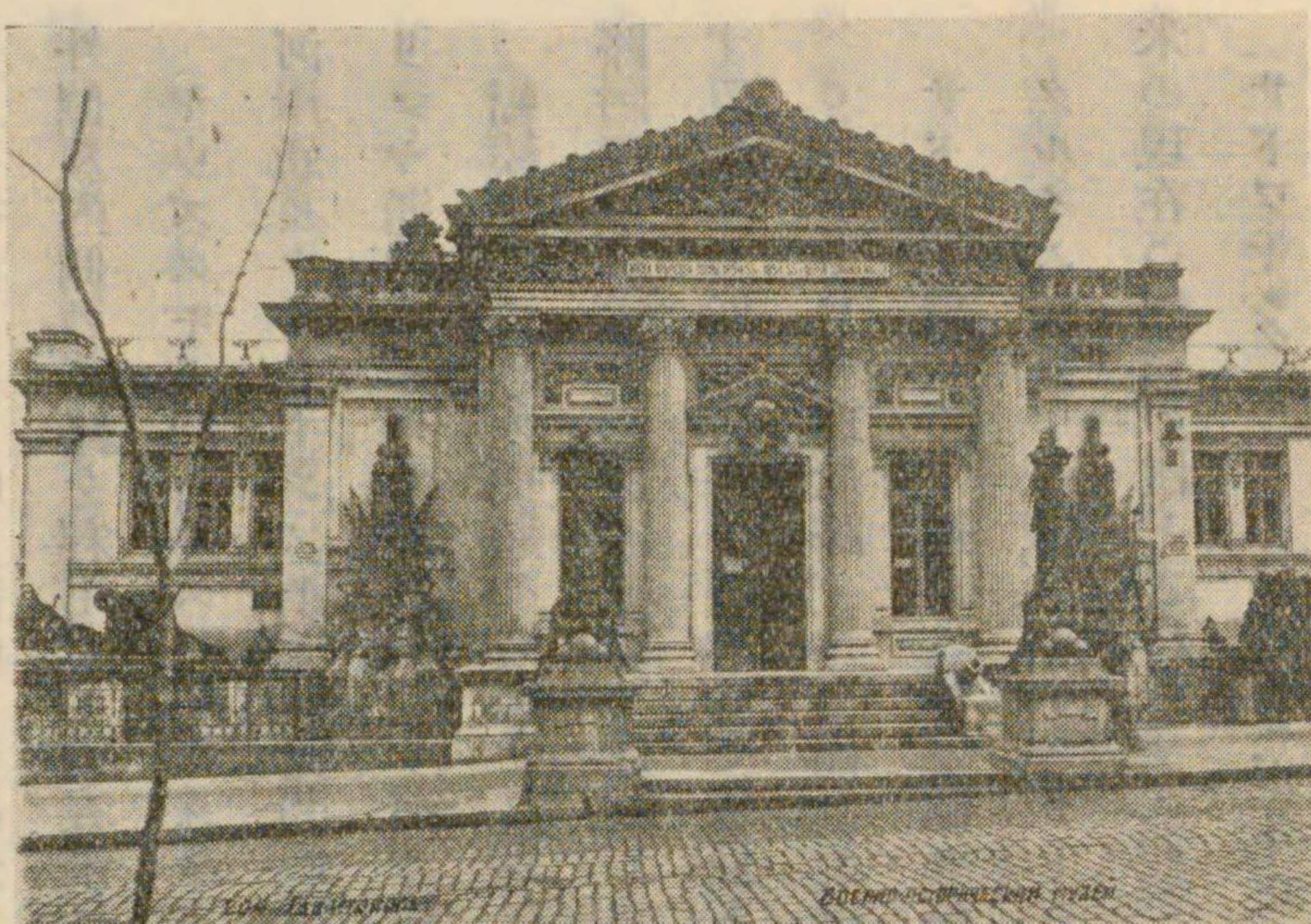
b プリワール環狀路

ソヴェート宮殿附近に新設中の橋梁に沿ふてプリワール環狀路はザモスクワレーチエ迄延長され、其の幾多の通路は擴張され、個々の地區に於て通路を狹隘にしてゐる建築物は一掃される。

クロボトキンスカヤ廣場からアルバート廣場迄の幅員六二・六四米のゴリ遊歩道は偶數の側を利用して七〇米に擴張される。(外側通路の車道一一・二米、歩道一三米、内側通路の車道一一・六米、歩道一四米)

六〇・六二米の幅員を有してアルバート廣場からニキツキー門の廣場に至るニキツキー遊歩道は、第七番及第九番の地區に於ける外側通路を直線に改造し、幅員は現状の儘とされる。遊歩道の兩端に存する家屋は、通路及廣場を擴張する爲に撤去される。

六〇・一八〇米の幅員を有して、ニキツキー門の廣場からプーシキン廣場に至るトヴェルスコイ遊歩道は現状の儘とされる。第二五番の地區から廣場迄は外側通路に沿ふ奇數の側を利用して八〇米に擴張される。



軍歴史博物館

四〇・一一三米の幅員を以てプーシキン廣場からペトロフスキー門の廣場に至るストラストヌイ遊歩道は現状の儘とされる。プーシキン廣場とポリシヤヤ・ドミトロフカの間の部分は以前のストラストヌイ寺院及ポリシヨイ及マイルイ・プチンコフスキー横町間の街區の建物を取拂つて擴大される。
四〇・一五〇米の幅員を以てペトロフスキー門の廣場からトルーブナヤ廣場に至るペトロフスキー遊歩道は内側通路の偶數の側を利用して七〇米に擴張される。(車道一一・五米、遊歩道一三・二米、歩道四米)。ペトロフスキー門の附近に於いて遊歩道の出口を閉塞してゐる建物は取拂はれる。
四二・六四米の幅員を以てトルーブナヤ廣場からスレチンスキー門に至るロヂェストヴエンスキー遊歩道は全長に亘つて偶數の側を利用して七〇米に擴張される(車道一一・五米、歩道一四米、遊歩道一三・二米)。七・一〇%の現在の勾配は五%迄に緩和される。スレチンスキー門の廣場附近に於ける遊歩道の終端に存する建築物は取拂はれる。

スレチンスキー門の廣場からトウルゲーネフ廣場に至るスレチンスキー遊歩道はコスチヤンスキー横町に至る迄現在の六一・八〇米の儘とされ、コスチヤンスキー横町からキーロフ通迄外側の通路に沿ふ第九、第一番の地區及ヴオドビヤヌイ横町に沿ふ第一三、一五、一七番の地區を利用して直線に改造される。
トウルゲーネフ廣場とヴオドビヤヌイ横町間の家屋は取拂はれる。

キーロフ通からボクロフスキーに至る六五—一三五米の幅員のチストブルドヌイ遊歩道はキーロフ通とポリシヨイ・ハリトネーエフスキー横町の間にて直線に改造される。

遊歩道の終端に存し、ボクロフスキー門の廣場に面してゐる家屋は取拂はれる。

二六—三一米の幅員を以てボクロフスキー門からカザルメンヌイ横町迄のボクロフスキー遊歩道は奇数の側を利用して七〇米に擴張され、幅員四〇—五〇米のカザルメンヌイ横町からはボクロフスキー遊歩道の外側通路、ヤウズスキー遊歩道の外側及内側の通路を利用して六五米に擴張される。

ヤウズスキー門とウステインスキー橋梁間に在る地區のブリワール環狀路の一部は、ヤウズスカヤ通、ウステインスキー河岸通及ウステインスキー通路間の街區の建築物を取拂つて、ソリヤンカ通とウリヤーノフスカヤ通、インテルナツイオナリナヤ通、モスコー河及ヤウザ河の河岸通、更にウステインスキー橋梁とを結ぶ廣場に改造される。

輻輳する中心の交通を緩和する爲に、六四—七〇米の幅員を有するブリワール環狀路はモスコー河及サイモノフスキー通路附近の排水渠を跨ぐ橋梁を建設してザモスクワレーチエへ、其れは住宅街區内を通過して敷設され、環狀路に沿ふて現存する幾多の通や横町を擴大して延長される。

c サドワヤ環狀路

サドワヤ環狀路は擴大され、個々の地區に於ける通路を狭めてゐる建築物は一掃される。

クルイムスカヤ廣場からワスタニ廣場迄のズボーフスキー、スモレンスキー及ノヴィンスキー等の遊歩道は六一—九〇米の現在の幅員の儘とされる。

サドワヤ・クドリンスカヤ及ポリシヤヤ・サドワヤは現在の五〇—七五米の幅員の儘とされる。

二三—四〇米の幅員を以てゴリキー通からマールヤ・ウゴーリナヤ廣場に至るサドワヤ・トリウムフアリナヤ及サドワヤ・カレイトナヤ通はオルヂエヌイ横町とサドワヤ・トリウムフアリナヤ通の間の街區に在る建築物を取拂つて一〇〇—一一〇米に擴張される。

マールヤ・ウゴーリナヤ廣場からコルホーズナヤ廣場に至るサドワヤ・サマチーチナヤ及サドワヤ・コルホーズナヤ通(以前のサドワヤ・スハレーフスカヤ通)は現在の七五—八五米の幅員の儘とされる。

五四米の幅員を以てコルホーズナヤ廣場からクラスノヴオロツカヤ廣場に至るサドワヤ・スバスカヤ通は兩側を利用して六四米に擴張される。

四〇—五一米の幅員を以てクラスノヴオロツカヤ廣場からゼムリヤヌイ障壁の廣場に至るサドワヤ・チエルノグリヤスカヤ通はマールイ・ハリトネエフスキー横町とボクロフカ通の間に於て擴大される。

ゼムリヤヌイ障壁の廣場附近の通路に存する建物は取拂はれる。

三二—五一米の幅員を以てゼムリヤヌイ障壁の廣場からヴィソコヤウズスキー橋梁に至るサドワヤ・ゼムリヤナヤ通は街路の兩側を利用して直線に改造され、五〇—六〇米に擴張される。街路の現在の勾配は七・六%から五%迄に緩和される。

二三—二八米の幅員を以てヴィソコヤウズスキー橋梁からヴェルフニヤヤ・タガンスカヤ廣場に至るサドワヤ・ゼムリヤナヤ通は奇数の側を全長に亘つて利用して五四米に擴張される。街路の現在の勾配は七%から五%迄に緩和される。

ニーヂニヤヤ・タガンスカヤ廣場からクラスノホルムスキー橋梁迄、更に遠くマールイ・クラスノホルムスキー橋梁に至る幅員二〇—三〇米のナロードナヤ通は新橋梁の棧橋建設を考慮に入れて直線に改造され、擴大される。

三〇米の幅員を以てマールイ・クラスノホルムスキー橋梁からルーヂニク通に至るザツエプスキー障壁の通は街路の偶

敷の側を利用して六〇米に擴張される。

ルーヂニーク通からドブルーニススカヤ廣場に至るヴァロヴオヤ通及ザツイブ通は此等の通の間の街區に現存する建物を取拂ひ、其れを遊歩道に改造して幅員一四五米の一つの幹線に統一される。

ヂートナヤ通及カローヴィ障壁通は此等の通の間の街區に在る建物を取拂ひ、其れを遊歩道に改造して幅員一五〇—一六〇米の一つの幹線に統一される。

二〇—二五米の幅員を以て、オクチャプリスカヤ廣場からクルイムスキー橋梁及クルイムスキー通路に至るクルイムスキー障壁は新しいクルイムスキー橋梁の棧橋建築の爲に擴大される。

d 新ブリワール環狀路

延長二六軒、幅員六〇—八〇米の新ブリワール環狀路は次の方向に沿ふて、主としてカーメル・コリススキー障壁の線を利用して實現される。

チトーフスキー通路の反對側のハモブニチスキー河岸に新設される橋梁からロストフスキー河岸通に至る幅員七〇米の新しい通が敷設され、該通は左の地區を通過する。即ちハモブニチスキー河岸通の第六〇、六二、六四、六六番の地區、ネズヴィシスキー横町の第一八、二〇、二二番の地區、オボリンスキー横町の第一五、一七番の地區、オルスーフエフスキー横町の第二、四、六、八、一〇、一一、一二番の地區、プリューシチーフ横町の第五二、五四、五六、五八番の地區、ヴオズドヴィージェンスキー横町の第七、九、一一、八番の地區、第二ヴラーシスキー横町の第二、四、八、一〇、一二番の地區、第一ヴラーシスキー横町の第七、九、一一、一〇、一二、一四番の地區及第七ロストフスキー横町の第五、七、九、一一、二、四、六番の地區を。

ロストフスキー河岸通にはモスコイ河に架かる幅員三二米の橋梁が建設される。ベレンコフスキー河岸通に沿ふ橋梁からドロゴミロフスキー河岸通迄幅員七〇米の通が敷設され、其れはベレンコフスキー河岸通及キエフスキー驛の廣場に沿ふ第一四、一六番の地區、第一ブリヤンスキー横町の第八、一〇、一二、一四、一六、一八番の地區、ポリシヤヤ・ドロゴミロフスカヤ通の第一五、一七、一九、二二、二四、二七、二九、一八、二〇、二二、二四、二六、二八番の地區、マールヤヤ・ドロゴミロフスカヤ通の第一八、二〇、二二、一五、一七、一九、二二、二三番の地區、第二ルゴヴィ横町の第二、四、六、三、五、七番の地區、第三ルゴヴィ横町の第九、一一、一三、一五、一六、八、一〇番の地區、第四ルゴヴィ横町の第六、八、一〇番の地區、第二ポロヂンスカヤ通の第三六、三八、四〇、四七、二九、三一番の地區及ドロゴミロフスカヤ河岸通にはモスコイ河に架かる幅員三二米の橋梁がプレスニンスキー河岸通に向つて建設される。
プレスニンスキー河岸通から第五ズヴェニゴロツカヤ通に至る間に於てトリヨフゴールヌイ・ニージニー横町及第一ズヴェニゴロツキー横町が偶數の側を利用して七〇米に擴大される。
第五ズヴェニゴロツカヤ通から白ロシヤ・バルチツク鐵道に至る迄、第一ズヴェニゴロツカヤ通の偶數の側、ズヴェニゴロツカヤ・シヨスの第一八番の地區、ポリシヤヤ・ワガニコーフスカヤ通の第三八、四〇、二七、二九、三一番の地區及マールヤヤ・ワガニコーフスカヤ通の第六、八、一〇番の地區を利用して七〇米の幅員の通が新設される。
幅員一五米のワガニコーフスカヤ高架橋は三二米に改造され、高架橋からトリブーン・ペーコフ迄、二三米の幅員のペーゴワヤ通が七〇米に擴張される。

トリブーン・ペーゴフからレーニングラーツキー・シヨスに至るペーゴフヤ通及ペーゴワイ並木道は新ブリワール環状路の二本の通と化する。

レーニングラーツキー・シヨスからノーヴァヤ・バシロフカ迄に於てペトロフスキー公園の池及ノーヴァ・バシロフカ間に、遊歩道として現存の緑地を利用して幅員七〇米の幹線が新設される。

ノーヴァヤ・バシロフカとニーデニヤヤ・マスロフカの間新しい廣場が設けられる。

三八―五八米の幅員を以て、ブウトイルスキー高架橋に至るニーデニヤヤ・マスロフカは兩側を利用して七〇米迄に擴張される。

二〇―七三米の幅員を以てブウトイルスキー高架橋からシレメテエフスカヤ通に至るスウシチフスキー障壁は全長に亘り奇數の側を利用して直線に改造され、七〇米迄に擴張される。

シレメテエフスカヤ通からオクチャブリスキー障壁迄、以前のラザレーフスキー墓地の緑地層の北部、モスコイ・ルデーフスカヤ驛の地點、クレストーフスキー障壁に沿ふ偶數の地區、更にセーベルヌイ鐵道の貨物驛の地域を通過する幅員七〇米の新しい通が敷設される。

セーベルヌイ鐵道からムイチコーフスキ支線迄第一ルイビンスカヤ通の兩側を利用して七〇米の幅員の新しい通が敷設される。

ムイチコーフスキー鐵道支線には高架橋梁が建設される。

プロエズデー通からクラスノブルードナヤ通に至る迄、プロエズデー通の第五、六、八、一〇、一二番の地區、ヴェルフニヤヤ・クラスノセーリスカヤ通の第三、五、七、九、一一番の地區及クラスノセーリスキー第一横町の第一五、一七、一

九、二一、一八、二〇番の地區を通る幅員七〇米の道路が新設される。

三〇米の幅員を以て、クラスノブルードナヤ通からカザン鐵道に至るガブリーコフ通は七〇米迄に擴大される。スパルタコーフスキー横町からバウマンズスキー横町迄、スパルタコーフスキー横町の第二八番の地區及バウマンズスキー横町の第九、一一、一三、一五番の地區を通る幅員六〇米の新幹線が敷設される。

幅員一三―二二米のラヂオ通迄のバウマンズスキー横町及バウマンズスキー通は偶數の側を利用して六〇米に擴張される。一五米の幅員を有してラヂオ通からヤウザ河のサルトイコーフスカヤ通に至るサルトイコーフスカヤ通は兩側を利用して直線に改造され、六〇米迄に擴張される。

サルトイコーフスキー河岸通からクラスノカザルメンヌイ河岸に至るヤウザ河を越えて幅員三二米の橋梁が建設される。

クラスノカザルメンヌイ河岸通からゾトロシスキー障壁の第二四番の地區迄、サモカイトナヤ通の第三、八、一〇、一二、一四、一六、一八、二〇番の地區、レビンスキー横町の第二四、二二、二三、二五番の地區、ブハーリンスカヤ通の第二二、二四、二六、二八、三、五番の地區、更にタモーデンヌイ通路の第二四、二六、二八番の地區を利用して六〇米の幅員を有する新しい通が敷設される。

二〇米の幅員を以て、クールスキー鐵道に至るゾトロシスキー障壁は、ゾトロシスキー障壁に沿ふ第二〇、二二、二四、二六、二八、三〇、三二、三四及三六番の地區を利用して八〇米迄擴張される。

クールスキー鐵道を越えて計畫される高架橋からイリイチ關所に至る幅員四〇米のゾトロシスキー障壁は偶數の側を利用して七〇米迄に擴大される。

二四米の幅員を以て、イリイチ關所からアベリマノフスキー關所に至るロゴーシスキー障壁はモスコイ・ニジニゴロツキ
一貨物驛及偶數の側の地區を利用して七〇米に擴張される。

五〇―八〇米の幅員を以て、マルクシスカヤ通からクレステヤンスキー關所の廣場に至るボクロフスキー障壁は奇數の側
を利用して八〇米に擴張される。

クレステヤンスキー關所からノヴォスバスキー橋梁に至る第三クルチツキー横町及サルスカヤ通に沿ひ八〇米の幅員の環
狀路が新設される。

デルベネーフスカヤ通はノヴォスバスキー橋梁の廣場からデルベネーフスカヤ通に沿ふ第一四番の地區迄、一六米から三
〇米迄に擴張し、第二コジブニーチスキー横町は一二米から二二米迄に擴張され二本の通が敷設される。

更にリヤザン・ウラル鐵道迄、レトニコーフスカヤ通の第一三、一五番の地區を利用して幅員七〇米の新しい通が敷設さ
れる。

ドウビンスカヤ通から第一シチブコーフスキー横町に至る迄、ドウビンスカヤ通の第五一、五三、六六番の地區を利
用して幅員七〇米の幹線が新設される。

一六米の幅員を以て、セルプウホーフスカヤ通に至る第一シチブコーフスキー横町は兩側を利用して直線に改造され、七
〇米に擴張される。

セルプウホーフスカヤ通からムイトナヤ通に至る幅員一八米のアルセネフスキー横町はリュシイノーフスカヤ通
の部分に於ける兩側を利用して、更にリュシイノーフスカヤ通からムイトナヤ通迄は奇數の側を利用して七〇米に擴大さ
れる。

二〇米の幅員を以て、ムイトナヤ通からドロビヤナヤ廣場の通路に沿ふ第八番の地區迄のドロビヤナヤ廣場の通路は、ド
ロビヤナヤ廣場の市場地及ムイトナヤ通の第四番の地區を利用して七〇米に擴大される。ドロビヤナヤ廣場の通路に沿ふ第
八番の地區からシヤポロフカの第二二番の地區迄七〇米の幅員の幹線が敷設される。

一五米の幅員を以て、シヤポロフカからポリシヤヤ・カルーシスカヤ通に至るヴァイスタヴオーチヌイ横町は兩側を利用し
て七〇米に擴大される。

ポリシヤヤ・カルーシスカヤ通からの一八米の幅員のチトフスキー通路は八〇米に擴大され、ゴリキー記念公園への入口
が設けられる。

チトフスキー通路の延長には三二米の幅員を有するハモブニーチヌスキー河岸通にモスコイ河を跨ぐ橋梁が架せられる。
e 公園環狀路

各區、公園及工場間の連絡の爲に延長四四軒、幅員四〇―一五〇米の公園環狀路が新設される。而して之は次の方向に沿
ふカーメル・コリススキー環狀路の豫定線を部分的に利用してゐる。

オクルーヂヌイ鐵道の内側に沿ふベレシコーフスキー河岸通からドロゴミロフスカヤ河岸通迄、キエフスキー鐵道及建築
物の少ない地域を利用して一〇〇米の幅員の新しい通が敷設される。

プレスニンスキー河岸通からヴォスクレセンヌスキー・シヨスに至る迄建築物のない地域を経てオクルーヂヌイ鐵道に沿ひ
幅員一〇〇米の道路が設けられ、此の地域には白露バルチツク鐵道を跨ぐ高架橋が敷設される。

ヴォスクレセンヌスキー・シヨスから空地及建築物の少ない地域に沿ふロビンスキー横町の處でレーニングラツキー・シヨス
と結合させる爲に新しい通が敷設される。

更に一〇〇米の幅員を有する新しい幹線が敷設される。

レーニングラツキー・シヨスから街區を経てクラスノアルメーフカヤ及第二インワリドナヤ通の終端へ、クラスノアルメースカヤ通からアツオフスキー通路の奇數側の地區を経て、ルヂーフスキー鐵道の區劃整理地迄、更にルヂーフスキー鐵道の區劃整理地からテミリヤジエフスキー地區に沿ひ、更にアストラダムスキー第一袋路に沿ふスタールイ・シヨス迄奇數の側を利用し、之を擴大して敷設される。

ドミトロフスキー・シヨスからサベロフスキー鐵道の區劃整理地、フウトイルスキー農園を経てオクチャプリスキー鐵道と計畫中のオスタンキン驛の廣場の交叉點に至るべく敷設される。其處には鐵道を跨ぐ高架橋が設けられる。

オクチャプリスキー鐵道に架かる新計畫の高架橋からヤロスラフスキー・シヨスとの交叉點迄。

ヤロスラフスキー・シヨスからアレクセーフ村を経て、空地及建築物の少ない地域に沿ふロストキンスキー通路附近のセーベルヌイ鐵道に至る。

セーベルヌイ鐵道からヤウザ河を越え、更にボガトイルスカヤ通に架かる橋梁を有するヤウザ河迄。

ボガロツキー・シヨスから二〇米の幅員のボガトイルスカヤ通は第一プロゴナヤ通迄のボガトイルスカヤ通の奇數側の地區を利用して一〇〇米に擴大される。

幅員一米のアルイモヴァ通は一〇〇米に擴大され、更に幹線は第三プロゴナヤ通からペロストーナヤ通、ゴーゴリ通、ポリシヤヤ・チルキゾーフスカヤ通迄敷設される。

三二米の幅員を以て、ポリシヤヤ・チルキゾーフスカヤ通からハビロフスキー池迄のプレオブラデンスキー障壁は奇數の側を利用して一〇〇米に擴大される。

一二・二米の幅員を以てハビロフスキー池からセミヨーフスカヤ廣場迄のイズマイロフスキー障壁は偶數の側を利用して六四米に擴張される。

セミヨーフスカヤ廣場からイズマイロフスキー・シヨス迄イズマイロフスキー障壁に沿ふて新しい幹線が敷設される。イズマイロフスキー・シヨスからメイエローフスキー通路が直線に改造され、六五米迄に擴大される。

ソコーリヌイ丘に於ける新計畫幹線との交叉點からエントウヂアーストフ・シヨス迄ソコーリヌイ丘の建築物の少ない地域及空地を利用して六四米の幅員の通が新設される。

エントウヂアーストフ・シヨスからモスコフ・クルスク・ニヂエゴロツキー鐵道の交叉點迄、建築物を撤去された地域を利用して幅員六四米の新しい通が敷設される。

ニヂエゴロツカヤ通からカヂウホーフスキー高架橋迄、モスコフ河より南方の新しい方向に移されたオクルーヂヌイ鐵道の收用地帯に沿ふて一五〇米の幅員の新しい通が敷設される。

レーニンズキー場末街からノーヴィイ・ダニロフスキー橋梁迄シモノフスキー河岸通に沿ふて幅員五〇米の通が新設される。

ダニロフスキー河岸通からリヤザン・ウラル鐵道を越えて幅員三二米の高架橋が敷設される。

更に七〇米の幅員を有する新しい通がセルブウホーフスキー關所の廣場迄敷設される。

セルブウホーフスキー關所の廣場からシヤポロフカとの交叉點に至るセルブウホーフスキー障壁は直線に改造され、而して中央遊歩道は其の儘として、六五米から七四米迄に擴張される。

シヤポロフカからカールシスキー關所の廣場に至る第五ドンスキー通路は直線に改造され、兩側を利用して八一二〇米か

ら七〇米迄に擴大される。
オクルーヂヌイ鐵道に沿ふアンドレーフスキー袋路を経てカルーシスキー關所の廣場からネスクーチヌイ河岸通に至る迄
幅員四〇米の新しい幹線が敷設される。此の地區に於てはモスコイに架かる幅員三二米の橋梁が建設される。

第一輯 防空対策上より觀たる都市計畫施設

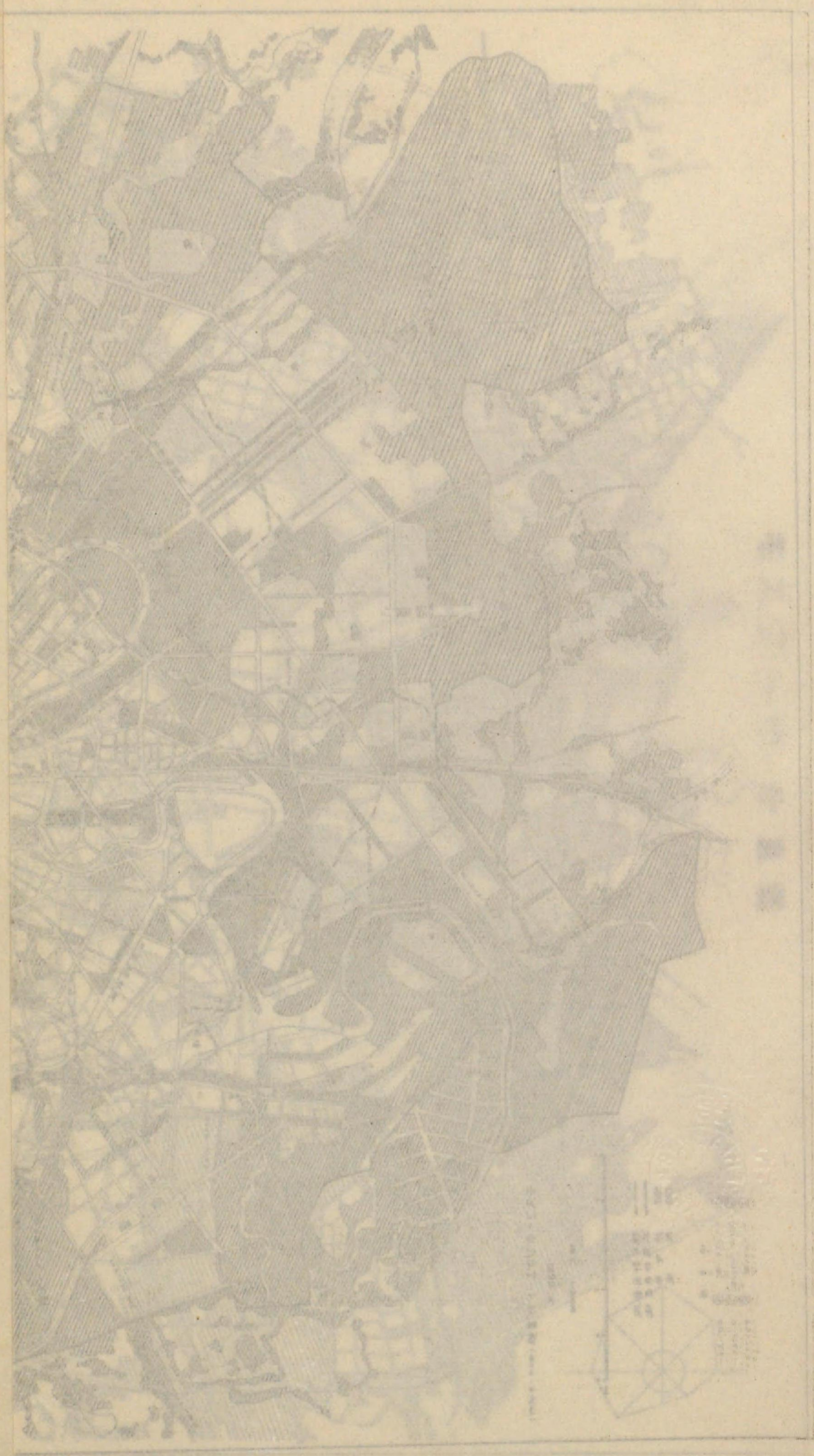
第二輯 防空と都市計畫施設

第三輯 歐洲都市計畫の變遷と戰時都市計畫の躍進

昭和十二年七月刊行

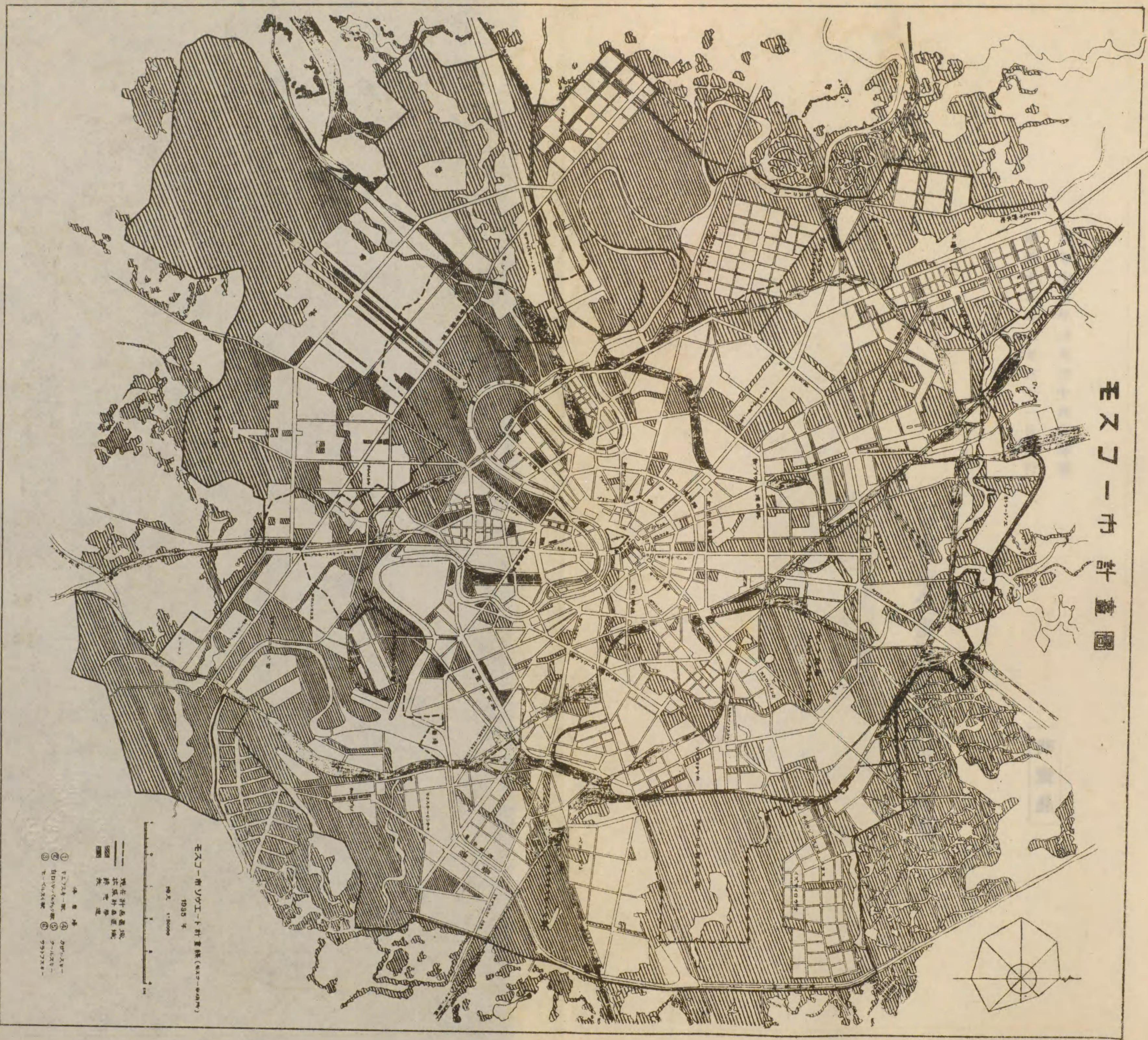
昭和十三年一月刊行

昭和十三年三月刊行



（以下は本文の抜粋と思われる）
歐洲の都市計畫は、戰前には、交通の便を以て、中心市街地を擴張し、市街地を擴大する傾向を呈した。然るに戰時になると、防空の必要から、市街地の擴張を抑制し、市街地の整備に力を入れるようになった。このように、戰時都市計畫の躍進は、防空の必要から生じたものである。...

モスクワ市計畫圖



モスクワ市計畫圖(1933年)
縮尺 1:100,000
① 戦時計畫區域
② 戦前計畫區域
③ 戦時計畫區域
④ 戦前計畫區域
⑤ 戦時計畫區域
⑥ 戦前計畫區域



昭和十三年三月二十八日印刷
昭和十三年三月三十一日發行

非賣品

東京市企畫局都市計畫課編纂

東京市神田區多町二丁目十一番地
印刷人 星野經男
東京市神田區多町二丁目十一番地
印刷所 星野印刷所
電話神田(25)三四八二番

752
27

